

令和2・3年度指導資料第40集

へき地・複式教育ハンドブック (事例編)



令和4年3月
青森県教育委員会

刊行に当たって

県教育委員会では、へき地・複式教育の充実に資するため、昭和41年度からへき地・複式教育に関わる指導資料を刊行してまいりました。平成31年3月には、平成29年告示の新学習指導要領の趣旨を踏まえ、へき地・複式教育を初めて担当する教員や経験の少ない教員が、へき地・複式教育全般についての理解を深めるため、平成29・30年度の指導資料として「へき地・複式教育ハンドブック（一般編）」を作成し、へき地及び複式学級を有するすべての小学校に配布の上、活用していただいているところです。

本書は、このハンドブック（一般編）の（事例編）として作成・刊行したものであり、一般編の内容を具体化する形で実践事例の紹介をしております。一般編と併せて活用することで、一層効果的に複式指導についての理解を深められるよう、構成しております。また、外国語教育の充実やGIGAスクール構想による児童生徒一人一台端末の活用の推進に当たり、外国語科の実践例やICT機器を活用した実践例も紹介しております。

各校におかれましては、複式学級の個に応じた指導方法を単式学級でも生かしていくために、本書を積極的に活用し、自校の実態に応じた学習指導の充実・改善に一層努められるようお願いいたします。

最後に、本書の作成に当たり、2年間にわたって御尽力いただきました作成委員並びに関係各位に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和4年3月

青森県教育庁

学校教育課長 高橋英樹

へき地・複式ハンドブック第40集〈事例編〉目次

頁数

第1章 へき地・複式教育の在り方

第1節 へき地教育の特性を積極的に生かす教育の推進	3
1 へき地教育の三特性	
2 へき地教育の特性を積極的に生かす教育へ	
第2節 へき地・複式教育の現状と課題	4
1 本県の現状	
2 課題	

第2章 へき地・複式学級における学習指導

第1節 各教科の実践例	
1 国語科学習指導実践例	9
・第3・4学年 実践事例（異単元指導 文学的な文章）	10
・第2・3学年 実践事例（異単元指導 説明的な文章）	18
2 算数科学習指導実践例	27
・第5・6学年 実践事例（異単元指導 面積・速さ）	28
・第3・4学年 実践事例（異単元指導 除法・角度）	30
・第1・2学年 実践事例（異単元指導 加法・減法）	32
・第3・4学年 実践事例（異単元指導 図形）	34
・第5・6学年 実践事例（異単元指導 角度・面積）	36
・第1・2学年 実践事例（異単元指導 加法・加減）	38
・第1・3学年 実践事例（異単元指導 加法・図形）	40
・第2・3学年 実践事例（異単元指導 増減・除法）	42
・第5・6学年 実践事例（異単元指導 面積・体積）	44
3 外国語科学習指導実践例	46
・第5・6学年 複式学級外国語科年間指導計画例	47
・第5・6学年 外国語科学習実践例（異単元指導 聞く、話す〔やり取り〕）	50
・第5・6学年 外国語科学習実践例（異単元指導 聞く、話す〔やり取り〕）	52
4 道徳科学習指導実践例	63
・第1・2学年 実践事例	64
（同教材で学年の発達段階に応じた学習を見取る視点を設定した事例）	
・第3・4学年 実践事例	66
（対象との「出会い」「見通し」「かかわり合い」の場づくりを工夫した事例）	
・第4・5学年 実践事例	70
（同内容項目、異教材を扱った実践事例）	
・第4・5学年 実践事例	72
（キャリア教育との関連を明確にし、児童の日常に重きを置いた授業づくりとその後の日常生活に生かした事例）	

・第5・6学年 実践事例 (他教科等との関連を踏まえた事例)	74
第2節 各領域の実践例	77
1 特別活動における体験活動を生かした事例	78
2 総合的な学習の時間における地域の特色を生かした実践事例	80
第3章 ICT機器を活用した実践例	
第1節 各教科の実践例	89
1 社会科学習指導実践例	
・第5・6学年 社会科における一人一台端末を活用した実践事例	90
・第5・6学年 社会科におけるデジタル教科書を活用した実践事例	92
2 複式学習における効果的なICT機器の活用	
・事例1 AI型ドリルによる習熟	94
・事例2 ホワイトボードアプリを使用したヒントの提示	94
・事例3 ICT機器を活用した学習の流れの共有	95
・事例4 ホワイトボードアプリを使用した意見交流	95
・事例5 漢字の復習	96
・事例6 算数科における前時の復習	96
第2節 特別活動の実践例	97
1 学級活動実践例	
・アンケート機能を活用した学級活動	98
2 交流活動実践例	
・オンラインによる児童集会 (いじめしま宣言)	100
・近隣校とのオンラインによる交流	101
・小中学校の代表者による話し合い活動	102
第4章 へき地学校・複式学級教育の指導Q&A・用語集	103
・へき地学校・複式学級教育の指導Q&A	105
・用語集	117

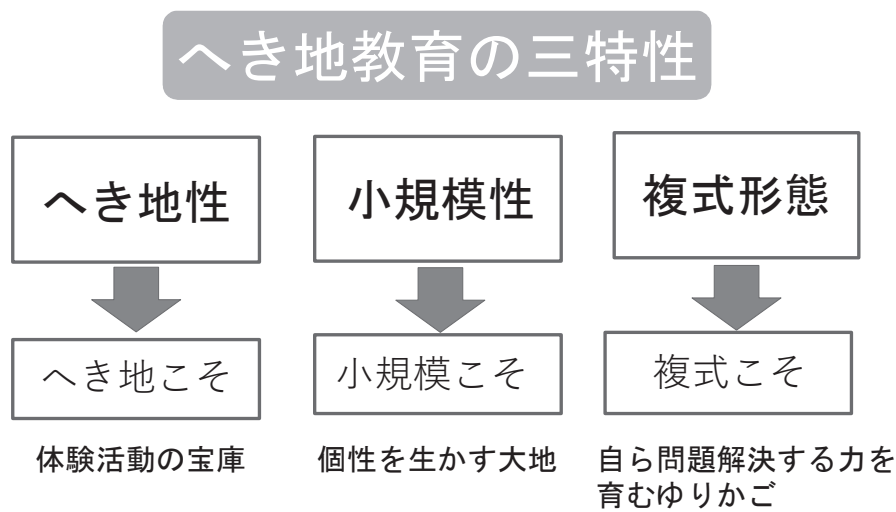
第1章

へき地・複式教育の在り方

第1節 へき地教育の特性を積極的に生かす教育の推進

1 へき地教育の三特性

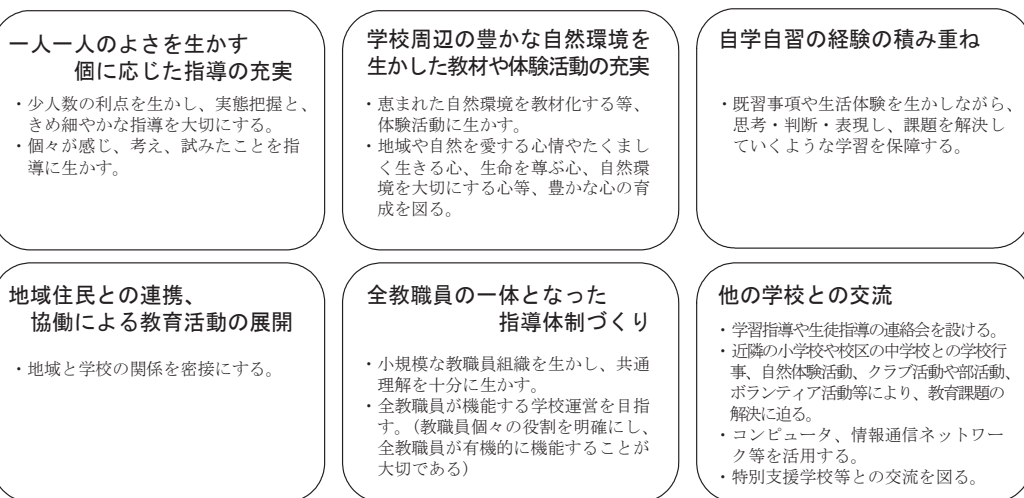
従来、へき地学校は、へき遠面からの生活的交通悪条件や小規模・複式学級であるための学習の非効率化等、マイナス面の克服に目が向けられる傾向にあった。しかし、交通や文化の発達に伴い、へき地性もかなり変わってきており、近年は、従来から言われ続けてきた「へき地にふさわしい教育」という現実順応型の教育ではなく、「へき地の特性を生かす教育」という積極型の教育が求められており、以下のようなへき地の特性を十分に生かした教育活動が展開されるよう意識が変わってきている。



2 へき地教育の特性を積極的に生かす教育へ

次のような指導や教育活動の充実に重点を置いて、へき地だからこそできる教育を目指し、へき地の特性を積極的に生かす教育への意識の転換が望まれる。

へき地教育の特性を積極的に生かす教育の推進



第2節 へき地・複式教育の現状と課題

1 本県の現状

本県のへき地学校、複式学級を有する学校では「へき地学校・複式学級だからこそできる教育」という視点に立った教育に取り組んでいる。

へき地学校のプラス面の特性を積極的に生かした次のような取組が見られる。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数のよさを生かし、児童生徒一人一人の的確な実態把握（個人票等）による、個に応じた指導の充実 ・ 地域の特性を生かした体験活動として、自然観察、自然採集、産業調査等の実施 ・ 地域と連携、協働による教育活動として、小・中学校合同の運動会、学習発表会、参観日等の行事の実施 ・ 小中併置校における、9年間を見通した教育（校内研修や職員会議において、校種間で指導内容についての共通理解を図る等）の推進
--

また、複式学級を有する学校では、個に応じた指導を行ったり、協力し合って学習できるような指導計画を立てたり、間接指導での主体的な学習を設定したり、複式少人数の長所を生かす取組が見られる。

しかし、入学児童生徒数の減少や児童生徒の転出入により、欠学年が生じたり、学年による児童生徒数の差が拡大したりすることに伴う指導の困難さを抱えている。

また、複式学級を有する学校に初めて勤務する教員からは、「複式の学習指導が難しい」、「直接指導と間接指導を充実する手立てが分からない」といった声が聞かれている。

(1) へき地学校

①青森県内のへき地等指定学校数（令和3年度）

区分	特 地	準 級 地	1 級 地	2 級 地	3 級 地	4 級 地	5 級 地	合 計
小学校	1	4	20	4	1	1	0	31
中学校	1	3	15	4	1	1	0	25

（令和3年4月1日現在）

〔参考〕 県へき地指定学校数の推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3
小学校	47	46	44	43	43	38	35	35	32	32	31
中学校	32	32	33	32	31	31	30	30	28	27	25

〔参考〕 全国へき地等指定学校数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3
小学校	2,497	2,356	2,206	2,097	2,007	1,931	1,856	1,801	1,758	1,695	1,659
中学校	1,139	1,101	1,073	1,033	1,008	997	974	949	932	899	880

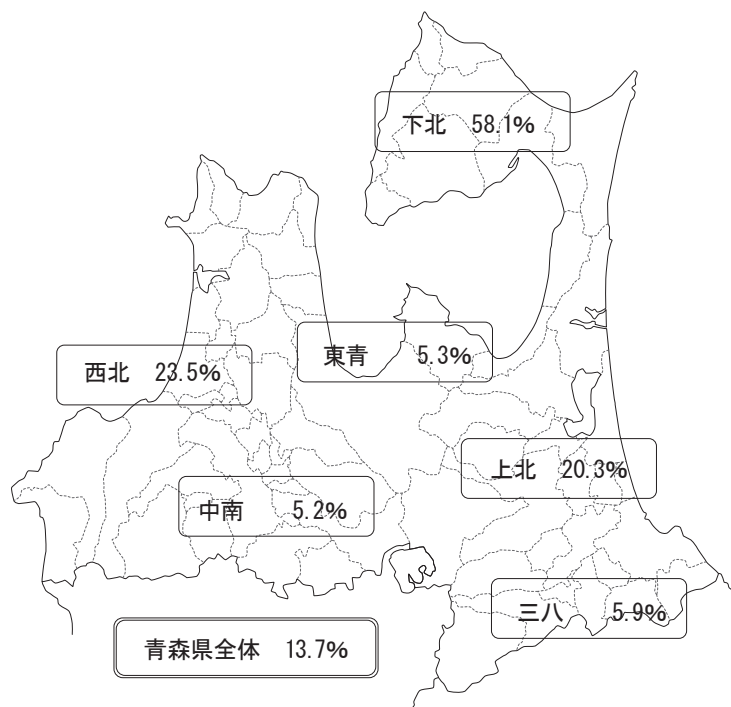
(令和3年5月1日現在：「学校基本調査」より)

②へき地等指定学校数と各地域における割合 (令和3年度)

地 域	東青	西北	中南	上北	下北	三八	全県	全国
小学校総数	50	32	51	45	18	65	261	19,336
へき地等学校	2	6	2	9	9	3	31	1,659
割合 (%)	4.0	18.8	3.9	20.0	50.0	4.6	11.9	8.6
中学校総数	26	19	26	29*	13	36	149*	10,076
へき地等学校	2	6	2	6	7	2	25	880
割合 (%)	7.7	31.6	7.7	20.7	53.8	5.6	16.8	8.7

※県立三本木高等学校附属中学校を含む

令和3年5月1日現在、全県の小学校の11.9%、中学校の16.8%がへき地等指定学校であるという状態であり、全国と比較してやや高い状況である。



管内別小・中学校のへき地指定校の割合 (令和3年度)

(2) 複式学級

①青森県内の複式学級を有する学校数及び複式学級数

	県内	割合 (%)	全国	割合 (%)
複式学級を有する小学校 (校)	54	20.6		
複式学級数 (学級)	104	3.7	4,363	1.6
	県内	割合 (%)	全国	割合 (%)
複式学級を有する中学校 (校)	4	2.6		
複式学級数 (学級)	4	0.3	162	0.1

(令和3年5月1日現在 「学校基本調査」より)

[参考] 青森県内の複式学級数の推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R元)	R2	R3
小学校	154	154	139	139	131	145	139	121	124	125	135	119	104
中学校	8	7	5	8	7	6	5	7	5	6	6	5	4

2 課題

へき地学校、複式学級では、次のような課題が挙げられる。

- ・人間関係が固定化する傾向に伴う、社会性、向上心の育成
- ・多様な価値観に触れる機会が少ないことによる「コミュニケーション能力」「思考力・判断力・表現力」等の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・複式学級の場合、異学年での馴れ合い的な生活態度に伴う、規範意識の希薄化
- ・少人数・複式学級のよりよい指導の在り方

このため、へき地学校、複式学級の特徴を生かした教育や学習方法の開発、個に応じた学習指導に引き続き努める必要がある。また、小・中学校で行われている集合学習をはじめ、交流学习や合同学習、クラブ活動や学校行事の連携などを地域の実情等に応じて推進していく必要がある。

特に、複式学級の学習指導においては、指導類型（学年別指導、同単元指導等）を踏まえた年間指導計画の作成、「わたり」と「ずらし」を関連付けた直接指導と間接指導の導入等、教員の指導力向上のため、本書の活用や校内外での研修の充実を図ることが大切である。

第2章

へき地・複式学校における学習指導

第2章
第1節 各教科の実践例

1 国語科学習指導実践例

1 単元名・教材名 場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう
「ちいちゃんのかげおくり」

2 単元の目標

- ◎場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。
- 感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。
- 細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。

3 指導に当たって

本単元では、主人公の様子や戦争中の様子を叙述に即して読み取らせながら、戦争の辛さや平和の大切さを十分考えさせ、話し合わせていく。登場人物の会話や動作に着目させ、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら、読み取ることができるようにしたい。そのために、登場人物の気持ちが分かる部分にサイドラインを引かせたり、動作化をしたりしていく。さらに、読み取った内容について、心に残ったことや自分なりに考えたことなどをまとめ、友達と感想を交流しながら、それぞれの感じ方に違いがあることに気付かせ、自分の考え方を深めさせていきたい。

本時では、二つのかげおくりを、会話や動作を表す言葉に着目しながら比較させていく。同じところと違うところにサイドラインを引き、4人で話し合う。話合いの視点を与えたり、動作化をしたりすることで、二つのかげおくりの違いを叙述に沿って理解できるようにしたい。

また、本時の導入では学習計画表を活用しながら、前時の想起と本時の確認をすることで、児童一人一人が見通しを明確にもつことができるようにする。そうすることで、課題解決に向かって、主体的に学習に向かわせる。振り返りの場面では、「今日の学習で分かったこと」を視点とし、アイテムにも触れさせることで、自分自身に身に付いた力を自覚させるようにしたい。

4 指導計画

時間	学習活動	評価規準《評価方法》	身に付ける力 (アイテム)	振り返り
1次 1時	物語を読み、あらすじをつかむ。 学習計画を立てる。	学習計画を立て、見通しをもつことができる。《発表・振り返り》	学習の見通しをもつ。	これからの学習のこと。
2時	初発の感想を書き、交流する。 意味調べをする。	物語のあらすじを捉えて、初発の感想をもつことができる。《ノート・発表》	文章を読んで、感想や考えをもつ。	友達の考えを聞いて、考えたこと。

1 単元名・教材名 読んで考えたことを話し合おう
「ごんぎつね」

2 単元の目標

- ◎文章を読んで、考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
- 考えたことが文章に表れているか見直すとともに、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。

3 指導に当たって

本単元では、登場人物の行動や気持ちの変化を叙述に即して読み取り、物語の世界にたっぷりと浸らせ、自分の考えをもたせていく。登場人物の行動、独り言、心の声、美しい情景描写に着目させ、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら、読み取ることができるようにしたい。そのために、登場人物の気持ちを吹き出しに入れたり、ごんへの一言手紙を書いたりしていく。ただの空想にならないように、書かせる時には理由や根拠をはっきりさせたい。さらに、「最後の場面でのごんの気持ちはどんな気持ちか。」「ごんを打った兵十はどんな気持ちか。」などのテーマに沿って話し合いをしたり、続きの物語を書いたりして、友達と交流することで、それぞれの感じ方に違いがあることに気付かせ、自分の考え方を深めさせていきたい。

本時では、ごんがどんなきつねなのかを話し合う。まずは、ごんがよいきつねなのか、悪いきつねなのかを尋ね、自分の意見をもたせる。ごんの行いは、とても悪いことであることをしっかりと理解させる。しかし、その行動には理由があることにも気付かせていく。

4 指導計画

時間	学習活動	評価規準《評価方法》	身に付ける力 (アイテム)	振り返り
1次 1時	物語を読み、あらすじをつかむ。 学習計画を立てる。	学習計画を立て、見通しをもつことができる。《発表・振り返り》	学習の見通しをもつ。	これからの学習のこと。
2時	初発の感想を書き、交流する。 意味調べをする。	物語のあらすじを捉えて、初発の感想をもつことができる。《ノート・発表》	文章を読んで、感想や考えをもつ。	友達の考えを聞いて、考えたこと。
2次 3時 本時	主人公の行動や気持ちを叙述から読み取り、人物像を捉える。	ごんがいたずらをする理由を根拠をもってノートに書くことができる。《ノート・発表》	登場人物の行動や気持ち、性格を、文章から読み取る。	今日の学習で分かったこと。

2次 3時 本時	一と四の場面のかげおくりの違いを読み取り、それぞれのかげおくりの名前をつける。	二のかげおくりの違いを読み取り、名前をつけることができる。《ワークシート・発表》	登場人物の行動や気持ちを、文章から読み取る。	今日の学習で分かったこと。
4時	一と二の場面の叙述から主人公の行動や気持ちを読み取る。	場面の移り変わりに着目し、叙述から行動と気持ちを読み取り、話し合うことができる。《ノート・発表》	登場人物の行動や気持ちを場面の移り変わり結び付けて読み取る。	今日の学習で分かったこと。
5時	三と四の場面の叙述から主人公の行動や気持ちを読み取る。	場面の移り変わりに着目し、叙述から行動と気持ちを読み取り、話し合うことができる。《ノート・発表》	登場人物の行動や気持ちを場面の移り変わり結び付けて読み取る。	今日の学習で分かったこと。
6時	五の場面を読んで、場面の役割について話し合う。	場面の移り変わりに着目し、段落の役割について話し合うことができる。《ノート・発表》	場面の移り変わりと結び付け、その役割を読み取る。	今日の学習で分かったこと。
3次 7時	感想文の書き方を知る。心を打たれた場面をまとめる。	心を打たれた場面を短くまとめたり、引用したりして書くことができる。《ノート》	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。	これからの学習のこと。
8時 9時	感想文を書く。	「初め」「中」「終わり」の組み立てで、感想文を書くことができる。《原稿用紙》	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。	なし(進度の確認)。
10時	感想文を交流する。単元の振り返りをする。	友達の感想文を自分と比べて聞いたり、意見をもったりすることができる。《振り返り》	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。	友達の考えを聞いて、考えたこと。

5 本時の指導 (3/10)

(1) ねらい

二つの場面の共通点や相違点について話し合う活動を通して、叙述にそって登場人物の行動や心情を読み取り、二のかげおくりの名前を付けることができる。

4時	一の場面の叙述から主人公の行動や気持ちを読み取る。	叙述から行動と気持ちを読み取り、話し合うことができる。《ノート・発表》	登場人物の行動や気持ちを、文章から読み取る。	今日の学習で分かったこと。
5時 6時	二と三の場面の叙述から主人公の行動や気持ちの変化を読み取る。	叙述から行動と気持ちを読み取り、話し合うことができる。《ノート・発表》	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて読み取る。	今日の学習で分かったこと。
7時	四と五の場面の叙述から主人公の行動や気持ちの変化を読み取る。	叙述から行動と気持ちを読み取り、話し合うことができる。《ノート・発表》	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて読み取る。	今日の学習で分かったこと。
8時	六の場面の叙述から登場人物の行動と気持ちを読み取る。	叙述から行動と気持ちを読み取り、話し合うことができる。《ノート・発表》	登場人物の行動や気持ちを文章から読み取る。	今日の学習で分かったこと。
9時	テーマに関する自分の考えをまとめる。	テーマに関する自分の考えを根拠をもってまとめることができる。《ノート》	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書く。	自分の考えが変わったり、深まったりしたこと。
10時	互いの考えの共通点や相違点に気を付けながら、グループで話し合う。	友達の考えを自分と比べて聞いたり、意見をもったりすることができる。《振り返り》	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、中心を捉え、自分の考えをもつ。	友達の考えを聞いて、考えたこと。
3次 11時 12時	続きの物語を書く。	前時までに取り出したことを生かしながら、続きの物語を書くことができる。《原稿用紙》	学習したことや想像したことなどから書くことを選んで書く。	なし(進度の確認)。
13時	続きの物語を交流する。	友達の文章を自分と比べて聞いたり、意見をもったりすることができる。《振り返り》	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、中心を捉え、自分の考えをもつ。	友達の考えを聞いて、考えたこと。
4次 14時	新見南吉の他の作品を聞き、感想を交流する。	感じたことを交流し、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。《振り返り》	話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、中心を捉え、自分の考えをもつ。	友達の考えを聞いて、考えたこと。

5 本時の指導 (3/14)

(1) ねらい

ごんの行動や気持ちについて話し合う活動を通して、いたずらをする理由を根拠をもって考え、ごんがどんなきつねなのかを一文で書くことができる。

過程	○留意点 ◎評価 →支援	予想される児童の反応	学習活動	形態
つかむ	○学習計画表を確認させる。 ○相違点を予想させ、文章をしっかりと読んで比べたいという気持ちをもたせる。 ○第一印象で自由に発言させる。 ○児童の言葉でめあてをたてる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ちいちゃんのかげおくりを読んで、感想を発表しました。 ・今日は、二つのかげおくりを比べます。 ・一つ目は楽しそうなかげおくり、二つ目は悲しそうなかげおくりだと思います。 ・家族4人の声が重なるのは同じだ。でも本当はちいちゃんしかいない。 	1 前時までの想起と本時の確認をする。 2 本時のめあてを確認する。	直接 5分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 二つのかげおくりを比べて、どんなかげおくりかを話し合おう。 </div>				
考える	○ワークシートを配布する。 ○ガイドが進行する。 ○役割読みの役割は事前に決めておく。 ○挿絵も提示する。 ○全員での話合いの場面で、話合いの視点を与える。 ○話し合ったことをもとに動作化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・お父さんとお母さんの言葉や数え方は同じだ。 ・家族4人のかげおくりと一人ぼっちのかげおくりというところが違う。 ・ちいちゃんの声の大きさや気持ちも違うのではないかな。 ・挿絵は同じだな。 ・一つ目は4人並んで、二つ目は一人でかげおくりをするんだね。 ・二つ目のかげおくりは、ちいちゃんはふらふらしているよ。 	3 かげおくりの場面の役割読みをする。(ワークシート) 4 かげおくりを比べ、ワークシートに記入する。(同じところに赤線、違うところに青線を引く。) 5 全員で話し合う。 ・自分の意見を話す。(ワークシートを使う。) ・相手の意見に対して、同じところや違うところを話す。 ・教師が用意した視点で話し合う。(人数、ちいちゃんの体調、ちいちゃんの動き、声の大きさ) 6 動作化する。	間接 18分

形態	学習活動	予想される児童の反応	○留意点 ◎評価 →支援	過程
間 接 5 分	1 前時の振り返りをする。 (視点…友達のことを聞いて考えたこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんの気持ちを読み取っていきたくて思いました。 ・ごんのつづき物語を書くのが楽しみなので、そのために場面の読み取りをがんばりたいです。 ・登場人物への一言手紙を書くのは初めてなので、がんばりたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイドが進行する。 ○本時の学習につながる振り返りを把握しておく。 	深める
直 接 18 分	2 本時の確認をする。 (学習計画表を確認する。) 3 本時のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ごんはどんなきつねなのかを話し合おう。 </div> 4 ごんは、よいきつねなのか、悪いきつねなのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「よい」か「悪い」かを挙手させる。 ・1の場面前半を読む。 ・ごんのこと分かる部分に線を引く。 ・ごんがしてきたことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、ごんがどんなきつねなのかを話し合います。 ・村人が困ることばかりしているので、悪いきつねだと思います。 ・ぼくは、よいきつねだと思います。兵十にくりや松たけを持って行ってあげたからです。 ・兵十にくりや松たけをあげたのは、悪いことをしたつぐないだから、悪いきつねからよいきつねに変わったのだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画表を確認させる。 ○まずは1の場面の前半を読むことで、ごんがしていることはとても悪いことであることを理解させる。 ○よいきつねだと言っている児童の理由を聞き、ごんによい一面もあり、今後変わっていくことを確認する。 	つかむ

ま と め る	<p>○本時の学習を想起しながら、名前を付けさせる。</p> <p>○理由も話させる。</p> <p>◎二つのかげおくりの違いを読み取り（理由）、名前を付けることができる。《ワークシート・発表》</p> <p>→ワークシートを使ったリ、動作化をしたりして、違いを考えさせる。</p> <p>○児童の言葉を使ってまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族みんなのかげおくり、一人ぼっちのかげおくり。 ・楽しいかげおくり、さみしいかげおくり。理由は、一つ目は家族みんなそろって楽しい感じがしますが、二つ目はちいちゃん一人でさみしい感じがするからです。でも、ちいちゃんは、家族の声が聞こえてうれしい気持ちもあると思います。 ・現実のかげおくり、まぼろしのかげおくり。理由は、全員が生きているかげおくりと家族がいなくて幻の声が聞こえたかげおくりだからです。 	<p>7 かげおくりの名前を付ける。 (個人→全体への発表)</p> <p>8 本時のまとめをする。</p>	直 接 15 分
<p>一つ目のかげおくりは家族みんなの楽しいかげおくり、二つ目のかげおくりは一人ぼっちのさみしいかげおくり。</p>				
深 め る	<p>○アイテムについて触れるように指示をする。(アイテム…登場人物の行動や気持ちを、文章から読み取る。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで話し合いながら動作化したら、ちいちゃんの行動や様子が分かってきました。 ・行動や会話の同じところと違うところを探したら、どんなかげおくりなのかが分かりました。 	<p>9 振り返りをする。 (視点…今日の学習で分かったこと。)</p>	間 接 7 分

6 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・振り返りや話し合いの視点を設定し、間接指導でも児童が主体的に活動を進めることができるようにする。

<p>間 接</p> <p>15 分</p>	<p>5 なぜ、ごんはいたずらばかりするのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとその根拠をノートに書く。 <p>6 グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を話す。 ・相手の意見に対して、自分の考えを話す。 ・時間があったら、二つのグループの意見を全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんは人を困らせて、面白がっていると思います。いたずらをして、楽しんでるように見えるからです。 ・ごんは、かまってほしくていたずらをすると思います。1の場面に一人ぼっちで住んでいると書いていたので、さみしいのだと思いました。 ・ごんは兵十が好きなのだと思います。10 ページでごんは、兵十を一目見て分かったからです。 	<p>○本文のどの部分からそう思ったのかを考えさせる。</p> <p>○各グループの書記がホワイトボードに書く。</p>	<p>考 え る</p>
<p>直 接</p> <p>7 分</p>	<p>7 ごんがどんなきつねなのかを一文で書く。</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ごんは、いたずらばかりしているけれど、本当はやさしいきつね。</p> </div> <p>9 ごんへの一言手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いたずらばかりしているけれど、本当はやさしいきつね。 ・ぬすつとぎつねと呼ばれているけれど、寂しがり屋のきつね。 ・ごんへ。ぼくは、君を悪いきつねだと思っていたけれど、寂しい気持ちからしてしまった行動だったんだね。 	<p>◎ごんがいたずらをする理由を、根拠をもって考えどんなきつねかを一文で書くことができる。 《ノート・発表》</p> <p>→ごんの境遇を本文から探させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の言葉を使って、まとめる。 ○書き出しをそろえて書きやすくする。 	<p>ま と め る</p>

6 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・学習計画表を用いて児童自身が本時のめあてやゴールを把握できるようにする。

第2・3学年 国語科 (異単元指導 説明文) <第2学年>

1 単元名 「たこのすみ いかのすみ」 (学校図書 2年上)

2 単元の目標

- (1) 共通、相違など情報と情報との関係について理解することができる。
【知識及び技能 (2) ア】
- (2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
【思考力、判断力、表現力等 C (1) ウ】
- (3) 文章を読んで感じた事や分かったことを共有することができる。
【思考力、判断力、表現力等 C (1) カ】
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

【単元で取り上げる言語活動】

説明文を読んで、分かったことや考えたことを述べる。

(関連：【思考力、判断力、表現力等 C (2) ア】)

3 指導に当たって

本教材は、すみを使って敵から逃げる「たこ」と「いか」の特徴に着目した説明文である。子ども達は、「両者ともすみを使って逃げる」ということは知っていても、その使い方や逃げ方までは詳しく知らないと思われる。似ているもの同士の中にも、相違点があることに気付かせることができる教材である。

指導にあたっては、既習の「問いと答え」を活用して文章の全体を捉えさせる。そして、「たこ」と「いか」の二つの事柄について比較しながら読み、同じ観点ごとに対比しながら、各事例を表にまとめていく。その後、図を使ってそれぞれのすみが違う理由について説明し合い、分かったことを伝え合う。友達に分かりやすく伝える過程で、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力を身に付けさせていきたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違など情報と情報との関係について理解している。 [(2) ア]	①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 [(1) ウ] ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 [(1) カ]	①進んで、文中の重要な語や文を選び表にまとめ、学習課題に沿って、分かったことや考えたことを述べようとしている。

1 単元名 「合図としるし」 （学校図書 3年上）

2 単元の目標

- (1) 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。
【知識及び技能 (1) カ】
- (2) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。
【思考力、判断力、表現力等 C (1) ア】
- (3) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。
【思考力、判断力、表現力等 C (1) ウ】
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

【単元で取り上げる言語活動】

説明文を読んで、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする。

（関連：【思考力、表現力、判断力等 C (2) ア】）

3 指導に当たって

本教材は、非言語的な情報手段である「合図」と「しるし」について、その機能と目的・役割について具体的な例を挙げて説明している文章である。

指導に当たっては、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えることをねらいとする。そのために、まず、問いの文や答えの文に着目して、文章全体が「はじめ・中・おわり」の三部構造であることに気付かせる。そして「中」のまとまりの中心となる言葉や、繰り返される指示語を基に「中」を整理したうえで、文章の全体を捉えさせる。事例を分類・比較・順序付けして表にまとめることで、段落相互の関係を、叙述を基に捉える力を身に付けさせたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 [(1) カ]	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 [(1) ア] ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 [(1) ウ]	①進んで、段落同士の関係を捉え、学習課題に沿って分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりしている。

5 指導と評価の計画（全6時間）

段階	主な学習活動	評価規準・評価方法等	時数
第一次	全文を読み、単元の学習計画を立てる。		1
	① ・題名から、どんな文章なのか予想し話し合う。 ・初発の感想を出し合い、単元の学習の見通しをもつ。 ・難語句の意味や新出漢字を確認する。		
第二次	事例を表にまとめ、図を用いて相違点の理由を説明し合う。		1
	② ・問いの文と答えの関係から、全体の大体をつかむ。 ③・④ ・たこ、いかそれぞれの事例の、同じところや違うところを表にまとめ、気付いたことを発表する。	【思考・判断・表現①】 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (ワークシート・発言)	2
	⑤ ・それぞれのすみの違いについて、その理由を、図を使って説明し合う。【本時】	【知識・技能①】 共通、相違などについて理解している。(ワークシート・観察) 【思考・判断・表現②】 たこといかのすみが違う理由について、図を使って、逃げ方の違いを基に分かったことを共有している。 (ワークシート・発言)	1
第三次	分かったことをまとめ、伝え合う。	【主体的に学習に取り組む態度①】	1
	⑥ ・たこといかを比べて分かったことをまとめ、伝え合う。 ・学習の振り返りをする。	表にまとめたことを基に、分かったことや考えたことを述べようとしている。 (ワークシート・発言)	

6 本時の学習

(1) 本時の目標（5／6）

たこといかのすみが違う理由について、図を使って、逃げ方の違いを基に説明し合うことができる。

5 指導と評価の計画（全6時間）


段階	主な学習活動	評価規準・評価方法等	時数
第一次	全文を読み、単元の学習計画を立てる。	【知識・技能①】 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（ワークシート）	1
	① ・全文を読んで、本文に出てきた合図やしるしについて自分の経験を想起し、気が付いたことや疑問に思ったことなどを出し合う。 ・内容の大体を捉え、単元の学習計画を立てる。 ② ・話題提示・問いの文・まとめの言葉に着目して、文章全体を「はじめ」「中」「おわり」の3つに分ける。 ・文章の書かれ方について、「ミラクルミルク」との共通点や相違点を話し合う。		1
第二次	事例を表にまとめながら、段落の要点を見付け、段落同士の関係を図式化して捉える。	【思考・判断・表現①】 段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えている。（ワークシート・発言） 【思考・判断・表現②】 目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。（ワークシート・発言）	1
	③ ・出てきた合図やしるしの事例を文章中から見付け、短冊用紙に書き出す。 ・段落ごとに書かれている合図としるしの事例を表に整理し、事例のまとまりはいくつに分けられるかを読み取る。 【本時】		1
	④ ・「はじめ」と「中」のつながりを確かめる。 ・問いの文の内容を捉える。 ・「中」の意味段落を整理しながら問いに対する答えを見付ける。 ・問いの文と「中」の段落との関係を読み取る。 ⑤ ・「中」と「終わり」のつながりを確かめる。 ・「終わり」の段落の内容を確かめ、「終わり」の働きを考える。 ・文章全体のつながりを考える。		1
第三次	理解したことを基に、感想を伝え合う。	【主体的に学習に取り組む態度①】 段落相互の関係について、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりしている。（ワークシート・発言）	1
	⑥ ・「合図としるし」を学習して分かったことや感想をノートにまとめる。 ・ペアで紹介し合う。 ・学習の振り返りをし、後続教材「見付けよう、合図としるし」への学習意欲へとつなげる。		

6 本時の学習

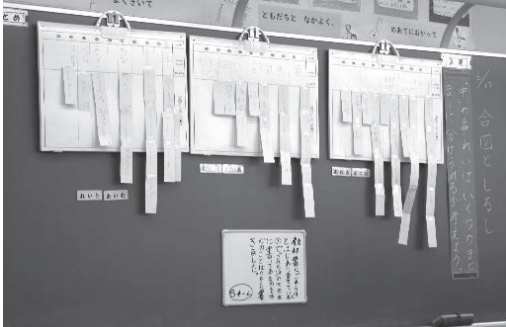
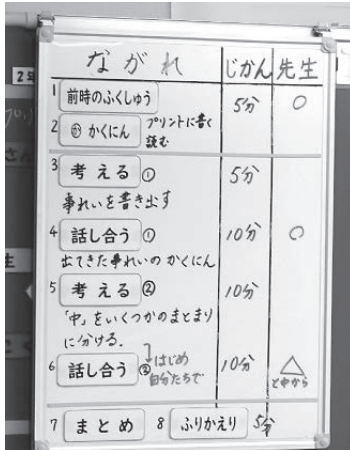
(1) 本時の目標（3/6）



事例を表に整理して、事例のまとまりはいくつに分けられるかを読み取ることができる。

(2) 本時の展開

段階	主な学習活動 ◎中心発問 ○発問 ・児童の反応	・留意点 ☆手立て □評価	形態
導入 10分	1 音読 ○全文を丸読みしましょう。 	・一文ずつリレー読みをさせる。	間接 5分
	2 前時の学習の振り返り ○昨日は、何を学習しましたか。 ・すみの違いを表にまとめた。 ・表を比べて分かったことを発表した。 ・たこといかのすみは、同じところや違うところがあった。 3 課題提示 ○課題を読みましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ④たこといかのすみは、なぜちがうのか考えよう。 </div>	・前時の振り返りから、違いに着目して本時の課題へつなげる。 ・単元や本時のゴールを明確にした指導計画で授業を進める。	直接 5分
	4 自力解決 ○これから配る図をつかって、敵が来たらどう逃げるかを考えて書きましょう。 ・敵が来たぞ。よし。煙を出して、あの岩のかげにかくれよう。 ・敵が来た。それ、分身の術だ。その隙に素早くにげよう。	・図の吹き出しに、敵が来たらどう逃げるかお話を書かせる。 ・読み取ったことを表にまとめたり図で表したりすることで、文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができるようにする。	間接 10分


(2) 本時の展開

形態	主な学習活動 ◎中心発問 ○発問 ・児童の反応	・留意点 ☆手立て □評価	段階
直接 5分	<p>1 前時の学習の振り返り ○昨日は、何を学習しましたか。 ・全体を、「はじめ」「中」「おわり」の3つに分けた。 ・ミラクルミルクと似ているところや違うところについて話し合った。</p> <p>2 課題提示 ○課題を読みましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ◎「中」の事れいは、いくつのまとまりに分けられるか考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 音読は家庭学習と朝自習で済ませる。 ミラクルミルクとの違いから、本時は「中」の事例の書かれ方に目を向けさせる。 	導 入 5分
間 接 5分	<p>3 自力解決① ○文中に出てきた合図やしるしの事例を抜き出して、カードに書きましょう。 ・玄関のチャイム、消防車や救急車・パトロールカーのサイレン ・信号機、運動会のはちまきやバトン、図書館の本のシール、 ・ゼッケン、郵便番号、電話の市外局番 ・道路標識、点字ブロック、地図記号、算数の記号</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いの考えを出し合いながらペアで解決させる。 短冊用紙に書かせる。 	展 開
直接 10分	<p>4 話し合い① ○どんな合図としるしが出てきたか、確認しましょう。</p> 	 <ul style="list-style-type: none"> ペアごとに書いた短冊用紙を発表し、落ちがないか確認させる。 	

<p>展 開 25 分</p>	<p>5 発表・話し合い ○図を使って、逃げ方を発表しましょう。</p> <p>◎なぜ、逃げるときのすみが違うのですか。 ・たこは泳ぐのが遅いから、煙のように広がるすみを出す必要がある。 ・いかは敵の目を一瞬そらせば逃げることができるから、粘り気の強い塊のようなすみを出す。</p> <p>(補助発問) ○たこは、なぜいかのようなすみだと逃げられないのですか。 ○いかの泳ぎ方について書いている文はどれですか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・いかの逃げ方は教科書に示されているため、いから発表させる。 ・たこやいかの逃げ方を動作化させ、泳ぐ速さに着目させる。 ・図や教科書の文を根拠として、すみの違いの理由をはっきりさせて話し合わせる。 <p>□【思考・判断・表現】 たこといかのすみが違う理由について、図を使って、逃げ方の違いを基に分かったことを共有している。(図・ワークシート・発言) ☆一人一人の考えを可視化し、ハンドサインを活用して児童による相互指名で発言をつないでいく。 ☆焦点を絞った発言や、考えをゆさぶる切り返しの発問を用意する。</p>	<p>直 接 15 分</p>
<p>終 末 10 分</p>	<p>6 まとめ ○今日の学習をまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>㊦ (およぐはやさがちがう) から、たこといかのすみは ちがう。</p> </div> <p>7 振り返り ○今日の学習を振り返りましょう。書いたら発表しましょう。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・()の中は自分の言葉で書かせる。 ・本時の学習内容を生かしていればよい。 ・友達のことを聞いて自分の考えがどう広がったり、深まったりしたかを書かせる。 	<p>間 接 5 分</p>

7 へき地・複式教育の観点から見た学習指導上の配慮事項

- ・ペーパーサートを活用し、「たこ」と「いか」のすみのちがいを可視化させて内容の理解を図る。
- ・話し合いでは、児童にハンドサインを活用させて相互指名をして進めるとともに、教師も問い返しをしながらコーディネートして進めるようにする。

間 接 15 分	<p>5 自力解決②</p> <p>◎合図とするしの事例は、いくつかの知らせ方の種類に分けられるでしょうか。表に整理して考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関のチャイムや消防車、救急車、パトロールカーのサイレンについては、③に書いている。④に音で区別すると書いているから、③と④はまとまりだ。 ・信号機、はちまきやバトン、図書館の本のシールについては、⑤に書いている。これらの知らせ方の種類は、「色」だ。 ・⑨の知らせ方は、「形や絵柄」かな。 ・⑩⑪は、「記号」で知らせるものかな。 ・⑫の「これらは」という言葉で、⑨⑩⑪の事例をまとめているから、⑨～⑫は一つのまとまりになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例が書かれた短冊用紙を、表中の該当する段落番号の下に貼らせていく。 ・まとまりを考えて表を線で区切り、知らせ方の種類を記入させる。 ・読み取ったことを表にまとめ整理することで、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えさせる。 ・「よさ」や「これらは」など、繰り返し出てくる言葉や指し示す言葉に目を付けさせる。 	展 開
直 接 5 分	<p>6 話し合い②</p> <p>○合図とするしの事例は、いくつかの知らせ方の種類に分けられましたか。</p> <p>(補助発問)</p> <p>○同じ知らせ方の事例をまとめる時に出てくる言葉は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのはじめの段落に事例が挙げられて、後の段落で「これらは」とまとめている。 ・まとまりの後の段落には、それぞれの知らせ方の「よさ」が書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」は4つのまとまりに分けられることを確認し、このようなまとまりを「意味段落」ということを教える。 ☆一人一人の考えを可視化し、ハンドサインを活用して児童による相互指名で発言をつないでいく。 ☆焦点を絞った発言や、考えをゆさぶる切り返しの発問を用意する。 □【思考・判断・表現】 段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 (教科書・ワークシート・発言) 	35 分
	<p>7 まとめ</p> <p>○今日の学習をまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>㊦「中」は、知らせ方のしゅるいによって(四つ)のまとまりに分けられる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・()の中は自分で書かせる。 	終 末
	<p>8 振り返り</p> <p>○今日の学習を振り返りましょう。書いたら発表し合ひましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いて自分の考えがどう広がったり、深まったりしたかを書かせる。 	5 分

7 へき地・複式教育の観点から見た学習指導上の配慮事項

- ・児童同士で考えの分類ができるように、短冊用紙に自分の考えを書いて残させる。
- ・発表やまとめの際に児童同士で考えを深めさせるために、ミニホワイトボードを活用させ、ペアでの課題解決の過程を記録として残させる。



第2章
第1節 各教科の実践例

2 算数科学習指導実践例

第5・6学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容

第5学年

第6学年

(1) 単元名 「面積」

(1) 単元名 「速さ」

(2) 本時の目標

(2) 本時の目標

一般の三角形を直角三角形に分けたり長方形に変形したりすることで、面積の求め方を考えることができる。

数直線図を用いて時間と道のりが比例関係にあることを捉えることを通して、速さと時間から道のりを求めることができる。

(3) 本時の指導

直接指導

留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援	学習活動	段階	段階	学習活動	留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> 図形集めゲームで獲得した図形の面積を調べて比べるという単元を通した活動を設定する。 	1 問題をつかむ。 ○前の時間と同じところはありますか。 ○前の時間と違うところはありますか。	直接	間	1 問題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 前時との相違点や見通しを間接指導で行い、児童同士で話し合う時間を十分に確保する。
	2 課題をつかむ。 ◎ 三角形の面積はどのように求めるのだろう。			2 課題をつかむ。 ◎ 道のりはどのように求めるのだろう。	
<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を掲示し、直角三角形の面積が求められるようになったことが分かるようにする。 課題が書かれた方眼紙を配り、書き込んだり切ったりして考えられるようにする。 	3 見通しをもつ。 ・直角三角形に分けたらよさそう。 ・長方形に形を変えられそう。	間	直接	3 見通しをもつ。 ・数直線図を使う。 ・速さの公式を使う。	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士での話し合い内容を学習リーダーに確認する。 前時で用いた数直線図を掲示する。
	4 自力解決する。 ・2つの直角三角形に分けました。 $4 \times 4 \div 2 = 8$ $4 \times 2 \div 2 = 4$			4 自力解決する。 ・数直線図で考えると、道のりは速さの5倍に当たります。 $3 \times 5 = 160$ 答え 160m	

・留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援	学習活動	段 階	段 階	学習活動	・留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援
<p>◎面積の求め方を考えることができたか。(ノート)</p> <p>□教科書を開いて考えさせる。</p> <p>・ペアで話し合い、全体で発表する。</p> <p>・自分と同じ考えや違う考えはどこか考えながら発表を聞くようにする。</p> <p>・同じ考えに赤線を引かせ、付け足しは青ペンで書かせることで、大事な言葉や考え方に目を向かせたり、ノートに交流の後が残せたりする。</p>	<p>$8 + 4 = 12$</p> <p>答え 12 cm^2</p> <p>・それぞれの直角三角形が合同なので、長方形の面積を求めてからその半分にしました。(式省略)</p> <p>・直角三角形の一部を変形して、たて2cm横6cmの長方形にしました。(式省略)</p> <p>5 伝え合う。</p> <p>・直角三角形に分けると、三角形の面積を求めることができる。</p> <p>・3つの考え方には、「$\div 2$」が共通している。</p> <p>・どんな三角形の面積も、長方形の半分になりそう。</p>	<p>直 接 10 分</p>	<p>間 接 10 分</p>	<p>・道のりを□にして速さの公式に当てはめました。</p> <p>速さ＝道のり÷時間</p> <p>$32 = \square \div 5$</p> <p>$32 \times 5 = \square$</p> <p>$\square = 160$</p> <p>答え 160 m</p> <p>5 伝え合う。</p> <p>・速さに時間をかけると求められそう。</p> <p>・時間が2倍、3倍・・・になると、道のりも2倍、3倍・・・となるので、道のりと時間は比例の関係にある。</p>	<p>・ペアで説明し合い、全体で発表する。</p> <p>・自分と同じ考えや違う考えはどこか考えながら発表を聞くようにする。</p> <p>・同じ考えに赤線を引かせ、付け足しは青ペンでかかせることで、大事な言葉や考え方に目を向かせたり、ノートに交流の後が残せたりする。</p>

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・リーダーを中心として授業が進められるように、「先生がいないときの始め方」「先生がいないときの話し合い方」のマニュアルを作成し、できるだけ児童に預けた。
- ・赤線と青線を使って児童の思考の深まりが視覚的に見えるように工夫することで豊かな表現につながった。

第3・4学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容

第3学年

- (1) 単元名 「余りとわる数の関係を調べよう」
- (2) 本時の目標
余りのある除法のわる数と余りを調べ、余りとわる数との関係を理解することができる。
- (3) 本時の指導

第4学年

- (1) 単元名 「180°より大きい角度の測り方を考えよう」
- (2) 本時の目標
180°より大きい角度の測り方を考えることができる。

直接指導

・留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援	学習活動	段階	段階	学習活動 ☐ガガイド	・留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援
<p>☐も 23個のクリを4個ずつふくろに入ると、何ふくろできて、何個あまりますか。</p> <p>☐め わる数とあまりの大きさには、どんな関係があるか見つけよう。</p> <p>〈発問〉どのようにしたら、わる数とあまりの大きさの関係を調べられるのでしょうか。</p> <p>わられる数 わる数 こたえ あまり 12÷4=3 あまり0 … 1÷4=0あまり1</p>	1 問題を知る。	つかむ	深める ・ふり返り	1 分度器を使って、180°以下の角の大きさを測定する。 ☐ガ「教科書65ページの角の大きさを測りましょう。」	<p>・教科書65ページの角度の大きさを測定し、測った角度を4人で確かめておこう、ガイドに指示する。</p> <p>・測定した角度は、教科書に書き込むようにさせる。</p>
	2 教科書51ページのだいきさんの考えを紹介する。			2 測定した角の大きさを発表し合い、確認する。 ☐ガ「角の大きさを確かめましょう。アは○○さん、お願いします。」(繰り返し)	
	3 わる数は4で、わられる数が12~1までの答えと余りを求める。			3 180°より大きい角度を分度器を使って測る方法を考えることを確かめる。	
				☐め 180°より大きい角度は、どのようにして測ればよいだろうか。	

・留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援	学習活動	段階	段階	学習活動	・留意点◎評価(方法) □C評価児童への支援
<p>・余りの大きさとわる数の大きさを比べさせる。</p> <p>◎除法では、余りはいつもわる数より小さくなっていることに気付いている。(ノートへの記述、発言、観察等)</p>	<p>4 わる数と余りの大きさの関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りは3、2、1だけ。 ・余りは3、2、1、0の繰り返し。 ・余りは、いつも4より小さい。 <p>5 めあてに沿ったまとめをする。</p>	まとめる	考える	<p>4 自分の考えをノートに書き、分度器を使って角度を測る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線を1本引いて、180°ともう一つの角に分けて測り、足すと測ることができる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈発問〉 どうしたら、180°より大きい角度を測ることができるでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、ノートに書かせる。 ・それを発表用プリントに写させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ま わり算のあまりは、いつも、わる数より小さくなる。</p> </div> <p>・余りは、わる数よりいつも小さくなることに気を付けながら計算させる。</p>	<p>6 練習問題を解く。</p> <p>① $7 \div 2$ ②・・・</p> <p>ガ「練習問題をノートに書きましょう。」</p> <p>ガ「みんなで答え合わせをしましょう。」</p>	深める	まとめる	<p>5 考えた方法を発表し合う。</p> <p>ガ「自分の考えを出しましょう。」</p> <p>6 めあてに沿ったまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人で交代しながら、自分の考えた方法を発表し合う。 ◎分度器で測定できる角度を使って、180°より大きい角度の測り方を考えている。
<p>・本時を振り返り、自分や友達の良かったところを見付けさせる。</p>	<p>7 本時を振り返り、感想を発表し合う。</p>	振り返る	振り返る	<p>7 本時を振り返り、感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り、自分や友達の良かったところを見付けさせる。

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・間接指導の際、ガイドが中心となっていた。普段からガイドを育てる意識をもって授業に臨むことが必要である。
- ・自力解決に向かって、じっくり問題と向き合う時間を確保する。

第1・2学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容


第1学年

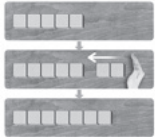
- (1) 単元名 「あわせていくつ
ふえるといくつ」
- (2) 本時の目標
数量の増加の場面について、数量の関
係に着目し、ブロックの操作や図に表す
活動を通して、加法の意味や式の表し方
を理解することができる。
- (3) 本時の指導

第2学年

- (1) 単元名 「2けたの引き算」
- (2) 本時の目標
2位数－1、2位数（繰り下がりなし、
答えに空位あり、答えが1桁）の筆算につ
いて、既習事項との共通点や相違点を明ら
かにしながら計算の仕方を考える。

直接指導

・留意点◎評価	学習活動	段階	段階	学習活動 ☐ ガイド	・留意点◎評価
<p>・問題場面の提示</p>  <p>ふえるおはなしのブロックをうごかして てみましょう。</p>	<p>1 問題場面を把握 する。</p> <p>・金魚が5ひきいま す。金魚が2ひきふ えました。金魚がふ えて7ひきになり ました。</p> <p>2 課題を把握する。</p>	導 入	導 入	<p>1 学習場面を把握 する。</p> <p>・☐問題を読む。</p> <p>① 50－30 ② 46－36 ③ 35－31 ④ 86－ 5</p> <p>2 課題を把握する。</p> <p>いろいろなひき算のひっ算のしかたを考 えよう。</p>	<p>・ガイド学習 【児童の役割】 学習リーダー 配付係、計時係 答え合わせ係</p>
	<p>3 見通す。</p> <p>・5こブロックを置 く。2こたす。</p> <p>4 解決する。 ○ブロックを動かし てみましょう。</p> <p>□□□□ □□ ↓ □□□□□□</p> <p>5 確かめる。 ○発表しましょう。</p>	展 開	展 開	<p>3 見通す</p> <p>・☐①から順番にちょ っとちがうところ をさがそう。</p> <p>・①は何十一何十にな っている。</p> <p>・②は・・・</p> <p>・③は・・・</p> <p>・④は・・・</p> <p>4 解決する。</p> <p>・☐①からひっ算に挑 戦。</p>	<p>・ヒントカード 「同じ位どうしの数 字をみて比べてみ よう」</p>

・留意点◎評価	学習活動	段階	段階	学習活動	・留意点◎評価
 <p>・「あわせて」との違い～ブロックの動かし方、図の矢印の向きを確認する。</p> <p>・「あわせて」との共通点～結果的にはブロックの集合を求めるのでたし算。</p> <p>◎数量の増加の場面について、加法の意味や式の表し方を理解することができる。(ワークシート)</p> <p>・ブロックを使わせる。</p>	<p>・5ひきいます。5おく。2ひきふえました。2をくっつける。7ひきになりました。7になる。</p> <p>○図にできるかな。</p> <p>・ブロックを図に置き換える。</p> <p>○式と答えを確かめましょう。</p> <p>・$5 + 2 = 7$ こたえ7ひき</p>	展開	展開	<p>・ガブロックを使って確かめよう。</p> <p>① $\begin{array}{r} 50 \\ -30 \\ \hline 20 \end{array}$</p> <p>② $\begin{array}{r} 46 \\ -36 \\ \hline 10 \end{array}$</p> <p>5 確かめる。</p> <p>・ガ答え合わせをしよう。</p>	<p>・ヒントカード</p> <p>「たし算のときに学習した問題」</p> <p>「ひき算のひっ算も、位ごとに計算する」</p>
	6 適用問題	展開	展開	<p>・どんなひっ算の仕方でしたか。</p> <p>例④6の下に5を書く、8の下はないからそのまま下ろす。</p> <p>6 まとめる。</p>	◎2位数-1、2位数のひっ算について、既習事項との共通点や相違点を明らかにしながら計算することができる。(ワークシート)
	7 まとめる。	終末	終末	<p>①②答えの一の位が0のときは、0を書く。(他省略)</p>	
<p>ふえるおはなしは、ブロックをかたほううごかします。ふえるときも、たしざんです。</p>	8 振り返り	終末	終末	<p>7 振り返り</p> <p>・ガふりかえり</p> <p>・発表しましょう</p>	・計算の仕方をまとめ、ゴールへの到着を伝える。
	・わかったことは、ふえるときは片手をうごかすこと、たし算。	終末	終末		

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・既習事項の掲示やワークシートが、効果的に用いられた。
- ・学習リーダーや計時係など、役割分担が自分たちで学習を進める意欲につながっていた。

第3・4学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容

第3学年

- (1) 単元名 「円と球」
- (2) 本時の目標
円を使ったいろいろな模様をかくこと
を通して、コンパスの使い方に慣れると
ともに、模様的美しさを味わうことが
できる。
- (3) 本時の指導

第4学年

- (1) 単元名 「垂直、平行と四角形」
- (2) 本時の目標
四角形の対角線の性質を調べ、四角形に
ついての理解を深めることができる。

直接指導

留意点◎評価	学習活動	段階	段階	学習活動	留意点◎評価
<ul style="list-style-type: none"> 前時で学習した円のかき方の動画を見せる。 学習リーダー中心に振り返りを発表する。 早く終わった場合は学習リーダーに問題を提示させる。 	1 既習事項の確認と練習問題を解く。	導入	導入	1 問題を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> 図形の名前を確認しながら提示する。 対角線の用語について既習事項を確認し、対角線を引かせる。
	2 前時の振り返りをする。 ・コンパスを使うと便利だった。	導入	導入	いろいろな四角形に2本の対角線をひいて、その長さや交わり方を調べましょう。 ・台形や平行四辺形がある。 ・長方形や正方形にも対角線がひける。 2 学習課題を把握する。 いろいろな四角形の対角線の特ちょうを調べよう。	
3 問題を提示する。 コンパスを使って、もようをかきましょう。 ・提示した図形が円で構成されている。	・円が重なっている。 4 学習課題を把握する。	展開	展開	3 見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 2本の対角線の長さ及び交わり方(垂直か真ん中の点で交わるか)の2点をおさえる。 具体物を準備し、切ったり折ったり書き込んだりできるようにする。
円を使ったもようのかき方を考えよう。	5 見通しをもつ。 ・前までの円のかき方			4 自力解決をする。 ・2本の対角線の長さや交わり方について調べさせる。 5 かかわり合いをする。 ・ペアで伝え合う。 ・表を見て気付いたことを話し合う。	

・留意点◎評価	学習活動	段階	段階	学習活動	・留意点◎評価																														
<ul style="list-style-type: none"> コンパスのはりを立てる場所（中心）やコンパスの開き具合（半径）は、方眼のマスをうまく活用すればよいことを、例の模様を一緒に見ながら確認し、実際にかいてみる。 ◎コンパスを用いて例示の模様やいろいろな模様をかくことができる。 	<p>とは何が違うか考えさせる。</p> <p>6 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の例示の模様をかかせる。 書き終わったら、自分のすきな模様をかかせる。 <p>7 関わり合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2人グループと3人グループで模様のかき方について説明し合う。 全体のかき方を確認し合う。 <p>8 まとめる。</p>	展開	終末	<ul style="list-style-type: none"> 全体で確認する。 <p>6 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 台形は、どの特ちょうももたない。 平行四辺形は、対角線が真ん中の点で交わる。 長方形は、対角線の長さが等しく、真ん中の点で交わる。 正方形は全ての特ちょうをもっている。 </div>																															
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td></td> <td>四角形</td> <td>台形</td> <td>平行四辺形</td> <td>ひし形</td> <td>長方形</td> <td>正方形</td> </tr> <tr> <td>2本の対角線の長さや交わり方</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="7">2本の対角線の長さが等しい</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2本の対角線の交わり方</td> <td>垂直である</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>それぞれの真ん中の点で交わる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div>			四角形	台形	平行四辺形	ひし形	長方形	正方形	2本の対角線の長さや交わり方							2本の対角線の長さが等しい							2本の対角線の交わり方	垂直である						それぞれの真ん中の点で交わる	
	四角形	台形	平行四辺形	ひし形	長方形	正方形																													
2本の対角線の長さや交わり方																																			
2本の対角線の長さが等しい																																			
2本の対角線の交わり方	垂直である																																		
	それぞれの真ん中の点で交わる																																		
<ul style="list-style-type: none"> 中心や半径に着目して、説明し合う。 		終末	終末	<p>7 練習問題をする。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎対角線に着目して、いろいろな四角形の性質を見出している。 振り返りカードに振り返りを書かせる。 																														
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中心や半径を変えると、さまざまな模様をかくことができる。</p> </div>	<p>9 振り返りをする。</p> <p>10 練習問題に取り組む。</p>																																		
<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに振り返りを書かせる。 																																			

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- 1 単位時間の授業の流れを分かるようにするために、「授業の流れ」を黒板に掲示し間接指導時次の活動の準備を進められるようにした。また、掲示物を見返すなどして、解決方法を見出すことができるようにした。
- 自力解決後に関わり合う活動を設定した。その際には、「まず～」「次に～」など、使う言葉を意識して伝えられるよう、表や話型を提示した。

第5・6学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容

第5学年

(1) 単元名 「多角形の角の大きさの和」

(2) 本時の目標

六角形の内角の和の大きさを求め、多角形の内角の和を求めるきまりについて話し合う活動を通して、多角形の内角の和の求め方を考え出すことができる。

(3) 本時の指導



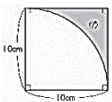

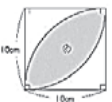
第6学年

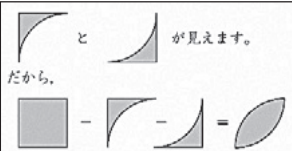
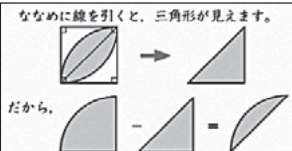
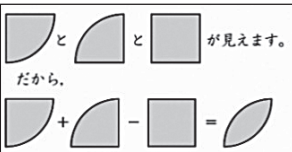
(1) 単元名 「いろいろな面積」

(2) 本時の目標

正方形と四分円を組み合わせた図形について、これまでに学習した公式を適用させて面積を求めることができる。

直接指導

・留意点◎評価	学習活動 (○ガイド役)	段階	段階	学習活動 (○ガイド役)	・留意点◎評価
<p>・事前に学習の進め方をガイドと確認しておく。</p> <p>〈発問1〉六角形、七角形、八角形・・・と角の数が増えたとき、角の大きさの和はどうなるのでしょうか。</p> <p>◎多角形の角の大きさの和は、どのように求められるか。</p>	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>・前時に学習したことが使えそうだ。</p> <p>・表に整理したら分かりやすいよ。</p> <p>・五角形は・・・だから六角形はどうか。</p> <p>・六角形で確かめよう。</p>	つかむ	前時を振り返る	<p>1 前時の復習問題を解く。</p> <p>○練習問題を解きましょう。</p> <p>○みんなで答え合わせをしましょう。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>・事前に学習の進め方をガイドと確認しておく。</p> <p>・教師がまだ来られないときは、児童だけで本時の問題を解き、進めておく。</p>
<p>・前時までの学習を生かして、六角形について確かめさせる。</p> <p>・全体場で分かりやすく説明するために、数学的表現を用いて、筋道立てて書かせる。</p> <p>・終わった児童には次の多角形を調べさせ、見通しがもてない児童にはノートなどで想起させる。</p>	<p>2 自力解決する。</p> <p>○自分の考えを書きましょう。</p> <p>(個) スケッチブック</p> <p>①三角形4つに分ける。</p>  <p>$180^\circ + 4 = 720^\circ$</p> <p>②三角形と五角形に分ける</p>  <p>$180^\circ + 540^\circ = 720^\circ$</p>	とく	つかむ	<p>◎色のついた部分の面積はどのように求めたらよいか。</p> <p>発問1 アの面積の求め方を考えましょう。</p>  <p>円の一部分の面積は、円の面積の4分の1になっているから、円の面積を4で割れば求めることができる。</p>  <p>発問2 イの面積は、どのように求めたらいいのでしょうか。</p> 	

留意点◎評価	学習活動	段階	段階	学習活動	留意点◎評価
<p>◎多角形の内角の和の求め方を、表や対角線で分けた三角形を基にして考えている。</p> <p>・考えがまとまらなかった場合は、考えてみたところまでで構わないので発表させる。</p> <p>・児童と児童、児童と教師で対話しながら多角形の内角の和の求め方を一般化し、まとめにつなげられるようにコーディネートする。</p> <p>・きまりを見付けにくいときは、表を使って確かめさせる。</p>	<p>3 六角形について考えたことを伝え合う。</p> <p>4 多角形の角の大きさの和について考える。</p>	たしかめる	とくめ	<p>3 問題を解決する。(個・グループ)</p> <p>[求め方の例]</p>  <p>ななめに線を引くと、三角形が見えます。だから、</p>  <p>と とが見えます。だから、</p> 	<p>・「面積の求め方」を考えさせるが、児童の必要に応じて面積(答え)を求めさせる。</p> <p>・つまづいている児童は、具体物を用いて操作させることで、見える形や図形を意識させる。</p> <p>・グループの発表を踏まえ、図形の求め方について自分の考えをまとめさせる。</p> <p>・実物投影機を使って発表させる。</p> <p>◎これまでに学習した公式を四分円に適用させることができる。</p>
	<p>5 4について考え方を伝え合う。</p> <p>・角の大きさの和は、180° ずつふえるよ。</p> <p>・角がふえると、三角形の数が1つふえるからだね。</p> <p>・$180^\circ \times (\square角形 - 2)$ で答えが出ると思うよ。</p> <p>6 まとめを書く。</p> <p>○まとめを書きましよう。</p>	たしかめる	とくめ	<p>4 全体で考え方を発表する。</p> <p>5 確かめる。</p> <p>6 まとめと振り返りを書く。</p> <p>○まとめを書きましよう。</p>	
<p>◎多角形の角の大きさの和は、多角形を1つの頂点から引いた対角線で三角形に分けることで、「$180^\circ \times$分けられる三角形の数」で求めることができる。</p>	<p>○十角形の角の大きさの和を求めましよう。</p>	振り返る	まとめ振り返る		
			小わたり		

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・提示資料の難易度別提示や学習教材を活用し、問題意識や学ぶ意欲をもたせるための工夫をした。
- ・学びを深めるための共感的な対話場面を設定するために、児童が互いの考えの良さに気付いたり、生かそうとしたりできるよう、教師が児童の間に入って話合いをコーディネートした。
- ・自分の考えを深めるために、「個」→「グループ」→「個」→「全体」という学習過程の中で、自分の考えと他者の考えを比較させた。
- ・「小わたり」では、両学年の学習状況を見取り、一人一人に的確な対応をした。

第1・2学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容

第1学年

- (1) 単元名 「たしざん(2)」
 (2) 本時の目標
 1位数+1位数で繰り上がりのたし算の仕方を考え理解し、計算ができる。

第2学年

- (1) 単元名 「ふえたりへったり」
 (2) 本時の目標
 加減の組み合わせされた3要素2段階の問題を加減の変化量に着目して解くことができる。

直接指導

(3) 本時の指導

【評価】◇手立て・留意点	学習活動 予想される児童の反応	段階	段階	学習活動 予想される児童の反応	【評価】◇手立て・留意点
◇7+4はどのように答えを出しますか。 (既習確認)	1 問題をつかむ。	つ か む	深 め る	1 練習問題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> 復習問題を図を書きながら解く。
◇今までと違う所は何ですか。	2 課題を把握する。 ・今日は後ろが大きい数になっている。 3 見通しをもつ。 ・前の数を分ければ計算できそう。			おにぎりが赤い箱に4こ、青い箱に8こあります。あわせて何こですか。	
◇後ろの数を動かさずに計算できそうですか。	4 課題解決に取り組む。	解 く む	つ か む	2 既習を振り返り、問題を把握する。 ・順番に計算する「順番法」 ・増えた数や減った数を先に計算する「まとめる法」	◇今までどんな勉強をしましたか。
・ブロックを動かして答えを考える。 ・ノートに図をかく。 ・1つの方法ができたなら、別な方法を考えさせる。	5 解決方法を伝え、学び合う。 ① 8はあと2で10だから、前の数の4を2と2に分ける。 8と2で10。 10と2で12。 ② 後ろの数にブロックを1つずつ移動させて10にする。 10と2で12。			さるが12匹います。そこへ6匹来ました。その後4匹帰りました。何匹になりましたか。	3 課題を把握する。 ・今日は、増えて減るの問題になっている。 4 見通しをもつ。 ・増える数が多いから増えると思う。 ・「来ました」や「帰りました」の言葉。
・交流場面では、前時の学習と比較し、被加数分解でも①と②のやり方で答えを出せることに気付かせる。				はじめの数に比べて、数が増えたか減ったかを考えよう。	

<p>◇ 2つのやり方で同じ所は何ですか。</p> <p>◇ 10をつくるのが速いのはどちらですか。</p> <p>・共通点を話し合わせる場面を設定することにより、加数、被加数どちらを分解してもよいことに気付かせる。</p>	<p>・どちらも10をつくっている。</p> <p>・ブロックを2こ動かせばいいだけだから、前の数を分けた方が速そう。</p> <p>6まとめる。</p> <p>「10といくつ」になるように計算するとよい。</p>	<p>確 解 か く め る</p>	<p>5 課題解決に取り組む。</p>	<p>・ブロックを使って答え、図、式をノートに書かせる。</p> <p>・低位の児童にはヒントカードを渡す。</p>
<p>・本時の学びを次時に結びつける。</p> <p>・被加数が5以下の問題をブロックなしで解く。</p> <p>【評価】</p> <p>・被加数分解と加数分解の両方のやり方で解くことができたか。</p>	<p>7 振り返りをする。</p> <p>・友達の話聞いて、前の数も分けてよいと分かった。</p> <p>・これからは10のまとまりを簡単に作れる数をさがしたい。</p> <p>8 適用題を解く。</p>	<p>深 確 め か め る</p>	<p>6 解決方法を伝え、学び合う。</p> <p>① $6 - 4 = 2$ $12 + 2 = 14$ 答え 14匹</p> <p>② $12 + 6 = 18$ $18 - 4 = 14$ 答え 14匹</p> <p>7まとめる。</p> <p>はじめの数以外のところを先に計算すればよい。</p> <p>8 振り返りをする。</p> <p>・友達の話聞いて、増えたり減ったりしているところだけを見ればよいことが分かった。</p>	<p>・説明する時には、ブロック操作させた後に説明させる。</p> <p>【評価】</p> <p>・変化量に着目して、増減を先に考える方法で解くことができたか。</p> <p>・本時の学びを次時に結びつける。</p>

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・1年の「たしざん」の導入場面においては、前時の学習との違い、後ろの数を動かさないことを確認する。自力解決場面では、①ブロック操作、②図をかく、③1つのやり方が終わったら、別なやり方を考えるという流れで行う。交流場面では、共通点、よりよいやり方という視点で発問する。
- ・2年の「ふえたりへったり」の導入では、既習内容（順番法、まとめる法）の確認や前時との学習内容の違いを確認する。問題文のはじめの数（12匹）を最後に掲示することにより、問題文の増減に目がいきやすく、答えの見通しがもちやすい。交流場面では、ブロック操作の後に自分の考えを説明させる。

第1・3学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容


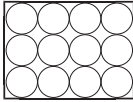
第1学年

- (1) 単元名 「たしざん(2)」
 (2) 本時の目標
 被加数が5以下のたし算を、加数を分解し被加数と足して10のまとまりを作るブロック操作を通して、図や式にかいて説明できる。
 (3) 本時の指導

第3学年

- (1) 単元名 「円と球」
 (2) 本時の目標
 円の直径に着目させる活動を通して、図式、言葉を使いながら自分の考えを説明できる。

直接指導

【評価】◇手立て・留意点	学習活動 予想される児童の反応	段階	段階	学習活動 予想される児童の反応	【評価】◇手立て・留意点
	1 前時を振り返る。 ・10のまとまりをつかって計算しました 2 問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> おにぎりが赤い箱に4こ、青い箱に8こあります。あわせて何こですか。 </div> ◇分かっていること、聞いていることは何ですか。 ◇何算になるかな。	つ	広	1 練習問題を解く。	・練習問題が終わったら答え合わせをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 4 + 8 の計算の仕方を考えよう </div> ◇何を使いますか ◇ブロックの後は何をしますか。	・赤い箱に4こです。 ・青い箱に8こです。 ・あわせて何こです。 ・たし算です。 2 課題を把握する。 ・今日は後ろが大きい数になっている。 3 本時のめあて				
・10分で自力解決させる。 ・既習を生かして考えさせる。 ・加数分解の話型を準備する。 ・図、式、答えを黒板にも書かせる。	5 自力解決をする。 ・8を6と2に分ける。 ・4に6をたして10 ・10と2で12	考	つ	2 問題をつかむ。  ・直径3こ分なので $4 \times 3 = 12$ 12 cmです。	・既習内容を確認する。 ◇円の直径は4 cm 長方形の横は、何cmですか。
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  はこの横は16 cmです。たての長さは何cmですか。 </div> ・模型を提示する	
				3 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ボールがぴったり入る箱のたての長さの求め方を考えよう。 </div>	
				4 見通しをもつ。 ・円の直径が分かれば求められます。 ・球も円の時と同じように考えられます。	◇習ったことで使えることは何ですか。

<ul style="list-style-type: none"> 話型を見ながら説明させる。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板にかいた図や式と言葉を関連させながら説明できたか。 3 + 9 などの計算も同じ方法でできることに気付かせる。 	<p>6 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 + 8 の計算は 4 は、あと 6 で 10 だから、8 を 6 と 2 に分けます。4 に 6 をたして 10 10 と 2 で 12 答えは 12 です。 	<p>深 め る</p>	<p>考 え る</p>	<p>5 自力解決をする。</p> <p>①箱の横の長さは 16 cm</p> <ul style="list-style-type: none"> 横の長さともボールの直径 4 こ分と等しい。 <p>②ボールの直径を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> $16 \div 4 = 4$ <p>③箱のたての長さを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> $4 \times 3 = 12$ 	<ul style="list-style-type: none"> 10 分で自力解決させる。 平面図をかき、式や言葉をつけて説明できるようにする。 終わったら説明の練習をさせる。
<p>4 + 8 の計算は、8 を 6 と 2 に分けて 10 のまとまりをつくと簡単に計算できる。</p>				<p>広 げ る</p>	<p>深 め る</p>
<ul style="list-style-type: none"> 分かったことやがんばりたいことを書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 声を出して答えを確かめながら計算させる。 	<p>8 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな計算も 10 のまとまりを作ると簡単に計算できる。 <p>9 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の練習問題を解く。 	<p>8 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直径の長さに目をつければいいことが分かりました。 <p>9 練習問題を解く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことや、がんばりたいことを書かせる。 		

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- 1 年の「たしざん」の導入では、既習内容、分かっていることや聞かれていること、立式の確認をする。自力解決では、時間（10 分）の指示を出し、ブロック操作の後には説明の練習をさせる。交流場面では、掲示している話型を活用させ、図や式や言葉を関連させて説明させる。
- 3 年の「円と球」の導入では、既習内容（直径を使って横の長さを考える）、実際の模型の掲示、本時で使える考え方を確認することにより、見通しをもたせる。自力解決の場面では、時間（10 分）を明示し、平面図に式や言葉を書かせる。解き終わった子には説明の練習をさせる。

第2・3学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容

第2学年

- (1) 単元名 「図をつかって考えよう」
 (2) 本時の目標
 数図ブロックの操作や図をかくことを通して、増減量に着目して答えを求めることができる。

第3学年

- (1) 単元名 「あまりのあるわり算」
 (2) 本時の目標
 ブロック操作や図をもとに話し合うことを通して、余りを切り上げて処理することができる。

(3) 本時の指導

直接指導

【評価】◇手立て・留意点	学習活動 予想される児童の反応	段階	段階	学習活動 予想される児童の反応	【評価】◇手立て・留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を確認しながら進める。 	1 前時を振り返る。 ・ 減った数をまとめて計算しました。 2 問題を確認する。 さるが12匹います。そこへ6匹来ました。その後、4匹帰りました。さるは何匹になりましたか。	導 入	導 入	1 練習問題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習リーダーが指示を出す。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1文ずつ板書し、文と絵を対応させる。 	3 めあてを確認する。 増えたり減ったりする数をまとめて考えよう。				
<ul style="list-style-type: none"> ◇何を使いますか ・ まとめて考えるやり方であることをおさえる。 	4 見通しをもつ。 ・ 図を使います。				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 順に考えるやり方しかできない児童へは矢印の図を提示してまとめて考えさせる。 	5 自力解決をする。(まとめて考える) ・ $8 - 6 = 2$ $12 + 2 = 14$ (順に考える) ・ $12 + 6 = 18$ $18 - 4 = 14$ ・ 10 と 2 で 12	展 開	導 入	2 問題を確認する。 3 5人の子どもが長いす1脚に4人ずつ座っていきます。みんな座るには、長いすが何脚いらいますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時との違い、余りを問う言葉が少ないことに着目させる。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ペアで確かめましょう。 	6 答え合わせをする。			3 めあてを確認する。 あまりをどうすればよいのかを考えて、長いすの数を求めよう。	4 問題解決の見通しをもつ。 ・ 図や言葉で説明します。

<p>7まとめる。</p> <p>増えたり減ったりしたときも、 まとめて考えることができる。</p> <p>◇練習問題を解きましょう。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使ってどれだけ増えたかを求めることができる。 		終末	展開	<p>5 自力解決をする。</p> <p>① $35 \div 4 = 8$ 残り 3 答え 8 脚</p> <p>② $35 \div 4 = 8$ 残り 3 $8 + 3 = 11$ 答え 11 脚</p> <p>③ $35 \div 4 = 8$ 残り 3 $8 + 1 = 9$ 答え 9 脚</p> <p>6 答え合わせをして例題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題に取り組む。 <p>① $11 \div 2 = 5$ 残り 1 $5 + 1 = 6$ 答え 6 回</p> <p>② $52 \div 8 = 6$ 残り 5 $6 + 1 = 7$ 答え 7 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悩んでいる児童には個別指導を行う。 <p>◇ペアで答えを確かめましょう。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りをどのように処理したらいいかを進んで考えられたか。 ・説明も考えさせる。
	<p>8 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増えたり減ったりしたときも、まとめて考えられました。 ・まとめて考えると、増えたのか減ったのか分かりやすいです。 	広げ	終末	<p>7まとめる。</p> <p>あまりがある時は、問題に合うように考えて、 答えを1増やすことがある。</p> <p>8 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりが出たときに、答えを1増やすこともあることが分かりました。 ・図をかいて、あまりをどうすればいいか分かりました。 	

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・2年の「図をつかって考えよう」の導入では、課題文を1文ずつ掲示したり、前時との学習との違いを確認したりすることにより、見通しをもたせる。自力解決場面では、順番に考えるやり方しか見つけられない児童の手立てとして、矢印をかいた図を提示したり、ペアで確かめたりする。
- ・3年の「あまりのあるわり算」の導入では、前時の学習との違い、全体で式や計算の答えの確認、問題文の「みんな座るには」の言葉に着目させることを手立てとする。自力解決場面では、悩んでいる児童に対して個別指導することや図にかいて考えさせることを手立てとする。

第5・6学年 算数科学習実践事例

1 活動の内容

第5学年

- (1) 単元名 「面積」
 (2) 本時の目標
 三角形や長方形の求積方法に帰着して考えることを通して、平行四辺形の面積の求め方を考え説明することができる。

第6学年

- (1) 単元名 「立体の体積」
 (2) 本時の目標
 複合図形の底面に気付き、話し合うことを通して、複合図形を柱体と捉え、複合図形の体積の求め方を考え説明することができる。

直接指導

(3) 本時の指導

【評価】◇手立て ・留意点	学習活動 予想される児童の反応	段 階	段 階	学習活動 予想される児童の反応	【評価】◇手立て ・留意点
◇前時の学習で分かったことは何ですか。	1 前時を振り返る。 ・三角形の面積＝ 底辺×高さ÷2 2 問題をつかむ。 平行四辺形の面積を求めましょう。	つ か む	広 げ る	1 練習する。	・円柱の体積を求めさせる。 ・練習問題が終わったら答え合わせをする。
・問題を掲示する。	3 めあてをもつ。 平行四辺形の面積をいろいろな考え方で求めよう。				
◇どんな形にすればいいですか。 ・既習内容を確認する。 ・キーワードを板書する。	4 見通しをもつ。 ・三角形に分ける。 ・長方形にする。				
◇時間は8分です。早く終わったら別な方法を考えましょう。説明の練習しましょう。 ・ワークシートやヒントカードを準備する。 ・図と式と言葉を関連させながら発表させる。 ・使った長さに色を付ける。	5 自力解決をする。 ①対角線で2つの三角形に分割する。 ②直角三角形を動かして長方形にする。 ③台形を動かして長方形にする。 6 発表する ① $6 \times 4 \div 2 = 12$ $12 \times 2 = 24$ 24 cm^2 ② $4 \times 6 = 24$ 24 cm^2 ③ $4 \times 6 = 24$ 24 cm^2	考 え る	つ か む	2 問題をつかむ。 複雑（L字）な形の立体の体積を求めましょう。	・前時の四角柱の図を掲示しておく。
【評価】 ・面積の求め方を考え、説明することができたか。				3 めあてをもつ。 複雑な形の立体の体積の求め方を考えよう。	4 見通しをもつ。 ・四角柱に分ければいい。 ・大きい四角柱から小さい四角柱を引けばいい。 ・底面積×高さで求められる。

◇共通していることは何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> 図形を分けたり、動かしたりしていることです。 三角形や長方形の公式を使っていることです。 	深 考	5 自力解決をする。 ①立方体と直方体に分ける。 ②直方体から立方体を引く。 ③底面積×高さで求める。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに補助線を書かせる。 計算の負担軽減のため、電卓を使用させる。
	7まとめる。 対角線を引いて三角形に分けたり、動かして長方形にしたりすることによって、平行四辺形の面積を求めることができる。	め え る	6 発表する。 ① $5 \times 5 \times 5 = 125$ $5 \times 10 \times 5 = 250$ $125 + 250 = 375$ 375 cm^3 ② $5 \times 10 \times 10 = 500$ $5 \times 5 \times 5 = 125$ $500 - 125 = 375$ 375 cm^3 ③ $5 \times 5 \times 3 = 75$ $75 \times 5 = 375$ 375 cm^3	【評価】 <ul style="list-style-type: none"> 複合図形の体積の求め方を考え、説明することができたか。 模型を示しながら説明させる。 答えが同じになることから、底面積×高さで求められることをおさえる。
・自己評価を行う。	8 振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 三角形や長方形の公式を使えば、平行四辺形の面積を求められることが分かった。 	深 め る	7 まとめる。 複雑な形の立体の体積も「底面積×高さ」で求めることができる。 8 振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 複雑な形でも「底面積×高さ」で求められることが分かりました。 	

2 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- 5年の「面積」の導入では、既習内容を確認したり、キーワードを板書したりすることにより、見通しをもたせる。自力解決の場面では、終わったら別なやり方を考える、使った長さに色をつける、説明の練習などの指示を出すことにより、間接指導でも児童が集中して取り組めるようにする。
- 6年の「立体の体積」の導入では、既習内容の確認、実際の模型を提示することによって、児童に見通しをもたせる。自力解決の場面では、計算の負担を軽減するために電卓を使用させ、図に補助線を引かせたり、模型を使って説明させたりする。

第2章
第1節 各教科の実践例

3 外国語科学習指導実践例

第5・6学年複式学級外国語科年間指導計画例

5・6年生の外国語科の年間指導計画をA・B年度で作成している。同単元同内容異程度及び同単元同内容同程度の教材を適切に配置し、6年生の教材を扱う場合、語彙・表現を5年生の児童の実態を踏まえて選択する等、配慮する。

A年度		B年度			
学期	単元名・目標	時数	学期	単元名・目標	時数
【同単元同内容同程度】		【同単元同内容同程度】			
・A年度1学期は6年生の教材を中心に扱う。語彙は5年生の児童の実態を踏まえて選択するなどの配慮をする。		・B年度1学期は5年生の教材を中心に扱う。			
1 学 期	① Hello, friends. (5年 Unit 1) ・名前や好きなもの・ことを伝えることができる。	8	1 学 期	② When is your birthday? (5年 Unit 2) ・誕生日やほしいものを伝えることができる。	8
	③ Let's go to Italy. (6年 Unit 3) ・行ってみたい国や地域と、その理由を説明することができる。	8		③ What do you want to study? (5年 Unit 3) ・学びたい教科やなりたい職業を伝えることができる。	8
	○ Check Your Steps 1 外国の人にメッセージを伝えよう (6年) ・外国の人にメッセージを伝えることができる。	2		○ Check Your Steps 1 外国の人に自己紹介をしよう (5年) ・初めて会う外国の人に自己紹介をすることができる。	2

学期	A・B年度共通単元名・目標	時数	【同単元同内容異程度】
2 学 期	④ Summer Vacations in the World (6年 Unit 4) ・世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介することができる。	4	・2学期前半は、「過去形」「三人称」を2年間をかけて繰り返し行う。
	⑤ He can bake bread well. (5年 Unit 4) ・地域の身近な人を紹介することができる。	4	

A年度			B年度		
学期	単元名・目標	時数	学期	単元名・目標	時数
【同単元同内容同程度】 ・ A年度2学期は5年生の教材を中心に扱う。			【同単元同内容同程度】 ・ B年度2学期は6年生の教材を中心に扱う。 そのため、語彙は5年生の児童の実態を踏まえて選択するなどの配慮をする。		
2 学 期	⑥ Where is the post office? (5年 Unit 5) ・ 場所をたずねたり、答えたりすることができる。	8	2 学 期	⑥ We all live on the Earth. (6年 Unit 5) ・ 地球に暮らす生き物について考えそのつながりを発表することができる。	8
	⑦ What would you like? (5年 Unit 6) ・ ていねいに注文をしたり、値段をたずねたりすることができる。	8		⑦ Let's think about our food. (6年 Unit 6) ・ 食材を通じて世界のつながりを考え、メニューを発表することができる。	8
	○ Check Your Steps 2 地域のおすすめを紹介しよう (5年) ・ あなたの地域のおすすめを外国の人に紹介することができる。	2		○ Check Your Steps 2 世界と日本のつながりを紹介しよう (6年) ・ 世界と自分のつながりを発見して紹介することができる。	2

A・B年度共通					
3学期は基本的にはA・B年度共通だが、単元末の言語活動では、学年に応じた語彙や表現に触れさせたり、6年生には中学校へのつながりを意識したスピーチを行わせたりする等の工夫する。	学期	A・B年度共通単元名・目標	時数	【同単元同内容異程度】	
	3 学 期	⑧ Welcome to Japan. (5年 Unit 7) ・ 日本の四季や文化について紹介することができる。	4	・ 3学期の単元は、2年間をかけて繰り返し扱う。 ・ ⑨⑩は6年生を中心に指導する。	
		⑨ My Best Memory (6年 Unit 7) ・ 小学校生活の思い出を伝え合うことができる。	4	・ 6年生にとって小学校生活のまとめの単元であることから、単元末のスピーチなどは6年生を中心に扱う。	

	<p>⑩ Who is your hero? (5年 Unit 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あこがれの人について発表することができる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末の言語活動を、5年生時は「6年生を紹介する」、6年生時は「自分のヒーローを紹介する」などとし、6年生が前年度よりもさまざまな語彙や表現に触れることができるようにする。
	<p>⑪ My Future, My Dream (6年 Unit 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活や将来について考え、夢を発表することができる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生にとって中学校へのつながりの単元であることから、単元末のスピーチなどは6年生を中心に行う。

学期	単元名・目標	時数	学期	単元名・目標	時数
<p>【学年別の内容による指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学期後半の単元は、各学年で別の教材を用いて学習する。帯活動やふり返りの時間、単元末の発表などでは、5・6年生が一緒に活動することができるように配慮する。 					
A	◎ Check Your Steps 3 「日本のすてき」を紹介しよう	2	A	◎ Check Your Steps 3 寄せ書きのメッセージを伝えよう	2
B	①英語の先生に「日本のすてき」を紹介することを想定し、人や行事、食べ物などから伝えたいことを選び、紹介ガイドの1ページを作り、スピーチをする。		B	①卒業記念としてクラスみんなに伝えたいメッセージを寄せ書きに書く。	
5	②クラス全員の日本紹介ガイドのページを集めてガイドブックにする。		6	②メッセージを紹介するスピーチをする。	
年	・「日本のすてき」を英語の先生に紹介することができる。		年	・クラスみんなに寄せ書きのメッセージを伝えることができる。	

参考 [https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/eigo/data/eigo_keikaku_fukushiki.pdf]

この年間指導計画に基づいて作成された外国語科の学習指導案が次ページから掲載されているので、参考にさせていただきたい。

第5・6学年 外国語科学習実践例（児童数11名）

1 単元名

第5学年 Unit 1 Hello, friends. (NEW HORIZON Elementary ⑤)
 第6学年 Unit 1 This is me! (NEW HORIZON Elementary ⑥)

2 単元の目標

名前や好きなもの・こと等を伝えることができる。

3 本時の指導

第5学年（1／8）

第6学年（1／8）

(1) 目標

・名刺を作る活動を通じて、自分の名前のつづりについて伝え合うことができる。

【思考・判断・表現】

(1) 目標

・学習した語句や表現から言いたいことを選択したり付け加えたりして、プロフィールカードをかくことができる。【思考・判断・表現】

(2) 展開

(2) 展開

☆評価〈方法〉 →個別の支援 ・留意点	学 習 活 動	直 接 間 接	学 習 活 動	☆評価〈方法〉 →個別の支援 ・留意点
	■教師の発問・指示等 □児童リーダーの発言 ・予想される児童の反応等		■教師の発問・指示等 □児童リーダーの発言 ・予想される児童の反応等	
・既習の体調の表現、天気について聞く。 ・カラオケ機能を使って歌わせる。 ・チャンツを流し、一緒に歌わせる。 ・PD の p.6 (色) を参照させる。	1 挨拶をする。 ■ How are you today? How is the weather? 2 元気に歌う。 ■ Let's Sing Nice to meet you. 3 チャンツを聞き、歌う。 ■ Let's Chant How do you spell your name? What sport do you like? 4 質問に I like (種目) . と答える。 ■ Small Talk What color do you like? ・ I like (色) .	共 通 導 入	1 挨拶をする。 ■ How are you today? How is the weather? 2 元気に歌う。 ■ Let's Sing Nice to meet you. 3 チャンツを聞き、歌う。 ■ Let's Chant How do you spell your name? What sport do you like? 4 質問に I like (種目) . と答える。 ■ Small Talk What color do you like? ・ I like (色) .	・既習の体調の表現、天気について聞く。 ・カラオケ機能を使って歌わせる。 ・チャンツを流し、一緒に歌わせる。 ・PD の p.6 (色) を参照させる。
・Unit1 の巻末コミュニケーションカードを用意させる。 ・分からない場合は、本体 p.85 を見るように指導する。 ・ALT (またはリーダー)、指導者用デジタルブックを使ってモデル会話する。 ・名前のつづりを言うときは、カードを相手に見せながら言うように指示する。 ☆[思考・判断・表現] 名刺を作る活動を通じて、自分の名前の	5 Step 1 ■名刺カードを作りましょう。 ・名刺カードに自分の名前を大文字で書く。 ■モデル会話をするので、よく聞きましょう。 ・モデルのやりとりをしっかりと聞く。 ■モデルにならってペアで会話しましょう。 ・ペアを組んで、名前のつづりをたずね合う。	展 開 I I	5 Step 1 □教科書の Emily についての文を読みましょう。 ・音声の後について読む。 □「わたしのせりふ」を読みましょう。 ・声に出して読む。 □教科書を交換して、友達の「わたしのせりふ」を読みましょう。 ・横ペア、前後ペアで声に出して読む。	・リーダー学習で進めさせる。 ・指導者用デジタルブックを使わせる。

つづりについて伝え合っている。(発表、観察)					
<ul style="list-style-type: none"> リーダー学習で進めさせる。 同じカードに自分の好きなスポーツの絵を描かせる。 ALT (またはリーダー) とモデル会話を行う。 モデルになってペアで会話をさせる。 次時にも使用するため、きちんと保管させる。 	<p>6 Step 2</p> <ul style="list-style-type: none"> □名刺カードの名前の下に好きなスポーツの絵を描きましょう。 自分の好きなスポーツの絵を描く。 □ペアを組んで、好きなスポーツについてたずね合う。 モデルになってペアで会話する。 	展 開 II	展 開 II	<p>6 Step 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ヒントを読んで、復唱しましょう。 教科書のヒントを読み、復唱する。 ■「わたしのせりふ」を膨らませましょう。 「プロフィールカード」を作成する。 「プロフィールカード」を見せながら練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のヒントを読み、復唱させる。 ヒントを手がかりに p.86 に「わたしのせりふ」に追加の文を書くように指示する。 巻末の「プロフィールカード」を切り取らせる。 追加の情報も入れてカード完成させる。 カードを見せ合いながら、横、前後のペアで練習させる。 <p>☆[思考・判断・表現] 名前や出身地、好きなもの・ことなど、学習した語句や表現から言いたいことを選択したり付け加えたりして、プロフィールカードをかいている。(発表、観察)</p>
<ul style="list-style-type: none"> アルファベットチャートで文字の名前を確認させる。 p.87 の大文字の O ~ T・U ~ Z を、名前を言いながら書かせる。 <p>☆ [知識・技能] 大文字の O ~ T・U ~ Z を書くことができる。</p>	<p>7 Sounds and Letters</p> <ul style="list-style-type: none"> ■大文字の O ~ T・U ~ Z の名前を言いながら書きましょう。 	展 開 III		<p>7 Sounds and Letters</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ G g の練習問題をして、大文字を書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> p.90 の G g の音の練習問題をさせ、文字を書かせる。 Sound Tennis や消しゴムゲームを行わせる。 <p>☆ [知識・技能] G g の音に慣れ親しみ、大文字と小文字を書いている</p>
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習をまとめ次時につながる振り返りをさせる。 	<p>8 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■今日の振り返りを書きましょう。 振り返りカードに記入する。 ■発表しましょう。 記入したことを発表する。 <p>9 あいさつ</p>	共 通 終 末		<p>8 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■今日の振り返りを書きましょう。 振り返りカードに記入する。 ■発表しましょう。 記入したことを発表する。 <p>9 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習をまとめ次時につながる振り返りをさせる。

参考 https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/eigo/data/eigo_keikaku_fukushiki.pdf

4 へき地・複式教育の観点から見た学習指導上の配慮事項

- 自己紹介の仕方は当該学年の教材を使って行い、異程度同内容で目標等を設定する。

第5学年 外国語学習指導案

1 単元名 Where do you want to go? (JUNIOR TOTAL ENGLISH 5 Lesson 9)

2 単元の目標

互いのことをよく知るために、修学旅行で行きたい場所についての見通しをもち、6年生が修学旅行で行った場所やその場所を選んだ理由など具体的な情報を聞き取ったり、自分が行きたい場所やその理由について伝え合ったりできる。また、視覚情報や音声を元にして、行きたい場所やその理由についての表現を書き写すことができる。

3 指導に当たって

5年生は、「Why?」という表現について学ぶのは今回が初めてである。5・6年生ともに「Why?」の表現や答え方にある程度慣れ親しんだ後、場面をしっかりと設定し、互いにインタビューする活動を通して、相手意識をもって言語活動に取り組ませたい。

本時では、6年生が、修学旅行で行った場所を紹介した後、来年度修学旅行に行く5年生に対して、「どこに行きたいか。なぜか。」と尋ね、5年生がそれに対して答えるという活動を設定した。5年生から6年生へは、「中学校の修学旅行でどこへ行きたいか。なぜか。」を尋ねる活動を設定した。

また、5年生同士で、再び行きたい場所について、発表したり理由を尋ね合ったりする活動を設定し、さらに表現に慣れ親しむことができるようにした。

4 指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> 行きたい場所やその理由を尋ね合う表現について理解している。 <技能> 行きたい場所やその理由を尋ね合う表現について聞き取る技能を身に付けている。	相手の行きたい場所やその理由について、具体的な情報を聞き取っている。	相手が行きたい場所とその理由について、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと(やり取り)	<知識> 行きたい場所やその理由を尋ね合う表現について理解している。 <技能> 行きたい場所やその理由を尋	来年の修学旅行で訪問する場所の参考にするために、行きたい場所や理由を尋ね合っている。	来年の修学旅行で訪問する場所の参考にするために、行きたい場所や理由を尋ね合おうとしている。

第6学年 外国語学習指導案

1 単元名 Where do you want to go? (JUNIOR TOTAL ENGLISH 6 Lesson 6)

2 単元の目標

互いのことをよく知るために、中学校の修学旅行で行きたい場所について尋ね合って具体的な情報を聞き取ったり、自分が行きたい場所やその理由について伝え合ったりできる。また、5年生が来年度修学旅行で行きたい場所やその理由を考えることができるように、修学旅行の自主研修で行った場所についてその場所を選んだ理由を含めて伝えることができる。さらに、視覚情報や音声を元にして、行き方を伝える表現を読んで書き写すことができる。

3 指導に当たって

6年生は、すでに「Where do you want to go?」という表現について学習している。本単元では再度行きたい国や場所とその理由を扱うと同時に、道案内の表現についても扱う。

5・6年生ともに「Why?」の表現や答え方にある程度慣れ親しんだ後、5年生に修学旅行で行きたい場所と理由を尋ねる場面を設定し、伝え合う必要感のある活動を通して、5年生はより理解できるよう、6年生は自分の思いを十分に表現できるような言語活動に取り組ませたい。

本時では、6年生が、修学旅行で行った場所を紹介した後、来年度修学旅行に行く5年生に対して、「どこに行きたいか。なぜか。」と尋ね、5年生がそれに対して答えるという活動を設定した。5年生から6年生へは、「中学校の修学旅行でどこへ行きたいか。なぜか。」を尋ねる活動を設定した。

さらに6年生同士で、修学旅行で行ったことのある場所への道案内をする活動を設定し、道案内の表現についても理解し、伝え合うことができるようにした。

4 指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> 道案内の表現や行きたい場所、その理由を尋ね合う表現について理解している。</p> <p><技能> 道案内の表現や行きたい場所、その理由を尋ね合う表現について聞き取る技能を身に付けている。</p>	相手の行きたい場所やその理由について具体的な情報を聞き取っている。	相手が行きたい場所とその理由について、具体的な情報を聞き取ろうとしている。

ね合うやり取りをする技能を身に付けている。		
-----------------------	--	--

※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

(2) 指導と評価の計画

時	目標◆と主な活動	★留意点 ◎評価
1	<p>◆行きたい場所を尋ねたり答えたりする英語を聞き、その内容が分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかやり取りする。 ・Let' s Listen, Let' s Chant ・Where do you want to go? I want to go to ～.の表現を使ってゲームをする。 ・P120 ① ・振り返り 	<p>★チャンツは役割を変えたりしながら繰り返し聞かせたり言わせたりし、理解、定着させる。</p> <p>★ゲームを通して繰り返し尋ねたり答えたりする表現に触れさせ、慣れ親しませる。</p>
2	<p>◆行きたい国を尋ねたり伝えたりすることができる。行きたい国を表す文を読んで、書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかペアでやり取りする。 ・Let' s Listen, Let' s Chant ・P121 ②③④ ・振り返り 	<p>★チャンツは役割を変えたりしながら繰り返し聞かせたり言わせたりし、理解、定着させる。</p> <p>★声に出しながらワークシートをなぞったり書き写したりするようにさせる。</p>
3	<p>◆行きたい場所やその理由を聞いて言うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかペアでやり取りする。 ・Let' s Listen, Let' s Chant ・P122①② ・Activity－インタビュー活動（ワークシート） ・振り返り 	<p>★理由を尋ねる新しい表現に慣れさせるために、ゲームを通して繰り返し練習をする。</p> <p>★実際に行きたい国やその理由を尋ねるインタビュー活動をする。</p>
4	<p>◆行きたい場所を尋ねたり、その理由も含めて答えたりすることができる。理由を尋ねる表現を読んで、書き写すことが</p>	<p>◎行きたい場所とその国の表現を聞いて概要が分かる。</p>

話すこと(やり取り)	<p><知識> 行きたい場所やその理由を尋ね合う表現について理解している。</p> <p><技能> 行きたい場所とその理由を尋ね合うやり取りをする技能を身に付けている。</p>	中学校の修学旅行で行きたい場所や理由を尋ね合っている。	中学校の修学旅行で行きたい場所や理由を尋ね合おうとしている。
書くこと	<p><知識> 道案内の際に使う尋ねる表現や答える表現を理解している。</p> <p><技能> 道案内の際に使う尋ねる表現や答える表現を書き写す能力を身に付けている。</p>	道案内の表現や行きたい場所、その理由を尋ねる表現を正しく書き写している。	進んで行きたい場所を尋ねる表現を書き写そうとしている。

(2) 指導と評価の計画

時	◆目標 ・主な活動	★留意点 ◎評価
1	<p>◆行きたい場所を尋ねたり答えたりする英語を聞き、理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかやり取りする。 ・Let' s Listen, Let' s Chant ・Where do you want to go? I want to go to ~. の表現を使ってビンゴゲームをする。 ・振り返り 	<p>★チャンツは役割を変えたりしながら繰り返し聞かせたり言わせたりし、理解、定着させる。</p> <p>★ゲームを通し繰り返し尋ねたり答えたりする表現に触れさせ、慣れ親しませる。</p>
2	<p>◆行く場所への指示を言い道案内することができる。行き方を伝える表現を読んで、書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかやり取りする。 ・Let' s Listen, Let' s Chant ・P82②、P83③④ ・Activity-インタビュー活動(ワークシート) ・表現を書き写す。 ・振り返り 	<p>★チャンツは役割を変えたりしながら繰り返し聞かせたり言わせたりし、理解、定着させる。</p> <p>★声に出しながらワークシートをなぞったり書き写したりするようにさせる。</p>
3	<p>◆行きたい場所を尋ねたり道案内したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 	<p>★チャンツは役割を変えたりしながら繰り返し聞かせたり言わせたりし、理解、定着させる。</p>

	<p>きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかやり取りする。 ・Let' s Listen, Let' s Chant ・P123③Activityーインタビュー活動（ワークシート） ・表現を書き写す。 ・P123④⑤・振り返り 	<p>◎行きたい場所やその理由を表す表現を読んで概要をとらえることができる。</p> <p>＜行動観察＞</p>
5 本 時	<p>◆行きたい場所をその理由を含めて尋ね合ったり、行きたい場所を理由も含めて書き写したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・6年生は修学旅行について発表する。 ・5年生は、行きたい場所と理由をワークシートに書き写す。 ・6年生から5年生へ、「修学旅行で行きたい場所はどこか。」尋ねる。（インタビュー活動①） ・HRTがいくつかの県の名所と名物を紹介する。 ・5年生から6年生へ、「中学校の修学旅行で行きたい場所はどこか。」尋ねる。（インタビュー活動②） ・振り返り 	<p>◎相手の考えたことを理解したり自分の考えを理解したりしてもらうために、行きたい場所や理由を尋ね合ったりしている。</p> <p>＜行動観察・ワークシート＞</p> <p>◎行きたい場所を伝える表現を書き写すことができる。</p> <p>＜ワークシート＞</p>
6	<p>◆行きたい場所をその理由を尋ね合ったり、行きたい場所についてその理由も含めて書き写したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・5年生同士で、来年度修学旅行で行きたい場所についての発表を聞く。 ・なぜ行きたいのか、理由を尋ね合う。 ・インタビュー活動 ・来年度修学旅行で行きたい場所についてワークシートに書き写す。 ・振り返り 	<p>◎行きたい場所やその理由を尋ね合うことができる。</p> <p>＜行動観察・ワークシート＞</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかやり取りする。 ・Let's Listen, Let's Chant ・P84①② ・Activity-道案内 (ワークシート) ・振り返り 	<p>たりし、理解、定着させる。</p> <p>★仮想の町の地図を表示し、互いに行きたい場所や案内についての表現を使って、活動する。</p>
4	<p>◆道案内をし合することができる。到着点での表現を読み、書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・スモールトークを聞き、本時のねらいを推測する。 ・イラストを見て、何について話しているのかやり取りする。 ・Let's Listen, Let's Chant ・P122①② ・Activity-道案内 (廊下マップ) ・表現を書き写す。 ・振り返り 	<p>★チャンツは役割を変えたりしながら繰り返し聞かせたり言わせたりし、理解、定着させる。</p> <p>★テープで廊下にマップを作り、実際に歩きながら案内する。</p> <p>◎行きたい場所やその理由を表す表現を聞き取っている。</p> <p>＜行動観察・ワークシート＞</p>
5 本 時	<p>◆行きたい場所をその理由を含めて尋ね合うことができる。行きたい場所を尋ね、理由も含めて答える表現を読んで、書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、日付と天気の確認、歌 ・6年生は修学旅行について発表する。 ・6年生から5年生へ、「修学旅行で行きたい場所はどこか。」尋ねる。(インタビュー活動①) ・HRTがいくつかの県の名所と名物を紹介する。 ・6年生は、行きたい場所と理由をワークシートに書き写す。 ・5年生から6年生へ、「中学校の修学旅行で行きたい場所はどこか。」尋ねる。(インタビュー活動②) ・振り返り 	<p>◎行きたい場所や理由を尋ね合ったり答えたりしている。</p> <p>＜行動観察＞</p> <p>◎掲示された資料やワークシートを手掛かりとして、行きたい場所や理由を表す表現を書き写すことができる。</p> <p>＜ワークシート＞</p>
6	<p>◆行きたい場所までの道案内をし、尋ねる表現や答える表現についてやりとりをすることができる。また、道案内の表現についてワークシートに書き写すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・6年生同士で、修学旅行で行ったことのある場所について選び、そこまでの道案内をする。 ・ペアで道案内をする。 ・道案内の表現についてワークシートに書き写す。 ・振り返り 	<p>◎道案内の表現、行きたい場所やその理由を尋ねる表現を正しく書き写している。</p> <p>＜ワークシート＞</p>

5 本時

(1) 本時の目標

- ・ 修学旅行で行きたい場所やその理由を含めて尋ね合うことができる。
- ・ 修学旅行で行きたい場やその理由を書き写すことができる。

(2) 本時の展開 (5/6)

段階	学習活動	◇留意点 ◎評価 *支援
導入 5分	1 あいさつ、日付・曜日・天気の確認 2 ウォーミングアップ ① 歌 ② Small talk 3 課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 行きたい場所やその理由をたずねたり答えたりしよう。 </div>	◇5年生の歌、6年生の歌をお互いに紹介する。 ◇Where do you want to go?の表現を使ってARTと会話をする。
展開 35分	4 修学旅行で見学した場所を6年生が伝える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・ This is ～. You can see ～. ・ This is ～. You can eat ～. ・ This is ～. You can enjoy ～. </div> 5 5年生は紹介された場所の中から行きたい場所とその理由をワークシートに書き写す 6 インタビュー活動① 6年生は5年生に自主研修で行きたい場所を尋ね、5年生は答える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 6年 ・ Where do you want to go? 5年 ・ I want to go to ～. 6年 ・ Why? 5年 ・ I want to ～. I like ～. </div> 7 HRTはいくつかの県の名所や食べ物を紹介する	◎掲示された資料やワークシートを手掛かりに行きたい場やその理由を表す表現を書き写している。 <div style="text-align: center;"><ワークシート></div> ◇グループごとにインタビュー活動をする。 *困っている5年生には6年生が支援するように声掛けをする。 ◇名所や名物について写真や地図を準備する。

5 本時

(1) 本時の目標

- ・ 修学旅行で行きたい場所やその理由を含めて尋ね合うことができる。
- ・ 修学旅行で行きたい場やその理由を書き写すことができる。

(2) 本時の展開 (5 / 6)

段階	学習活動 ・ 児童の反応	◇留意点 ◎評価 *支援
導入 5分	1 あいさつ、日付・曜日・天気の確認 2 ウォーミングアップ ① 歌 ② Small talk 3 課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 行きたい場所やその理由をたずねたり答えたりしよう。 </div>	◇5年生の歌、6年生の歌をお互いに紹介する ◇Where do you want to go?の表現を使ってARTと会話をする。
展開 35分	4 修学旅行で見学した場所を6年生が伝える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> This is ～. You can see ～. This is ～. You can eat ～. This is ～. You can enjoy～. </div> 5 インタビュー活動① 6年生は5年生に自主研修で行きたい場所を尋ねる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 6年 Where do you want go? 5年 I want go to ～. 6年 Why? 5年 I want to ～. I like ～. </div> 6 HRTはいくつかの県の名所や食べ物を紹介する 7 6年生は紹介された場所の中から、行きたい場所とその理由をワークシートに書き写す	◇これまで学習した表現を使って、5年生にもわかるように、紹介したい場所やことを自分たちで考えておく。理由は、2～3つに文型を絞っておく。(前時まで) ◇写真と英文も掲示する。 ◇グループごとにインタビュー活動をする。 *困っている5年生には6年生が支援するように声掛けをする。 ◇名所や名物を書いている写真や地図を準備する。 ◎掲示された資料やワークシートを手掛かりに行きたい場やその理由を表す表現を書き写している。 <div style="text-align: right;"> <ワークシート> </div>

	<p>8 インタビュー活動②</p> <p>5年生が6年生に中学校の修学旅行で行きたい場所を尋ねる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>5年 ・Where do you want to go?</p> <p>6年 ・I want to go to ~.</p> <p>5年 ・Why?</p> <p>6年 ・I want to ~. I like ~.</p> </div>	<p>◇グループごとにインタビュー活動をする。</p> <p>◎行きたい場所と理由について尋ね合ったり答えたりして、伝え合っている。 <行動観察></p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>9 交流して気付いたことやお互いの良かったことを発表する</p> <p>10 振り返り</p>	<p>◇次時に、学習した表現を使って5年生同士で修学旅行で行きたい場所について尋ね合うことを伝える。</p>

6 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・6年生にインタビューすることで、来年度の修学旅行について見通しをもったり、不安を解消したりするための必然性のある活動となるようにする。
- ・5年生の知識や理解の度合いを補うために、行ってみたい場所についての情報不足、語彙不足については、写真を活用し、正しく理解したり、伝えたりするようにする。

	<p>8 インタビュー活動②</p> <p>5年生が6年生に中学校の修学旅行で行きたい場所を尋ね、6年生が答える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>5年 Where do you want to go?</p> <p>6年 I want go to ~.</p> <p>5年 Why?</p> <p>6年 I want to ~. I like ~.</p> </div>	<p>◇グループごとにインタビュー活動をする。</p> <p>◎行きたい場所と理由について尋ね合ったり答えたりして、伝え合っている。 <行動観察></p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>9 交流して気付いたこと、お互いの良かったことを発表する</p> <p>10 振り返り</p>	<p>◇次時に、6年生同士で修学旅行の場面を想定して道案内する活動をすることを伝える。</p>

6 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・6学年が5年生にとって未習の表現を活用して伝えている際には、ALTやHRTが表現の意図が伝わるように支援し、5年生にもう一度話してもらいをお願いをするよう働きかけをする。
- ・写真を見せながら紹介することで、話題を広げ、5年生に本当に修学旅行で行ってみたいという思いをもたせる。



第2章
第1節 各教科の実践例

4 道徳科学学習指導実践例

第1・2学年 同教材で学年の発達の段階に応じた学習を見取る視点を設定した事例

1 活動のねらい

本学級は1年生1名、2年生4名と、人数に偏りがある少人数学級である。また、本教材を用いて授業を行ったのは5月で、1年生にとっては入門期である。そこで、1年生に配慮しつつ、学校生活に慣れ、自信をもって過ごしている2年生の経験を生かした授業展開をしたいと考えた。そうすることで、1年生は2年生をお手本とでき、2年生は1年生のお手本となることにより自分の経験と重ね合わせて考えることのよさを実感できるようにしたい。それぞれの相乗効果をねらい、学年に応じた学びを見取る視点を設定する。

2 活動の内容

(1) 主題名 きもちをつたえる (内容項目：B一(8) 礼儀)

教材名 「ありがとう」「ごめんなさい」(出典：「いきるちから」1年 日本文教出版)

(2) ねらい 「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉を言ったときと言わないときのお互いの気持ちの違いを考えることを通して、気持ちのよい挨拶や時と場に合った言葉遣い、動作を心がけようとする心情を養う。

(3) 展開の概要

	主な発問と予想される児童の反応	※学びの姿を見取る視点
導入	1 教材「ありがとう」「ごめんなさい」を読む。	・動作化を行うことで、それぞれの立場になって考えることができるようにする。
展開	2 登場人物の気持ちや行動について話し合う。 ○吹き出しに入る言葉を考えたり、相手の表情を考えたりする。 「ありがとう」 ・言ったとき／言わないとき ・言われたとき／言われなかったとき 「ごめんなさい」 ・言ったとき／言わないとき ・言われたとき／言われなかったとき	※1年：気持ちを伝えたときの心情を、いろいろな立場から考えようとしているか。(発言、道徳ノート) ※2年：気持ちを伝えたときと伝えなかったときの心情を、自分の経験と重ねながら考えようとしているか。(発言、道徳ノート)

	<p>◎「ありがとう」「ごめんなさい」を言ったときと言わないときとは、気持ちはどのように違うのかを考える。</p> <p>3 自分の生活を振り返り、「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉を言ったり、言ってもらったりして、気持ちがすっきりしたことを考える。</p>	<p>※1・2年：友達との話合いや自分を振り返ることを通して、気持ちを伝え合うことのよさを深く考えようとしているか。（発言）</p>
終末	<p>4 教師の話聞き、学習を振り返る。</p> <p>【わかったこと】は何か。</p> <p>【がんばったこと】は何か。</p> <p>【友達に伝えたいこと】は何か。</p>	<p>・今日の自分の学習を振り返る。</p>

(4) 板書計画

じぶんも あいても いいきもち

教科書の挿絵

- ・ なんとだまっているのかな。
- ・ そっちがぶつかってきたんだよ。
- ・ きぶんがわるいな。
- ・ またぶつかってきたらいやだな。
- ・ もうあそびたくない。

教科書の挿絵

- ・ あやまってくれたから、ゆるすよ。
- ・ だいじょうぶだよ。
- ・ こんどは気をつけてね。

きもちを つたえる
 「ありがとう」「ごめんなさい」

- ・ どういたしまして。
- ・ ひろってあげてよかったな。
- ・ きぶんがいい。
- ・ 「ありがとう」がいいな。
- ・ ひろってあげたのに。
- ・ どうしてだまっているのかな。

3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・ 教師が児童と児童をつなぐ役割を担い、少人数であっても「対話的な学び」ができるようにする。
- ・ 上級生から下級生が学ぶことができるという複式学級のメリットを教師が意識し、どちらの学年の児童もじっくりと考えることができる明確な発問をすることが大切である。学年の発達段階に応じて、なぜできたのか、なぜできなかったのかの理由を問うことも必要である。
- ・ 1年生は入門期にあたるため、生活経験が少ない。そこで、場面がわかる絵や動画等を用いるなどして、教材の場面の状況把握をさせる。また、吹き出しや挿絵などを用いて、学年の実態に合った、考える手立てとなるワークシートの工夫をする。

第3・4学年 対象との「出会い」「見通し」「かわり合い」の場づくりを工夫した事例

1 活動のねらい

道徳科の学習では、児童が考えたくなるような「問い」をもつことができるように意識し、授業づくりを考えている。その時の主題によって、教材との出合わせ方、発問の仕方、話合いのさせ方などを工夫する必要がある。本時では、教材文を前半と後半に分けて読む。前半は、役割演技を行うことで葛藤場面を考えさせる。後半は、一部分で教材を提示せず、主人公の心情を考えさせる。あえて文や絵を見せないことで、児童の内面を揺さぶり、児童に「問い」をもたせる。

2 活動の内容

(1) 主題名 正直はだれのため (内容項目：A-2 正直、誠実)

教材名 『新次のしょうぎ』(出典：「生きる力」4年 日本文教出版)

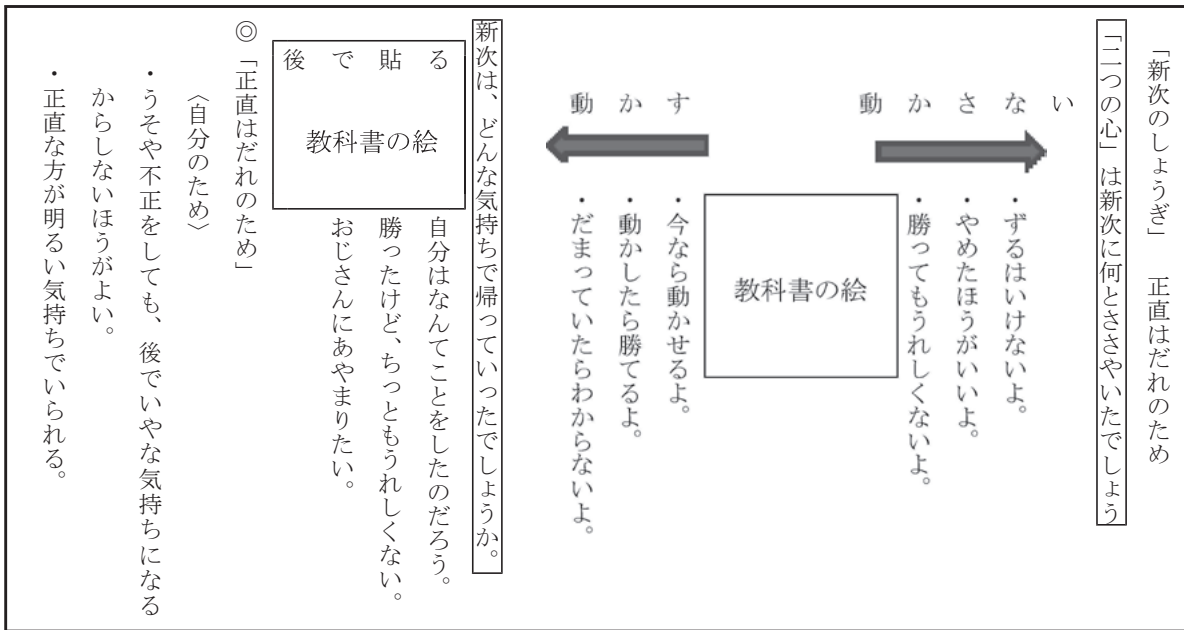
(2) ねらい ゲームなどで不正をして勝ったときには嬉しくない、むしろ悲しい後ろめたい気持ちになることに気づき、正直に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

(3) 展開の概要

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価								
導入	1 人が見ていない時「ずるをしちゃえ。」と思ったことはありますか。 ・マラソンの周数をごまかそうとした。 ・ばれなかったらやっけてしまおうと思った。	・その時の様子を思い出させ、勝ちたいと強く思う新次の気持ちに共感しやすいようにする。								
展開	2 教材「新次のしょうぎ」の前半を読んで話し合う。 ① 五分五分の勝負の最中、新次はどんなことを思ったでしょう。 ・どうしても勝ちたい。 ② 伊三郎おじさんが席を外したとき、新次にささやいた「二つの心」は何と言っていたのでしょうか。 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="text-align: center;">【悪魔】</td> <td style="text-align: center;">【天使】</td> </tr> <tr> <td>・今なら動かせるよ。</td> <td>・やめた方がいいよ。</td> </tr> <tr> <td>・黙っていたらわからないよ。</td> <td>・そんなことをして勝っても、うれしくないよ。</td> </tr> <tr> <td>・動かしたら勝てるよ。</td> <td>・ずるはいけないよ。</td> </tr> </table>	【悪魔】	【天使】	・今なら動かせるよ。	・やめた方がいいよ。	・黙っていたらわからないよ。	・そんなことをして勝っても、うれしくないよ。	・動かしたら勝てるよ。	・ずるはいけないよ。	・将棋のルールや駒の動きを事前に補足しておく。 ・教材文を前半と後半に分けて読ませる。 ・新次が勝ちにこだわり、焦る気持ちをこらえきれなかったことが、不正につながったことを押さえておく。 ・伊三郎おじさんが席を外し、新次が将棋盤をじっと見つめる挿絵を黒板中央に掲示する。 ・「二つの心」がささやき合う葛藤場面を設定し、役割演技をさせ新次の心情に迫っていくようにする。
【悪魔】	【天使】									
・今なら動かせるよ。	・やめた方がいいよ。									
・黙っていたらわからないよ。	・そんなことをして勝っても、うれしくないよ。									
・動かしたら勝てるよ。	・ずるはいけないよ。									
	3 教材「新次のしょうぎ」の後半を読んで話し合う。									

	<p>③ 伊三郎おじさんに勝って、にこにこしていた新次は、どんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とぼけていればいい。 ・こんな勝ち方はずるいけど…。 <p>④ 佐兵おじさんとの勝負の後、「もう一番」と言われたのに断って表に出たのはどんな気持ちからでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっき不正したことばれるかも。 ・勝ったのに、ちっともうれしくない。 <p>⑤ 帰るとき、どんな顔をして、どんな気持ちで帰ったと思いますか。</p> <p>〈暗い顔〉 〈泣いた顔〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は、なんてことをしたのだろう。 ・勝ったけど、ちっとも嬉しくない。嫌な気持ちになった。 ・あんな不正、やらなければよかった。 ・おじさんに謝りたい。 <p>4 授業を振り返り、正直について考える。</p> <p>⑥ 正直はだれのために大切で、それはなぜなのか考えよう。</p> <p>〈自分のため〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うそや不正をしても、後でいやな気持ちになるから。 ・正直な方が明るい気持ちでいられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝利の笑顔ではなく、不正をごまかすための作り笑いだったということを押さえて、新次の心情を類推させる。 ・自分が不正をして勝ったことを気付かれそうで、いてもたってもいられない気持ちになったことを捉えさせたい。 ・最後の場面は読まずに、不正をして勝った新次が、帰り道どんな気持ちで帰ったかを考えさせ、意見を交流させる。そのとき、心情マークを使って、自分の考えを発表させる。 ・話合いの後、挿絵を見せながら読んで聞かせ、自分たちの考えを確認させる。 ・うそやごまかしをしていると心が暗くなり、自分の行いを悔やむことになることに気付かせる。 ◇ゲームなどで不正をして勝ったときにはうれしくない、むしろ悲しい後ろめたい気持ちになることに気付いている。(発言) ・「正直はだれのため」という主題を意識させる。 ・「どうだったら、明るい気持ちで帰ることができたんだろう。」と問い、うそやごまかしをせず、正直に生活すると心がすっきりし、明るい気持ちになることに気付かせたい。
終末	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをする。 ・感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について、自分の考えを整理させる。

(4) 板書計画



3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・教材文の内容についての話合いが多くなる傾向があるため、自分との関わりで考える時間の確保が必要となる。どの部分の話合いに時間を割り、話を掘り下げるかによって、さらに考えを深めたり広げたりできる。
- ・児童が自分の考えを意識したり、多面的・多角的に考えたりできるように、心情マークや心情メーター、役割演技などを効果的に取り入れる。
- ・座席を工夫し、フリートークを取り入れることで、児童の話合いが活発になることがある。形骸化しないよう、ねらいに合った学習形態を工夫する。



第4・5学年 同内容項目、異教材を扱った実践事例

1 活動のねらい

4・5年生の変則複式学級である。4年生と5年生で同じ内容項目の教材を設定し、導入場面と振り返りを行う場面を同時直接指導とし、異学年同士で考えを交流することで、より一層道徳的価値について多面的・多角的に考えさせることができる。

2 活動の内容

(1) 主題名 正直はだれのため
 (内容項目：A-2 正直、誠実)
 教材名 『新次のしょうぎ』
 (出典：「生きる力」4年 日本文教出版)

(1) 主題名 自分の心に誠実に
 (内容項目：A-2 正直、誠実)
 教材名 『のりづけされた詩』
 (出典：「生きる力」5年 日本文教出版)

(2) ねらい
 不正をして勝ったとしても結局は後悔にさいなまれる新次の気持ちを考えることから、正直に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

(2) ねらい
 本にある詩を自分の詩として提出してしまった和枝が、先生に打ち明けた時の苦しさを捉え、誠実に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

(3) 展開の概要

学習活動 ㊟中心発問 ■リーダー・予想される児童の反応	・留意点 ●支援 ◎評価	直接 間接	学習活動 ㊟中心発問 ■リーダー・予想される児童の反応	・留意点 ●支援 ◎評価
1 アンケート結果から経験を振り返る。 ・正直にできなかったことなど 2 めあてを確認する。		合同 合同	1 アンケート結果から経験を振り返る。 ・正直にできなかったことなど 2 めあてを確認する。	●「誠実」という言葉を簡単に説明する。 ・授業前に教師が範読する。
正直にすることでどのような気持ちが生まれるのかを考えよう。			誠実にすることでどのような気持ちが生まれるのかを考えよう。	
3 教材について考え話し合う。 ○「新次のしょうぎ」を読みます。 ○自分の桂馬を動かした新次はどんなことを考えていたでしょう。 ○伊三郎おじいさんに	・教師が範読する。 ・自分だったらどうしているかネームプレートを黒板に貼らせる。 ・不正をごまか	直接 間接	3 教材を読む。 ■お話を読みます。 ■詩を写して光子さんに褒められている時にどんな気持ちになったでしょう。黒板に書きましょう。	・授業前に教師が範読する。 ◎登場人物に自分

<p>勝って新次はどんなことを思っていたでしょう。</p>	<p>す作り笑いであることを押さえてから考えさせる。</p>		<p>に本当のことを打ち明けたでしょう。ワークシートに書いたから話し合いました。</p>	<p>を置き換えて考えている。(発表・ワークシート)</p>
<p>◎新次の傘を持つ手に涙がこぼれたのはどんな思いがこみ上げてきたからでしょうか。</p>	<p>◎登場人物に自分を置き換えて考えている(発表・ワークシート) ●発表できない児童には誰の</p>	<p>直接 間接</p>	<p>4 正直にすることでどんな気持ちが生まれるのかについて話し合う。 ○自分にも相手にも誠実にしてよかったです。ありませんか。</p>	<p>●書くのが難しい児童には、黒板のものを参考にして書いてもよいと助言し、自分の考えを明らかにさせる。</p>
<p>4 正直にすることでどんな気持ちになるかについて考える。 ■正直に生活することでどんな気持ちが生まれてくると思いますか。ワークシートに書いて話し合いました。</p>	<p>考えに近い考えさせる。 ・本時の話合いやこれまでの経験から「正直に生きる」とはどういうことかについて価値の一般化を図る。</p>	<p>間接 直接</p>	<p>5 正直に生きることについて考える。 ○誠実に生きるとはどのようなことでしょうか。</p>	
<p>5 学習を振り返る。 ○振り返りを書きましょう。書いたら交流しましょう。</p>	<p>◎自分の考えと友達の考えを比べて考えている(ワークシート・発表)</p>	<p>合同 合同</p>	<p>6 学習を振り返る。 ○誠実にすることでどのような気持ちが生まれるのかについて感じたことや思ったことをワークシートにまとめましょう</p>	<p>◎自分の考えと友達の考えを比べて考えている。(ワークシート・発表)</p>

3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・話合いのきまりがしっかりと身に付いていることが、逆に、「分かりました」等のありきたりな反応になってしまうことがある。そのため、そこからさらに問い返す等の往還のある話合いになるとさらによい。
- ・振り返り等、2つの学年が交流する場面で、上学年がアウトプットすることでより深く心に残ることが期待され、また、下学年にとっても上学年の姿に学ぶという良さがある。児童の実態に応じ、2つの学年が交流する場面を設定することが大切である。

第4・5学年 キャリア教育との関連を明確にし、児童の日常に重きを置いた授業づくりとその後の日常生活に生かした事例

1 活動のねらい

教材の内容は、児童も経験している学校行事の「運動会」である。よって、テーマは設定せず、児童自身が運動会において経験したことを想起しながら、主人公の心情に児童の思いを重ねて考えるという流れにする。さらに、授業の後は、実際に日常生活の中でどのように実践できたかを、2学期末の道徳の振り返りの時間に確認する。その中から、事例を挙げて学級全体で交流していく。

本時で完結するのではなく、事後の日常にもつなげていくことで、自分の判断に自信をもち、行動に移すことの大切さを実感し、実行していこうとする態度を育てるようにしたい。

キャリア教育との関連の視点は以下のとおりである。

【動く／生かす力】

(中学年)

自分のやりたいこと・よいと思うこと・してはいけないことを判断し、行動しようとする力

(高学年)

生活や学習の課題に気付き、他者の意見も大事にしなが、解決しようとする力

2 活動の内容

(1) 主題名 どちらが正しいのかな (内容項目：A－(1) 善悪の判断、自律、自由と責任)

教材名 『クラスたいこう全員リレー』(出典：「新・みんなの道徳」4年 学研)

(2) ねらい 登場人物の葛藤する気持ちを想像したり、「もし、自分だったらどうするか」を考え、交流したりすることを通して、いろいろな立場の人の気持ちを考えて判断することや、正しいと判断したことを行動に移す大切さに気付き、それらを実行していこうとする態度を育てる。

(3) 展開の概要

	学習活動 ○主な発問	・指導上の留意点 ◎評価
導入	1 運動会に参加したときの気持ちを思い出す。 ○(運動会の様子の写真を見ながら)この時どんな気持ちだったかな。	・「勝ちたい」という思いを想起させることで、教材の登場人物たちの気持ちに寄り添えるようにする。 ・「クラス対抗全員リレー」について簡単に説明する。
展開	2 教材「クラスたいこう全員リレー」を読み、そうたの気持ちを考える。 ○なぜ、そうたは何も言えなかったのでしょうか。 ○ゆうじたちはどう思っていたのでしょうか。 ○たけしはどんな気持ちだったのでしょうか。	・そうたがどんな気持ちでいるかを問い、自分が正しいと思うことでも周囲に流されて言うことができなかつたり迷つたりしてしまう気持ちを共感的に考えさせる。

	<p>3 自分だったらどうするかを考える。</p> <p>○もし、あなたがこの場にいたらどうしますか。ワークシートに書いてみましょう。</p> <p>○みんなの意見に共通しているのはどんなことでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうじたちの「勝ちたい」という気持ちの強さやたけしの悔しく辛い気持ちを考えさせる。 ・線分図を用いることで、自分の心の中を視覚化する。 ・様々な判断に共通していることは何かを問い返し、多様な考えや判断の根底にある道徳的価値を明らかにする。
<p>終末</p>	<p>4 授業を振り返り、感想を書く。</p> <p>○今までの自分を振り返りながら、今日学んだことを生かしてこれからどのように過ごしていきたいと思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体を振り返って、今までの自分を見つめ直し、これからどのように過ごしていくか考えさせる。 ◎いろいろな立場の人の気持ちを考えて判断することや、正しいと判断したことを行動に移す大切さに気づき、今後の自分について考えている。 <p>(ワークシート、行動観察)</p>

3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・線分図にネームプレートを貼っていくことで、考えが可視化されるようにした。4年生と5年生とで、「絶対言う」と「言うかどうか迷う」にきっぱりと分かれ、そこに「1学年の差」が表れた。そこから、児童の考えがどう変容するのか、児童同士で話し合わせ、変容を見取ることが大切である。
- ・担任も一緒になって考えるというスタンスによって、児童が本音を語りやすくなる。「担任として」の問い返しというより、「一人の友達として」の問い返しを意識することも少人数の学習では効果的である。

1 活動のねらい

5・6年生は社会科や外国語科といった学習を通して、他国との繋がりを学んでおり、国際理解や国際親善に目を向けることができるという考えのもと、本主題を設定した。授業の工夫として、児童が国際理解について関心をもち自分の事として考えることができるよう、事前アンケートの結果を導入で活用して方向付けたり、グループで話し合わせたりする。このような活動を通して、広く世界の諸情勢に目を向けつつ、日本人としての自覚をもたせたいと考える。

2 活動の内容

(1) 主題名 世界とつながるかけ橋に (内容項目：C-18 国際理解、国際親善)

教材名 『太平洋のかけ橋 新渡戸稲造』(出典：「新・みんなの道徳」5年 学研)

(2) ねらい 日本と世界との文化交流に尽力した先人の生き方から学ぶことを通して、他国の人々や文化について理解し、国際親善に努めようとする実践意欲と態度を育てる。

(3) 展開の概要

	学習活動 ○補助発問 ☆主発問	・指導上の留意点 ◎評価
導入	<p>1 アンケートの結果を提示する。</p> <p>2 「太平洋のかけ橋」となった新渡戸稲造から生き方を学ぶ、ねらいをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新渡戸稲造の生き方から、私たちが世界の国々と仲良くできる方法を考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ日本の文化や外国の文化を学ぶのだと思いますか」の質問の回答結果をもとに、国際理解について関心をもたせ、本時のねらいに向かうようにする。 ・新渡戸稲造がどのような人物か、大まかに紹介する。
展開	<p>3 教材文の範読を聞く。</p> <p>4 稲造についてどう思うか感想を発表する。</p> <p>5 稲造の思いや行動について話し合う。</p> <p>○稲造は、どんな思いで英語の力を身に付け、たくさんの講演を行ったと思いますか。</p> <p>○稲造は、なぜ「武士道」という本を書いたと思いますか。</p> <p>☆稲造の生き方を支えたのは、どのような心だと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに聞き、児童の発言をこのあとの展開に生かす。

	<p>6 稲造の思いや行動から、世界の国々と仲良く協力するためにどうすればよいか、まとめる。</p> <p>7 私たちが世界の国々と仲良く協力するためにできることを話し合う。 ○世界の国々と仲良く協力するために私たちがこれからできそうなことは何か話し合おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入でのねらいに立ち返り、まとめる。 ・グループで話し合わせる。稲造の生き方から学んだ、 <ul style="list-style-type: none"> ①自分の国のことを相手の国に知ってもらおう。 ②相手の国のことを知る。 ③互いの国の文化や考えを認め合う。 <p>の観点をもとに、私たちが世界の国々と仲良くできそうなことを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容に触れながら、今まで社会科や外国語科で学習していたことが、実は国際理解に生かせることに気付かせる。
<p>終末</p>	<p>8 学習の振り返りをする。 ○今日学んだことをワークシートに書きましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がこれからやってみたいことを書かせる。 ◎国際理解について自分自身との関わりで考えを深めている。

3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・意見を集約するためにホワイトボードが活用されることが多いが、本授業では、意見や考えの共有のためにホワイトボードが活用されていた。少人数学級においては、このように共有する場面で用い、児童が考えを深めたり広げたりすることができるようにすることが大切である。
- ・長文の教材の扱い方について工夫する。場合に応じて、途中で区切って内容を確認したり、説明を加えたり、児童の理解度を確認しながら扱う。さらに、ねらいをもとに、児童に考えさせたいところ、話し合わせたいところを発問とともに吟味する。



第2章

第2節 各領域の実践例

- 1 特別活動における体験活動を
生かした事例
- 2 総合的な学習の時間における
地域の特色を生かした実践例

第2節 各領域の実践例

1 特別活動における体験活動を生かした事例

1 活動のねらい

へき地では地域の環境を活用した体験学習を取り入れている学校が多くみられる。

本事例は、地域の清掃活動を通して、地域を愛する心を育み、地域の一員として地域社会に貢献しようとする意識を高めるとともに、小・中学校合同のボランティア活動を通して、児童生徒がお互いの理解を深め、よりよい人間関係の中で、安心した学校生活を送れるようにするものである。

2 活動の内容

事例 小中合同海岸清掃

～学校行事（勤労生産・奉仕的行事）～

(1) 内 容

地区漁港隣の浜辺のゴミ拾い活動

(2) 班 編 制

- ・小学校…清掃時の縦割り5班で行う。
- ・中学校…全校を縦割りで5班に編制する。

☆縦割り班活動を通して、異年齢集団による交流の場を設定しています。

(3) 日 程 等

特別日課5時間授業（業間・清掃なし） ※学校行事1時間扱い

13:30…学校出発（スクールバスで移動）

13:40…海岸集合

13:45…開会式（司会は中学校生徒会）

①学校代表挨拶（中学校校長） ②作業上の注意（中学校教頭）

13:50…清掃活動開始（45分間）

14:35…ゴミ袋をゴミ収集場所へ（先生方は道路で安全指導）

14:45…清掃活動終了、集合

14:50…閉会式（司会は中学校生徒会）

①児童生徒代表の感想発表（各1名）

②講評（小学校校長）

15:00…海岸出発

（スクールバスで移動）

15:10…各教室で帰りの会

(4) 準 備 物

[学校]: 軍手、ゴミ袋、デレキ、救急箱、ジュース

[個人]: タオル、帽子、虫除け・飲み物等（水筒）

(5) 注意事項

- ・小・中学校とも緊急車両を準備する。(小・中学校教頭、養護教諭)
- ・安全面に気を配り、各班に先生方を配置する。

(6) 役割分担

- ・教育委員会に分別の仕方と収集、ゴミ袋について確認 (中学校教頭)
- ・浜辺の下見、分担場所の確認 (小・中学校教頭)
- ・スクールバスの手配 (教務)
- ・班編制 (中学校各学級担任)
- ・新聞社、町役場への連絡 (中学校教頭)
- ・写真 (記録) 係 (教員1名、小学校教頭)
- ・ジュース、軍手の準備 (教員1名)
- ・デレキ、ゴミ袋 (中学校教頭)
- ・救急箱 (小・中学校養護教諭)

☆ボランティア活動は、できる限り児童の発意・発想を生かした貢献活動を行い、児童が主体的に参加するように配慮することが大切です。

分別しながらの收拾



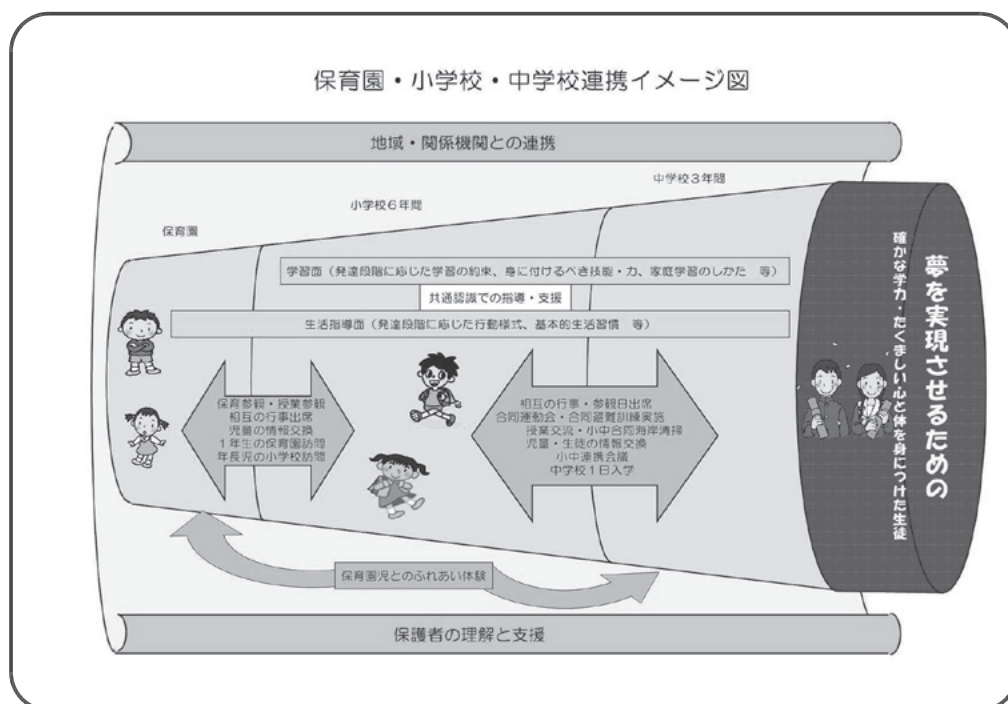
小中合同での活動



海岸での作業



校種間連携イメージ図



第2節 各領域の実践例

2 総合的な学習の時間における地域の特色を生かした実践事例

事例1 登山囃子

～地域や学校の特色に応じた課題（伝統文化）～

1 活動のねらい

よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題に対しては、児童が地域における自己の在り方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが大切である。

本事例は、地域教材や人材を生かした体験的な学習（「登山囃子」）を行うことで、郷土のよさを体感させ、地域への愛着や誇りを涵養するものである。

2 活動の内容

(1) 目標

地域の伝統芸能である登山囃子を地域の指導者から学んだり、登山囃子が生まれた背景を探ったりして、郷土の伝統文化を継承しようとすることができる。

(2) 活動計画

学期	月	回数	ねらい	内容
1	4	1	オリエンテーション	・登山囃子について ・楽器の種類と担当
	5	6	地域の指導者に学ぼう	
	6			
2	8	4	お山参詣を調べよう	・意味 ・歴史
	9	2	登山囃子を披露しよう	・登山囃子パレード
	11	1	調べたことを伝えよう	
3	2	1	伝統を受け継ごう	・前奏者の交代式 ・卒業式に向けて

(3) 対象 全学年

神社に向けて歩みを進めている様子



施設での演奏の様子



事例2 「海」についての調査活動とへき地間交流

～現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（環境）等～

1 活動のねらい

現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題については、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが大切である。

本事例は、身近な「海」について調べることを通して、地球温暖化問題と自分たちの生活の関わりについて、自ら課題を見つけ、主体的、協働的に課題を解決したり、調べたことを発信したりする活動を通して、自分たちの地域の良さについて気付いたり、自分の生活について考えたりするものである。また、コンピュータを使って情報を収集・整理・発信できるよう、基本的な操作を習得し、情報や情報手段を選択したり、活用したりできるようにするものである。

2 活動の内容

(1) 目標

- ① 身近な海について、不思議に思うことをそれぞれ出し合い、自分の興味・関心のあることから課題を見付けることができる。
- ② 自分が見付けた課題をもとに、図書館やコンピュータなど適切な方法を選び、他の教科とも関連付けながら調べることができる。
- ③ 調べたことを友達やオンラインでつながった相手によく伝わるように、工夫しながらまとめることができる。また、意見を交流する中で、友達の良いところや疑問点などを交流し、自分の考えを深めることができる。
- ④ 「海」について調べていく中で、環境問題に興味をもち、私たちの生活は世界や地球と大きく関わっていることに気づき、自分の生活について考えることができる。

(2) 活動計画

段階	時数	内容
	2	○ パソコンについての基本的な操作についての学習
課題づくり	2	○ 課題を見付ける ・小中合同海岸清掃活動をして気が付いたことや自分が日ごろ感じていることをもとに、疑問や気付いたことをイメージマップに書く。 ・友だちと話し合いながら、イメージマップを整理する。
課題追究	7	○ 課題について調べるための計画を立て、自分の課題を追究する。 (調べる方法) ・図書資料 ・インターネット ・地域へ出かけての調査 ・インタビュー など
まとめ・表現	3	○ 図、表、写真などを使い、調べたことを分かりやすく新聞にまとめたり、プレゼンテーションソフトでまとめたりする。 ○ まとめたことを発表し、感想を伝え合う。

交流	2	○ 他校との交流 ・ 自己紹介や学校紹介を行い、親交を深める。 ・ お互いに調べたことを、web 会議システムを使って、交流し合う。
深める	1	○ お互いの意見を参考にし、これから行動していきたいことについて考える。


(3) へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・ 課題については、自分たちにとって身近なものである「海」を取り上げ、様々な視点からの調べ学習を通して、環境問題や自分たちの生活との関わりにつなげていくようにする。
- ・ 今年度導入されたコンピュータを効果的に活用できるように、支援体制を組み、複数で対応していく。
- ・ まだ、コンピュータの活用に不慣れな児童が多いので、発達段階に応じてまとめ方は自分で選ぶことができるようにする。(新聞、プレゼンテーションソフト等)
- ・ 他校との交流を行う際は、同じような環境・規模の学校を選ぶようにし、子供たちが抵抗なく交流活動ができるようにする。事前に内容や方法についてしっかりと打ち合わせをし、ねらいを達成できるようにする。
- ・ 個人で違う課題を調べることもあり、体験的な活動やインタビュー活動が少なくなることが心配される。他教科との関連において体験的な活動やより探究的な活動を模索する必要がある。

魚の卵 びらくりワールド

◎ 卵の数少ないナンバー1


マンボウ → 卵の数3億個!
7ヶ月産む理由 → マンボウは、卵を産むと去ってしまう。つわり。卵のめんどうをおかないから。3億個のうち大人になるのは、ほんの数匹だけ。



マンボウ

◎ 卵の数少ないナンバー1

ウミタナゴ → 約30個
少ない理由 → 卵は、お母さんのおなかの中で育つので、そこから取られることが少ない。



ウミタナゴ

◎ オスが赤ちゃんを産む?

でも、じつは産むのではなく「産卵のう」というふくらみがあり、メスは、オスの産卵のうの中に卵を産みつけます。卵は、産卵の中で受精して、1ヶ月で卵からかえる。

◎ オスに卵が食べられる?

オスが口の中で卵をふがせている。すごい! 卵は400個ほど。卵にさんそをおくため、8~10日間、口はあけておかない。お父さんはつらいな。

◎ ぼくたちの住む深浦町は白根中山土のふもとにあり、美しい日本海が目の前に広がっています。毎年山にはめずらしい生き物もたくさんいます。美しい自然を守るために、自分たちができることをがんばっていきなさいです。

海が汚れる、汚れた水を海に流さないと、ゴミを海に投げる(マクドナルドは魚を殺してしまふ!) みんなによびかける

大好きなおすしが 食べられなくなる日がある!?

おすし屋さんに食べられる

約90種類近く!!
日本でもよく見かける魚は、334種類。日本人が食用するエビの種類は20種類

なぜおすしが食べられなくなるの?

① その1 乱獲 ② その2 温暖化 ③ その3 海洋汚染

取りすぎると、自然が地球の温度が上がって海がよごれてそのことももっている。再生力をうぶてしまい、魚がいなくなってしまふ。

でも、2048年には、「まぐろ、ぶり、ヒラメ、など食べられなくなってしまう。10年前にくらべると、魚介類の消費量がふえている。

でも、2048年には、「まぐろ、ぶり、ヒラメ、など食べられなくなってしまう。10年前にくらべると、魚介類の消費量がふえている。

地球の温度が上がって海がよごれてそのことももっている。再生力をうぶてしまい、魚がいなくなってしまふ。

これからも大好きなおすしを食べるために...

◎ 温暖化に対するとりくみ、エアコンやテレビ、電気の使いすぎつけないおしをやる。

◎ ゴミ問題に対するとりくみ、リデュース、リユース、リサイクルの「3R」を始める。「3R」を始めると、海に流れるプラスチックの量を減らせる。

◎ 育てるふやす養いなどおすしにしたい。

私たちの住む深浦にはサーモンを養っている日本サーモンファームがあります。美しい海でおいしいサモンを育てています。

3 成果と課題（主にWebによる交流について）

- 学級の仲間以外に伝えたり、更には Web 会議システムで伝えたりするという経験は初めてのことであったので、緊張した様子であったが、「はっきりと大きな声で分かりやすく伝える。しっかり反応する。」というめあてをもち事前に練習をしてから取り組んだので、スムーズに発表することができた。
- お互いに調べたことを発表し合うことで、それぞれの地域のよさや特性を知ることができたと同時に、遠く離れた地域であるにもかかわらず似たような文化があることを知り驚いていた。（相手校では、獅子舞について紹介してくれたが、こちらにも似たような獅子舞があり、子供たちはびっくりしていた。最後の感想で、「ぜひ、こちらの獅子舞についてもいつか紹介したい。」と子供が言っていた。）今後の活動についてさらに広げられそうな題材を見付けることができた。
- 今回は、総合的な学習の時間についての発表であったが、担任同士の連携により外国語やその他の授業でも機会を見て交流を継続していこうということになった。少人数のメリット、デメリットを交流によって生かしたり改善したりすることに大きな可能性を見付けることができた。



事例3 農園体験学習と高校生との交流学习

～現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（食）等～

1 活動のねらい

本事例では、地域の身近な人材を生かし、近隣高等学校の生徒に教えてもらいながら畑作業やおやつ作りを体験することによって、農作物を栽培することの大切さや苦勞、収穫の喜びを知るとともに、自分と自然の関わりについて関心をもち、自然を大切にすることを養う。

また、高校生との触れ合いを通して、質問したり聞かれたことに答えたりするコミュニケーションの仕方を学ぶとともに、コミュニケーションの楽しさを体感する。

2 活動の内容

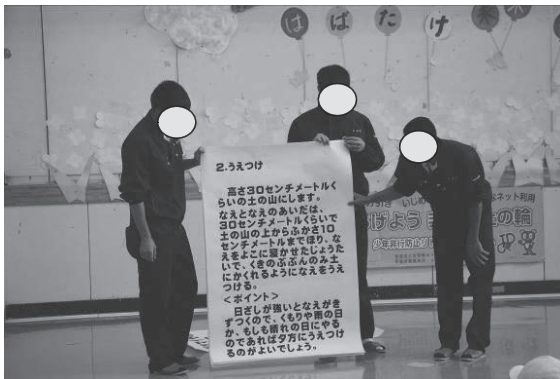
(1) 第1回全校農園体験学習（6月頃）

① 場 所 小学校

② 準備物 さつまいもの苗（学校で40本準備）、30cmくらいの棒8本（各班2本）、軍手、長靴、タオル

③ 内 容

- ・ 高校生によるさつまいもに関するクイズを通して、さつまいもの育て方について知る。
- ・ 学校園に移動し、さつまいもの植え方等の説明を聞く。その後、縦割り班ごとに高校生と一緒に苗植え作業を行う。
- ・ さつまいもの苗は、棒で計って30cm間隔で植える。



(2) さつまいもの世話と収穫（苗植え後～11月初旬）

① 場 所 小学校

② 内 容

- ・ 本校だけでさつまいもの世話と収穫を行う。
- ・ 縦割り班で植えたさつまいもの水やりや草取りを定期的に行う。
- ・ 縦割り班ごとに、自分たちで育てたさつまいもを収穫する。



(3) 第2回全校農園体験学習（11月中旬～下旬）

① 場 所 高等学校

② 持ち物 エプロン、三角巾、マスク、中ズック、ズック袋

③ 内 容

- ・ 前日までに、高等学校の担当者がさつまいもを取りに来る。(下ごしらえのため)
- ・ 収穫したさつまいもを使って、高校生に教えてもらいながら、スイートポテトなどのお菓子を作る。



(4) へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

① 第1回全校農園体験学習

- ・ 日程調整が難しいため、悪天候の場合は、苗植えや世話の仕方の説明のみを行い、後日、本校だけで植える。

② さつまいもの世話と収穫

- ・ 縦割り班で責任をもって世話をすることができるよう、水やり・草取り等の声かけをする。
- ・ さつまいもの収穫量を見て、さつまいもを児童へ持ち帰らせたり、不足分を購入したりする。

③ 第2回全校農園体験学習

- ・ お菓子の食材等について事前に高等学校から教えてもらい、保護者と確認した上で活動に参加させることで、食物アレルギー症状が起こらないように十分配慮する。
- ・ 給食があるので、食べる量は少しだけにさせ、残ったものをお土産にする。
- ・ 当日、嘔吐や下痢の症状がある児童は参加できない。学級担任は、健康観察時に確認をしっかりと行い、気になることは担当者に報告する。

3 成果と課題

- ・ さつまいもの苗植えから、世話、収穫、おやつ作りまで児童の手で体験することで、農作物を栽培することの大切さや苦労、収穫の喜びを直接味わうことができた。食と自然の重要性について、実体験を通して、身近な課題として感じることができた。
- ・ 高校生が積極的に話しかけたり教えたりしてくれることで、多くの児童がコミュニケーションの楽しさを体感することができた。
- ・ 異校種である高等学校との日程調整や連絡、打ち合わせ等に関して、担当者の負担が大きい。
- ・ 1・2年生は生活科の授業として実施することになる。年間計画において、明確に位置付けを図る必要がある。



第3章

I C T機器を活用した実践例

第3章
第1節 各教科の実践例

- 1 社会科学学習指導実践例
- 2 複式学習における
効果的なICT機器の活用

第1節 各教科の実践例

1 社会科学学習指導実践例

第5・6学年 社会科における一人一台端末を活用した実践事例

1 活動のねらい

一人一台端末を活用することで、調べたことを画像や文字を使ってまとめたり、お互いの考えを瞬時に交流したりすることが容易となる。これらのよさを間接指導に取り入れた実践である。

【使用した ICT】一人一台端末 (Chromebook)・Jamboard・Google スライド・大型モニター

2 活動の内容

5年生

- (1) 単元名 「自然災害を防ぐ」
- (2) 本時のねらい
日本の自然災害について、種類や発生状況、防災対策などに着目して問いを見出し、学習問題を考え、学習計画を立てることができる。
- (3) 本時の展開

6年生

- (1) 単元名 「日本とつながりの深い国々」
- (2) 本時のねらい
自分が選んだ国の文化や行事について調べ、日本と比べることを通して、文化や行事の特色について理解することができる。
- (3) 本時の展開

・留意点 ★ICTの活用	学習活動	段階	間	学習活動	・留意点 ★ICTの活用
<ul style="list-style-type: none"> ★身の回りのニュースの画像を提示する。 日本では、いつ、どこで、どのような自然災害が起きているのか話し合い、学習問題をつくらう。 いつ、どこで、どのような自然災害が起きているのか調べさせる。 ★ジャムボード上の白地図にみんなで同時にまとめる。 ★災害の種類によって色分けすることで、地形との関係に気付かせる。 	1 自然災害の被害について知る。 ・大雪で車が進まなかった。 2 学習課題をつかむ。	直	間	1 課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○○(国名)には、どのような文化があるのだろうか。 </div> 2 調べる。 ・アメリカでは、ハロウィンなどの行事を家族と楽しむ。 ・サウジアラビアでは、イスラム教を信仰しており、1日に5回祈る。	・学習計画を確認する。
	3 調べる。 ・1995年に兵庫県で起きた地震は、高速道路が倒れてしまっている。			間	3 日本の文化と比べる。 ・行事を楽しむ点では、アメリカと日本は似ている。 ・サウジアラビアの宗教が中心の生活は、日本と大きく異なる。
	4 調べたことをジャムボードで整理する。	直		★自分が調べた国と日本の文化の類似点や相違点について、各自ジャムボード上で整理する。	

<p>★教科書をスキャンした画像を提示する。</p> <p>★みんなでジャムボードに予想を入力していく。</p>	<p>5 気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然災害はいろいろな場所で起きている。 毎年のように自然災害が発生している。 いつ発生するか分からないので備えが大切だ。 	間	直	<p>4 ジャムボードの内容を発表する。</p>	<p>★ジャムボードをもとに発表する。詳しい発表は単元のまとめで行うため、簡単な発表で終わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめを書き終えたら、発表の資料づくりに取り組む。
	<p>6 これまでの学習との関わりを考え、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 台風や水害は、地形や気候が関係していた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自然災害は地形や気候とどのような関係があり、国や都道府県はどのような防災の取組を行っているのでしょうか。</p> </div> <p>7 学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震や噴火も、地形と関係があるのでは。 	直	間	<p>5 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>アメリカには、ハロウィンなどの行事があり、家族で祝う習慣がある。次はアメリカの産業について、詳しく調べたい。</p> </div>	

付箋機能を使った交流活動 (Jamboard)



児童が作成したプレゼンテーション (Google スライド)



3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- 導入を間接指導で行う際には、しっかりと学習計画を立てる。
- 学年別指導で ICT を活用していくためには、教室に大型モニターが 2 台必要となる。
- ICT を活用したプレゼンテーション資料の作成は、どの児童でも簡単にできるため、間接指導でも十分に取り組むことができる。

平成 29・30 年度版ハンドブック (一般編) 関連項目

* 第 4 章 第 2 節 「学年別指導」 P 38～44

第5・6学年 社会科におけるデジタル教科書を活用した実践事例

1 活動のねらい

デジタル教科書を使用することにより、資料の拡大や動画の再生、インターネットを使った調べ学習、教科書を大型モニターに映しながらの発表、教科書をキャプチャした画像を使ったまとめ活動等が可能となる。デジタル教科書の効果的な活用を目指した実践である。

【使用した ICT】 一人一台端末 (Chromebook) ・ Jamboard ・ Google スライド ・ Google Classroom ・ スプレッドシート ・ デジタル教科書 ・ 大型モニター

2 活動の内容

5年生

(1) 単元名 水産業のさかんな地域

(2) 本時のねらい

つくり育てる漁業について調べを通して、携わる人々が品質を高める工夫や水産資源を守る取組を行っていることについて理解することができる。

(3) 本時の展開

6年生

(1) 単元名 武士の世の中へ

(2) 本時のねらい

源頼朝の挙兵や源義経の活躍などを調べを通して、源氏により平氏が滅ぼされ、源頼朝が征夷大將軍になり、鎌倉幕府を開いたことを理解することができる。

(3) 本時の展開

・留意点 ★ICTの活用	学習活動	段階	学習活動	・留意点 ★ICTの活用	
<ul style="list-style-type: none"> ★クラスルームで学習の流れを提示。 デジタル教科書で調べ、ノートにまとめる。 養殖は、手間をかけているからこそ、生産が安定していることをおさえる。 栽培漁業は「とる漁業」を支えていることに気付かせる。 消費者などのせりふを準備する。 	1 学習計画を確認し、学習課題をつかむ。	直 間	1 前時の内容を復習する。 ・平清盛は、娘を天皇のきさきにするなどして、大きな力をもっていた。	★ジャムボード上に、デジタル教科書の画像などを使ってまとめ、交流する。	
	<p>つくり育てる漁業はどのように行われているのだろう。</p>	2 調べる。 ・養殖は手間をかけて育てている。 ・水産センターでは、魚を育てて海に放流する栽培漁業を行っている。	間 直	2 源頼朝と平清盛の年表を見比べる。 ・清盛は頼朝の父を破り、力をもった。 ・頼朝は、伊豆に流されたが、平氏を滅ぼして征夷大將軍となった。	★頼朝の年表の一部を隠してスライドで提示する。
	3 発表する。 <養殖> ・歯切りなどの手間をかけてよりよい品質の魚を生産している。 ・手間をかけている分、生産が安定している。 <水産センター> ・病気への対応やウイルスの研究をしている。 ・水産資源を守り、安定して魚をとれるようにしている。	3 学習課題をつかむ。	直 間	3 学習課題をつかむ。 源氏はどのようにして平氏をやぶったのだろう。	★ジャムボードに予想を出し合い、調べる観点を共有する。
			4 予想する。 ・平氏に不満をもつ人が味方をした。 ・戦いに強い人が現れた。	★デジタル教科書を使って調べ、ノートにまとめる。	
			5 調べる。 ・頼朝は北条氏や東国の武士たちと兵を挙げた。 ・義経が率いた源氏の軍は次々と戦いに勝った。		

★ジャムボード上に意見を出し合う。	4 コメントを考える。 「養殖の魚は品質が心配だ」 ・病気やウイルスの研究をしているので、安心です。 「広い海には魚がたくさんいる」 ・魚は限りある資源です。	間	直	6 発表する。 ・頼朝は鎌倉で戦況を見守った。平氏を破った後、鎌倉に幕府を開いた。 ・義経は壇ノ浦で平氏を滅ぼした。 ・なぜ戦いで活躍した義経ではなく、頼朝が幕府を開いたのだろうか。	★デジタル教科書をテレビに映しながら発表する。 ・頼朝と義経がしたことを整理しながら板書する。
	★スプレッドシートに入力する。	5 まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">つくり育てる漁業は、時間や手間をかけて大切に育てている。水産センターでは、水産資源を守っている。</div>	直		
★スプレッドシートに入力する。	6 振り返る。 ・栽培漁業の取組は、これからの水産業で大切だと思った。	間	直	7 頼朝が幕府を開いた理由を考える。 ・頼朝は武士の領地を認めたり、家来を守護や地頭につけたりと、武士の立場をよくしたから。	★スプレッドシートに入力させる。
・学習計画を確かめる。 ★スライドで資料を提示する。	7 次時の学習内容を確かめる。 ・水産加工品がどのようにつくられているのか調べよう。				

デジタル教科書の画像を使ってまとめたものを発表する



デジタル教科書で調べたことをノートにまとめる



3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・予想を黒板に残すことで、前に戻って考えることができる。
- ・ジャムボードは、他の人の意見を参考にして意見を出しやすいが、一部の児童の考えに引っ張られてしまうことがある。自分の考えをしっかりとまとめる工夫が必要。

平成29・30年度版ハンドブック（一般編）関連項目

* 第4章 第2節 「学年別指導」 P38～44

2 複式学習における効果的なICT機器の活用

事例1 AI型ドリルによる習熟

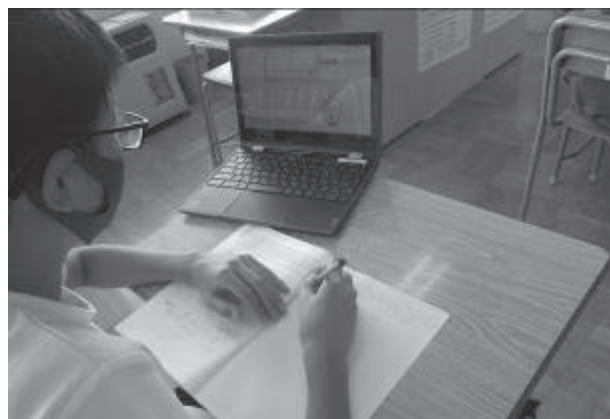
【使用したICT】一人一台端末（Chromebook）・AI型ドリル（eライブラリ）

AI型ドリルを使用することで、個別に最適化された学習を行うことができる。児童自ら、解答を確かめることができるため、間接指導時にも効果的である。しかし、選択式での解答は、クイズのようになってしまうことがあるため、自分の考えをノートにまとめながら取り組む等、注意が必要である。

AI型ドリルに取り組む



ノートを使ってAI型ドリルに取り組む

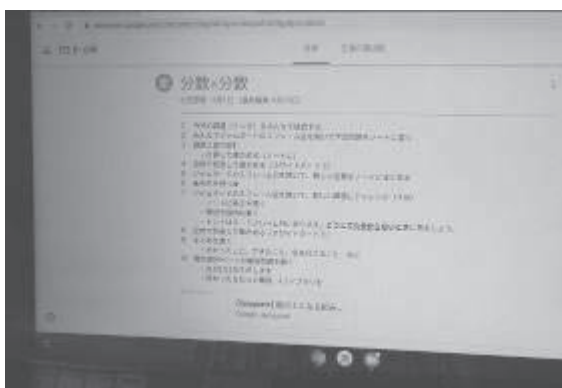


事例2 ホワイトボードアプリ（Jamboard）を使用したヒントの提示

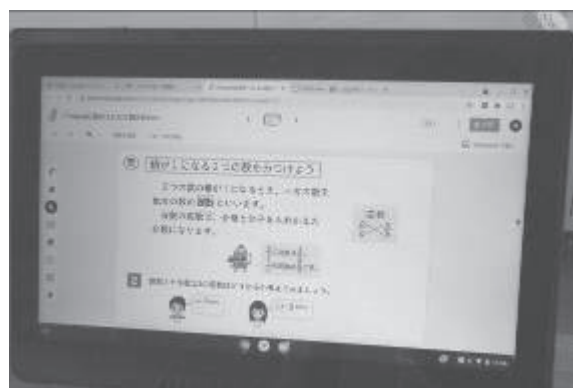
【使用したICT】一人一台端末（Chromebook）・Jamboard

算数科の学習等、自力解決を間接指導で行う場合、児童への個別の支援が難しく、解決の見通しをもたせすぎてしまうことがある。そこで、ホワイトボードアプリのフレーム機能を活用し、児童が必要に応じてフレームをめくり、ヒントを見られるようにする。ヒントのレベルに応じて、複数のフレームを用意しておくことで、自分に合ったヒントを見ることができる。

児童への課題



ヒント



平成29・30年度版ハンドブック（一般編）関連項目

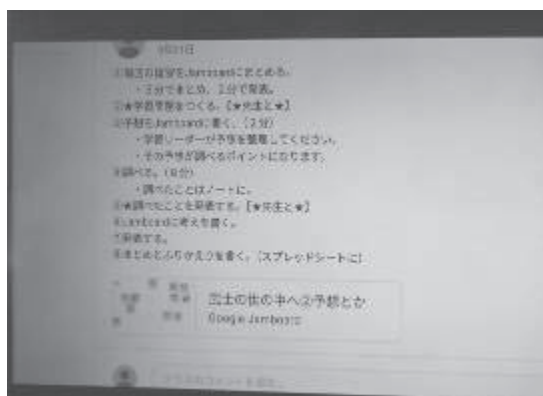
* 第4章 第4節 「学習効果を高める工夫」（学習形態・指導法等）P54～56

事例3 ICT機器を活用した学習の流れの共有

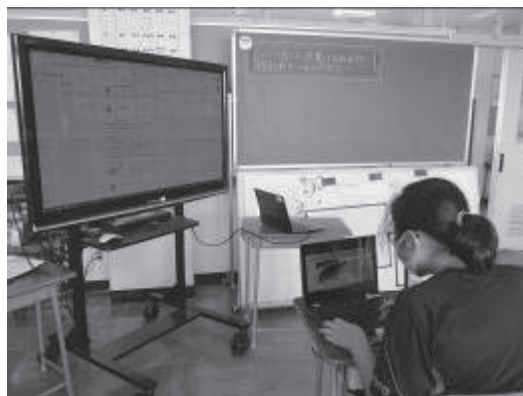
【使用したICT】一人一台端末（Chromebook）・大型モニター・Google Classroom

一人一台端末や大型モニターを使用することで、学習の流れを全員で共有することができ、ガイドが困ったときには、お互いに助け合いながら学習を進めることができる。また、「ガイドの手引き」等の形式にとらわれない学習の流れも容易に作成できる。

Google Classroomを使用した学習指示



大型モニターを使用した学習指示



事例4 ホワイトボードアプリ（Jamboard）を使用した意見交流

【使用したICT】一人一台端末（Chromebook）・Jamboard

児童にとって、ホワイトボードアプリに書き込むことは、みんなの前で発言することに比べて容易である。また、意見が思いつかない場合は、友達の書き込みを参考にできるため、間接指導においても、全員が意見を持ち、交流しやすいという特長がある。

ホワイトボードアプリに書き込む



分類された意見



平成29・30年度版ハンドブック（一般編）関連項目

* 第3章 第4節 「学習効果を高める工夫」（学習形態・指導法等）P54～56

事例5 漢字の復習

【使用したICT】大型モニター・ドリル付属のアプリケーション

漢字のドリル等に付属しているアプリケーションを使用し、国語の間接指導時に漢字の復習を行う。また、算数の間接指導時には、計算のフラッシュカードを用いた復習を行う。

漢字の筆順の復習

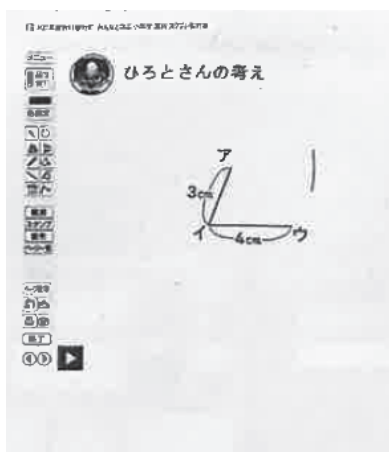


事例6 算数科における前時の復習

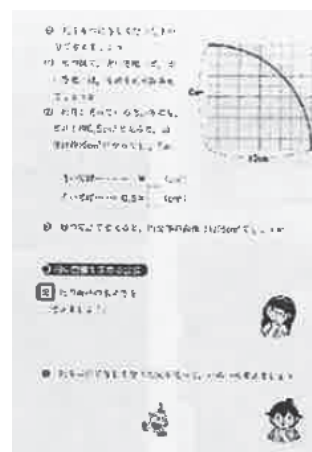
【使用したICT】大型モニター・教師用指導書添付ソフト教材集・デジタル教科書

ガイドがアプリケーションをクリックし、作図の動きに説明を加えながら、前時の復習をする。デジタル教科書でも同様の復習が可能である。

平行四辺形の描き方の復習



円の面積の求め方の復習



平成29・30年度版ハンドブック（一般編）関連項目

* 第4章 第4節 「学習効果を高める工夫」（学習形態・指導法等）P54～56

第3章

第2節 特別活動の実践例

1 学級活動実践例

2 交流活動実践例

第2節 特別活動の実践事例

1 学級活動実践例

アンケート機能を活用した学級活動

1 活動のねらい

学級活動においては、話し合う内容に対する児童の切実性が大切である。

本事例は、Google フォームを活用し、アンケートの結果を即座に学級全体で共有することで、学級の課題に対しての切実性をもたせようとしたものである。

2 活動の内容

- (1) 参加者 3・4年生 7名
- (2) 準備物 ・大型モニター（各教室） ・一人一台端末
 ・ホワイトボードアプリ（Jamboard）
 ・アンケート（Google フォーム） ・映像教材（NHK for School）
- (3) 内 容

内 容	留意点
<p>1 これまでの日常生活の中で、友達からされて嫌だったことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早くやって。」と言われた。 ・上手にできなかつたら、「あーあ。」と言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google フォームによるアンケートを行い、結果を大型モニターで提示する。
<p>2 学習課題をつかむ。</p> <p>問 チームで勝負するとき、どんな言い方をすればよいのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画で問題場面をテレビに提示する。 ・自分にも同じような経験がないか考えさせる。
<p>3 よくない言い方を見て、相手がどんな気持ちになるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気をつけてよ。」だとプレッシャーになる。 ・「ゆるさないからね。」だと、言い方が怖くて、やりたくなる。 ・「ダメだよ。」と言われると、がんばっているのにできなくて悲しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よくない方の動画を初めに見せる。 ・言葉だけでなく、表情や声のトーンにも注目させる。
<p>4 どう言えばよいのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がんばれ。」「おうえんしているよ。」「だいじょうぶだよ。」 ・「おしかったね。」「どんまい。」「次はできるよ。」 ・「すごい。」「上手。」「やったね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard に、考えた言い方を入力させる。 ・失敗したときや、成功したときの言葉がけも考えさせる。 ・よい例の動画を見て、ふわふわ言葉を使うと相手がうれしい気持ちになることを確認する。

<p>5 実際にふわふわ言葉を使ってみる。</p> <p>6 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉を言われて、やる気が出た。 ・楽しい雰囲気に対決ができた。 ・相手の気持ちを考えることができた。 ・前は責めた感じで言っちゃったけど、今日は優しく言えた。 <p>7 これからがんばりたいことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから、体育でサッカーをやるときも、友達がうれしくなるような言葉を言いたい。 ・負けても責めるような言い方はしないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班対抗で積み木を積み上げるゲームを行う。 ・Google スライドに振り返りとこれからがんばりたいことを入力させる。 ・前と比べて言葉がけが変わっている児童がいたら紹介する。
---	--

アンケートに取り組む



動画を見て考える



Jamboard に入力する



3 へき地・複式教育の観点からみた学習指導上の配慮事項

- ・アンケート結果を提示する際には、プライバシーや個人情報等に気を付け、個人が特定されないという安心感をもたせる。
- ・共同編集が可能なアプリケーションは、他の人の意見を参考にできるため、なかなか意見をもてない児童にとっても有効である。
- ・大型モニターやPC 端末等、児童の注意が散漫にならないよう、必要のないときは閉じる等の指示を出す。

平成29・30年度版ハンドブック（一般編）関連項目

* 第3章 第2節 2「望ましい人間関係の育成」 P28

2 交流活動実践例

オンラインによる児童集会（いじめしま宣言）

1 活動のねらい

様々な要因により、体育関等に児童が集まって集会活動を行うことが困難な場合がある。

本事例は、各教室をオンラインでつなぎ、児童が ICT を活用して作成した資料を基に、集会活動を行ったものである。

2 活動の内容

- (1) 参加者 全校児童
- (2) 準備物 ・大型モニター（各教室） ・PC
・発表資料（プレゼンテーションソフトで作成）

(3) 内 容

時間	内 容	留意点
7 : 5 5	オンライン Web 会議システムの準備。 ・ホストが会議を開く。	・事前に必要なパスワード等を周知する。
8 : 0 0	各教室から Web 会議システムへ参加。	・名前を「〇年生」にする。
8 : 0 5	児童集会開始。 ・校長先生とあいさつをする。 ・「画面共有」機能を用いて、資料を提示する。	・教室全体が映るようにする。 ・マイクを ON にする。 ・発表中は、児童が自分でマイクの ON と OFF を切り替える。
8 : 2 0	児童集会終了。	・使用した資料は印刷して、校内に掲示する。

資料の発表



クイズを出し合う



発表資料の掲示



平成29・30年度版ハンドブック（一般編）関連項目

* 第3章 第4節 「へき地学校・複式学級の特性を生かした生徒指導」 P 32～33

近隣校とのオンラインによる交流

1 活動のねらい

小規模校では、人間関係が固定化されてしまうことが多く、そのため、新たな仲間に出会うことに抵抗を感じる児童がいる。

本事例は、同じ中学校区にある小規模の小学校同士の交流を通して、新たな仲間と出会うことの楽しさを感じさせ、中学校進学への不安を少しでも和らげようとするものである。

2 活動の内容

- (1) 参加者 H小5・6年生(18名) D小5・6年生(11名)
- (2) 準備物 ・大型モニター ・PC
 ・学校紹介と学校クイズ用資料(プレゼンテーションソフトで作成)
- (3) 内 容

時間	内 容	留意点
13:30	オンラインWeb会議システムの準備。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にホスト校を決め、必要なパスワード等を周知する。 ・マイクをONにし、相手の反応が分かるようにする。
13:50	オープニング。	
13:52	自己紹介。	
14:05	学校紹介。(各校3分程度) <ul style="list-style-type: none"> ・各校の行事の様子など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズの解答は、挙手や代表者の発言で行う。
14:15	学校クイズ。	
14:30	エンディング。	

他校の発表を聞く



スライドを使って発表する



一人ずつの自己紹介



平成29・30年度版ハンドブック(一般編) 関連項目

* 第2章 第2節 「児童生徒のよさや可能性を生かしたへき地教育の展開」 P15・23

小・中学校の代表者によるオンラインでの話し合い活動

1 活動のねらい

本事例は、同じ中学校区にある6小学校及び中学校のリーダー児童・生徒が、オンライン会議システムを使用し地域の課題について話し合うことで、自らの活動を通して地域全体をよりよいものにしていこうとする態度を養うものである。

2 活動の内容

- (1) 参加者 小学校（6校）・中学校（1校）の代表者 各校数名
 (2) 準備物 ・大型モニター ・PC
 (3) 内 容

時間	内 容	留意点
9 : 4 5	Web 会議システムに接続し、接続確認を行う。	
1 0 : 0 0	開会式。	・司会は中学校が担当する。
1 0 : 0 5	話し合い活動。 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、言葉遣い、交通ルールの3つのグループに分かれて、自分の学校の成果や課題について話し合う。 ・ホワイトボードアプリに意見を書き込む。 	
1 0 : 4 0	話し合いの報告。	
1 0 : 5 0	感想の記入と発表。	・代表の中学生が行う。
1 1 : 0 5	閉会式。	

オンライン会議システムで参加する



ヘッドセットを使用時の話し合い



平成29・30年度版ハンドブック（一般編）関連項目

* 第2章 第2節 「児童生徒のよさや可能性を生かしたへき地教育の展開」 P15・23

第4章

へき地学校・複式学級教育Q & A・用語集

へき地学校・複式学級教育 Q & A

Q 1 初めて複式学級を担当しました。これからどのようにして授業に取り組んでいったらよいのでしょうか？

A 1 はじめは基本形をつくり、徐々に教科や教材の特質によって変化をもたせていくのがよいでしょう。

(1) 実際に授業を見る

最も効果的な方法は実際の複式の授業を見ることです。他校の授業を児童生徒と一緒に参観させてもらってもよいし、できない場合は複式学級の授業の動画を視聴するなどでもよいと思います。

(2) 1 単位時間の学習過程をつくる

学年のはじめの教材は複式で行わず、同内容指導的な計画を組んで両方の学年と一緒に 1 単位時間の学習過程を身に付けさせる指導を繰り返して行います。

(3) 間接指導を少しずつ取り入れる

学習過程が定着してきたら間接指導における学習の仕方を児童生徒に身に付けさせます。間接指導は、5 分間ぐらいから始めて、最終的には 15 分間ぐらいできるようになればよいでしょう。

(4) ガイドを育てる

1 単位時間の学習過程に間接指導が位置付いてきたら、ガイドが学習を進めていくための練習を開始します。その際、ガイド用の進行カードがあれば役に立ちます。(平成 29・30 年度指導資料第 39 集へき地・複式教育ハンドブック (一般編) 44 ページ参照)

(5) 評価をする

内容面での評価ばかりでなく、学習態度等に関わる評価もして児童生徒を励ますことが大切です。

Q 2 複式学級を経営する上で、基本的に押さえておかなければならないことは何でしょうか？

A 2 上学年と下学年で構成された少人数学級であるという特性を踏まえた経営を心がけることが大切です。

(1) 学級の中での一人一人の存在が占める意味が大きく、一人の欠席が授業や活動の停滞を招いたり、一人の主張により解決の糸口を見い出せなくなったりすることがあります。そこで、意見や提案は第 1 案、第 2 案、第 3 案として出すように、偏りや固定化を防ぎ、主張の弱い児童生徒が加わる余地を確保するなどの工夫が大切です。

(2) 年齢差があるため社会性の訓練の場としての要素がある反面、上学年からの圧迫したムードが沈滞的雰囲気をかもし出してしまうこともあります。そこで、下学年の新鮮な考え方を上学年が積極的に取り上げ、新たな発想で意識的に学級を変えていくように指導したり、一人一人に目標を設定させたり、「私の考え箱」などを設け、気付いたらすぐ行動できるようにさせたりするなどの工夫が大切です。

(3) それぞれの活動の場があり、役割や責任を果たす機会を多くもてますが、少人数であることに加え、兄弟姉妹や従兄弟姉妹がいることもあり、日常の馴れ合いが学級会などの話し合い

に深まりを欠く原因となり、すぐに行き詰まってしまうこともあります。そこで、教室の活用を考えた座席替えや模様替えを定期的に話し合わせて行ったり、学級だよりを他校と交換し合い、自分の学級でやれることを取り入れたりするなどの工夫が大切だと思います。

Q 3 複式学級での上学年と下学年のよりよい人間関係づくりの方法にはどのようなものがありますか？また、上学年の方に指導が必要な場面が多いときの学級経営はどのようにすればよいのでしょうか？

A 3 上学年、下学年という前に、単式学級と同様に学年にかかわらずクラスメイトとして全員で温かい学級を作っていくという意識を、まずは一人一人にもたせることが大事です。

しかし、複式学級では、同じ学級の中に横のつながり（同学年）と縦のつながり（異学年）があります。横のつながりはもちろんですが、縦のつながりを教師がより強く意識しておくことが大切です。そして上学年を下学年の「憧れ」にしていくことが、複式学級をもつ担任の大事な役目といえます。「です」と断定できないのであれば、下学年は上学年に憧れて成長する。上学年は、下学年に憧れられて成長する。児童生徒に「憧れ」の具体を考えさせてみてはどうでしょうか。

また、一般的に複式学級の児童生徒は、隔年で上学年と下学年を繰り返していきます。例えば、小学校3・4年生のクラスにおいて、3年生だった児童が4年生になったとき、同学年のメンバーは変わらないのに、学級の中で役割や立ち位置は変わります。そういう点も教師は踏まえておくことが大切です。5・6年生になった時に、3・4年生の時のことを振り返ってみて、成長した自分を学級全員で実践するといった場の設定も必要です。

指導については、上学年であろうと下学年であろうと必要な指導はどんどん行うべきです。ただし、下学年の前で上学年を叱らないといった、上学年が指導によってよい方向に変わっていく姿を、下学年にしっかり見せていくことで、上学年と下学年の信頼関係もつくっていけると考えます。

Q 4 複式学級において「多様な考え」に触れさせるにはどうしたらよいのでしょうか？

A 4 多様な考えを、「多くの考え」というように量的なことで捉えがちですが必ずしもそうではありません。その時間のねらいに迫るために必要なものの見方・考え方・感じ方といった視点で捉えることが大切です。

このような観点に立った「多様な考え」に触れさせることで、児童生徒は多面的な見方をして、学習の方向性を見いだしたり、学習内容を深めていったりすることができます。そこで重要となるのが、学習を通して到達させたいねらいを教師が明確にもつことです。そのねらいに向けて必要な「多様な考え」に触れさせる方法を工夫することが大切です。

次にその一例を示します。

(1) 見方・考え方の視点を示し、「多様な考え」を引き出す

自分の考えをもつ場面では、より多くの見方・考え方を導き出すために、見通しのもとせ方や教師の発問、教材提示の方法等に工夫を凝らします。絵や映像等のメディアの種類を増やしたり、ヒントカードの様式や提示方法を工夫するだけでも児童生徒の考えは広がります。

(2) 感じ方・捉え方の違いから「多様な考え」を導き出す

児童生徒の考えの類似点や相違点を明らかにする働きかけを行ったり、児童生徒の考えに対して「なぜ」「どうして」「その考えはどこから」といった発問を投げかけて言葉を引き出したりすることで、感じ方や捉え方の違いを明確にさせます。そうすることで児童生徒の思考を促し、新たな考えを導き出します。また、教師が誤答例を示して考えさせたりすることでも、児童生徒は様々な考え方を模索します。

(3) 学習友達を設定し「多様な考え」を導き出す

間接指導等の充実のために教師が学習友達（仮称）を設定し、児童生徒が、教師の提示したい課題やヒントを学習友達から得て自ら考えるようにすることも有効な手立てです。学習友達は年間を通して意図的に設定し、学びの中で児童生徒と共に成長させていくことも考えられます。

また、教師自身が第三者（別の考えをもった学習友達）になりきり、考えを伝えたりすることも児童生徒への援助となります。

※ 学習友達とは、ぬいぐるみや人形などを使った架空のクラスメイトのこと。

(4) ICT機器の活用

インターネットを介したメールや映像のやりとり、またオンラインシステムにより他校の児童生徒との情報交換によって、つながりをつくり、交流させて互いの考えを高め合わせます。

また、児童生徒の学びに役立つWebページの活用も、多様な考えに触れさせる上で有効です。

Q 5 学年間を行き来しようとしても、すんなりといかないことがあります。また、そのために段取りにも時間がかかってしまいます。もっと細かく配分して何度も「わたり」をしてもよいのでしょうか？

A 5 「ずらし」や共通導入・共通終末等の有無によっても異なりますが、複式学級の指導は適切な「わたり」があってこそ成立するものです。したがって、単なる回数の問題としてではなく、その結果として、間接指導の学年の児童生徒が安心して主体的に学習できているかという視点で捉えることが大切です。

「わたり」が少なすぎて、学習がストップしたり、児童生徒が指示待ちになったりするような場合は困りますし、だからといって、学習活動を細切れにして「わたり」を増やすとい

う指導も避けたいところです。単式学級の机間指導で声がけするのと同様に、見通しをもって主体的に取り組む児童生徒の学習状況を見取り、安心して活動に取り組めるよう、適切に声がけする「わたり」なら、むしろ多くてよいという考え方もあります。

Q 6 学びを振り返ったり深めたりする時間を確保するためにはどうしたらよいのでしょうか？

A 6 複式学級の指導は、主体的・対話的な学びについて、間接指導の充実として日常的に取り組んできたと捉えることができます。しかし、単に指示どおりの活動をさせるだけでなく、例えば下のような学び方について指導しておくことが考えられます。

指示待ちの間接指導から、「主体的・対話的な学び」の実現へ

- ・間接指導では、児童生徒が見通しをもっていることが必要。
- ・自分の答えの自信のなさ、不安、聞いてみたい、相談したい、…から、主体的・対話的な学びが生まれる。
 - ① まずは、自分で考えてみようね。
 - ② 次は、相談してみようね。
 - ③ いろいろ出たら、よりよい方法がどれか考えてみようね。
 - ④ できれば、自分でまとめてみようね。…と、徐々に指示無しでも児童が進められるようになるとよい。

また、質の高い理解には、各教科の見方・考え方を働かせ、深い学びの実現を図ることが不可欠です。複式学級の指導でも、授業の後半で学習したことを活用し、新たな問題解決や討論に取り組ませるなど、豊かな教材研究を基に児童が既習事項と関連付けたり構造化して理解したりできるような場面を設定することが大切です。

したがって、45分間の授業づくりでは、深い学びの実現を図る学習活動や学習の振り返りの時間を優先し、残りの時間に収まるように、導入から展開への流れをシンプルに扱うことが考えられます。算数の適用問題は同内容同構造の問題が多くなる場合があり、これでは答え合わせにとどまってしまうかもしれません。そこで、次時の問題や巻末の補充の問題など、内容や構造の異なる問題も積極的に取り上げ、「さっきと違う。」「んっ？うまくいかない。」「どうしたらよいかな？」などの気付きを生かして、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが考えられます。

さらに、学習評価の充実という面では、本時の指導のねらいを明確化し、一人一人の学習状況を捉えることが大切です。「わたり」が必須になる複式学級では時間がなくて難しいという声を耳にすることがありますが、一方で35人の単式学級のほうが大変だという声もあります。直接指導には、教師の説明だけではなく、児童生徒の学習状況を適切に捉える役割もあることを再確認し、従来の授業観・指導観をこの機会に見直してみることも必要です。

Q 7 サポートの先生との指導をどのように役割分担したらよいでしょうか？

A 7 小規模校では、教職員数も少ないため、サポートする先生や地域の支援員の存在が大きな力になります。複式学級の場合はなおさらだと思われませんが、学校や児童生徒の状況、教科等の特質などによって様々な役割分担が考えられますので、効果的なサポートの在り方について各学校で検討しておくことが大切です。

いずれにしても、複式学級の場合は、間接指導の場面で児童生徒の活動を見守ってもらうだけで大きな力になります。サポートする先生などがいるからといって、一方の学年が直接指導で教え込みのようになって困ります。複式教育のメリットを生かした授業づくりには無数の正解があるはずですから、目の前の児童生徒にとっての最適な方法が何なのか大いに議論していただければと思います。

Q 8 直接指導、間接指導において大切なポイントはどのようなことでしょうか？

A 8 直接指導、間接指導を計画する時は、児童生徒の実態や単元の目標、指導事項等を踏まえ、直接指導が必要か、間接指導が可能かをよく検討した上で、直接指導が重ならないように授業の流れを組み立てることが基本となります。直接指導では、最初に授業のめあてや学習の流れを示すこと、間接指導についての指示を的確に出すことが大切です。間接指導では、学年の実態に応じて約束を決めたり、自分たちで学習するパターンを指導したりして、自学自習ができる体制を整えていきます。また、黒板やワークシートにヒントを準備しておくこと、つまずいた児童生徒も学習を進めることができると考えます。

Q 9 複式学習指導において効果的な教室環境とはどのようなものですか？

A 9 複式学習指導においては、黒板や机の配置、教育機器の導入、指導者の立ち位置などを工夫することが大切です。

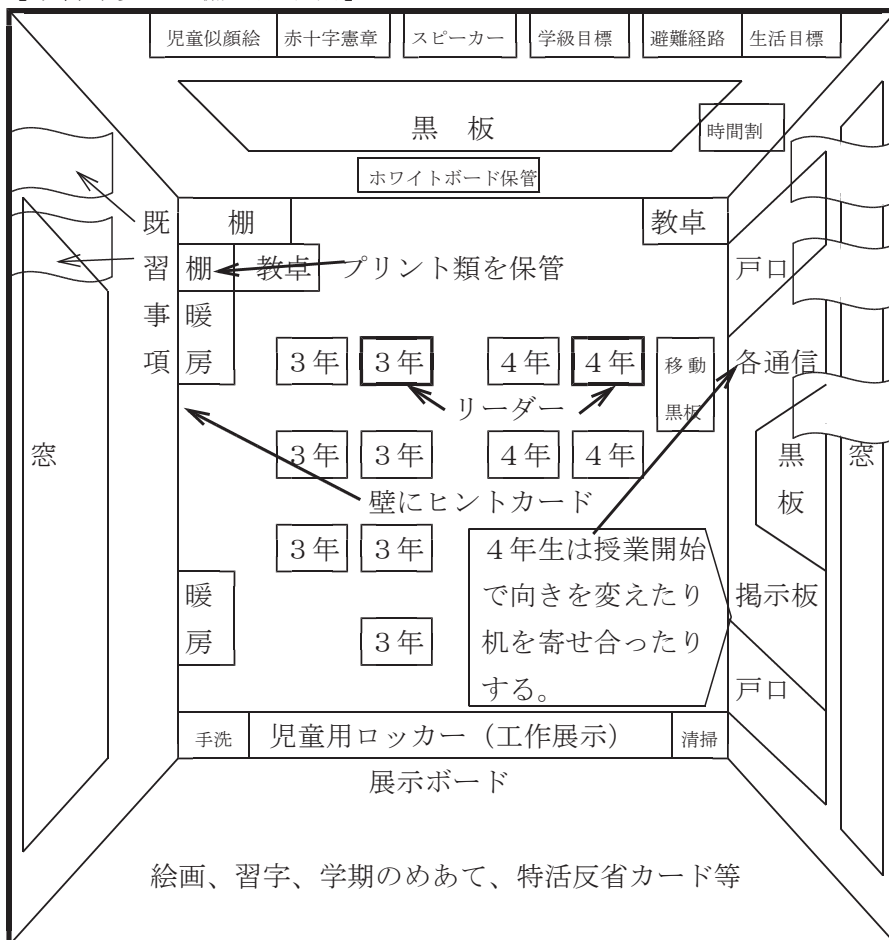
また、思考の道筋を明らかにする上で効果的な教具として、タイマーやストップウォッチ、プロジェクターや書画カメラ、黒板に貼り付けができるホワイトボード、ヒントカードやチャレンジカードなどがあります。さらに児童生徒が主体的に調べることができるように国語辞典やICT等を配置しておくことよいでしょう。ただし、ICT等の活用については、それぞれの使い方の指導を徹底しておくことが大切です。

※チャレンジカード：発展的な問題が書いてあるプリント等

Q10 教室の掲示物について、効果的で変化をもたせるにはどのようなものがありますか？

A10 複式学級では授業準備等に追われ、教室の掲示物をどんどん新しいものに貼り替えていく時間を確保することが難しかったり、児童数に対して掲示スペースが広すぎ、もて余してしまったりという学級を目にすることもあります。書写コーナー、絵画コーナー、学級活動コーナー（係活動やめあてなど）、学習コーナー（漢字や算数の用語やきまり、歴史年表など）など、年度当初にある程度コーナーを固定し、「貼り重ねるもの」、「貼り替えるもの」、「貼り加えるもの」を分けておくとよいかもしれません。

【学習環境の整備：実践例】



- 廊下（ワークスペース）
- ①教室環境の整備
 間接指導時に児童生徒が、自主的・主体的に学習に取り組むことができるように整える。
 - ・既習事項掲示
 - ・具体物
 - ・視聴覚機器
 - ・活動する場所
 - ②机の配置
 複数の学年が異なる内容の学習を一つの教室で同時に行うことから、机の配置を工夫。
 - ・各学年児童の人数や学習内容

Q11 完全複式において、年度当初の指導に時間がかかるのですが、よい方法はありますか？

A11 1学期は、入れ替わった児童生徒の指導に時間を要することが多くなりがちです。そこで、持ち上がりの児童に対してはこの機会を捉えて自分で学習する習慣を付けさせたり、新しいクラスメイトに教えさせたりすることで、活躍する場をつくることができます。

Q12 ペア学習やグループ学習をできる人数がありません。これでは、自分の考えを深めることも難しいと思うのですが、何かよい方法はありますか？

A12 教師が、架空の人物の役を演じて誤答を出したり、児童生徒とは違った考えを出したりするのも一つの方法です。また、学習の成果を他の学年や担任以外の先生に発表し、感想や意見をもらうことも考えられます。

Q13 少人数のため、人間関係の固定化や、トラブルの自己解決力の低下を懸念しているのですが、何かよい方法はありますか？

A13 全校給食の座席をこまめに変える、全校遊びや縦割り班での活動を増やすなど、児童生徒相互の交流が進むよう配慮するなどの工夫が必要です。また、地域の方々や他校の児童生徒との交流などを通して、意図的にコミュニケーション力の育成を図っていくことも大切です。

Q14 授業が遅れがちになり、単元が予定の時間数で終わらないのではと不安に感じています。何かよい方法はありますか？

A14 指導計画を重点化・焦点化して精選した上で、それに応じた適切なワークシートを準備するのも一つの方法です。また、単元の配列を変えたり、習熟練習やテストなどの組み合わせを工夫したりするなどの手立ても考えられます。他に、児童生徒に単元や授業の予定を知らせ、見通しをもたせながら学習が進められるようにすることも大切です。

Q15 他学年の授業が気になり、自分の学年の授業に集中できない児童生徒がいた場合、何かよい手立てはありますか？

A15 座席配置を背面型やL字型にする、つい立てを置くなど、その子が集中できる学習環境を工夫します。人数や実態に応じて配置します。また、学習のルールを徹底させたり、場面に応じて声の大きさを考えさせたりするなど、環境に慣れさせることも必要です。

Q16 5・6年の複式学級では卒業式の指導が難しいのですが、よい方法はありませんか？

A16 担任一人では指導が困難であり、協力体制が必要です。例えば、6年生が担任と卒業式の練習をする時は、他学年の教師が5年生を中心に下学年と卒業生を送る準備を進めたり、歌の練習をしたりするなど、協力し合って練習を進めるとよいでしょう。

Q17 複式学級ではワークシートを使うことが多く、ノート指導が難しいのですが、どうすればよいのでしょうか？

A17 日付や課題、ワークシートの貼り方やまとめの書き方など、基本的な使い方を学校で統一し、低学年から取り組ませると身に付きやすいと考えます。また、よいノートの例を見せて児童生徒の意識を高めるなどの工夫も考えられます。

Q18 異学年で行う生活科をどう進めればよいですか？

A18 生活科の目標及び内容は、2学年共通で示されていることを生かし、2学年同単元（A・B年度方式）で指導するとよいと思います。ただし、1年生と2年生の発達の違いや実態に応じて、目標や活動の程度を考慮します。指導計画の立て方の一つとして、内容をA・B年度に分け、異なる単元（例：A「なつとなかよし」 B「まちたんけん」）と、毎年実施する共通単元（例：「がっこうたんけん」）とで構成する方法があります。

【A・B年度方式で異なる単元の展開例】

A年度：近隣の公園へ繰り返し出掛ける活動を中心にした単元

[内容（4）公共物や公共施設の利用、内容（5）季節の変化と生活]

[ねらい] 四季の変化を感じたり、公共施設を利用しながら、みんなで使うものがあることやそれを支えている人がいることに気付く。

B年度：地域を繰り返し探検する活動を中心にした単元

[内容（3）地域と生活、内容（8）生活や出来事の交流]

[ねらい] 身近な人々と進んで交流する楽しさに気付くとともに、地域に親しみや愛着をもつ。

【毎年実施する共通単元の展開例】

○「がっこうたんけん」[内容（1）学校と生活]

[留意点] 単元の目標や活動の内容を学年段階に応じたものとする。例えば、学校探検をする際に、2年生には探検の計画を立てさせ、案内役を務めさせる。自分の成長に気付かせることをねらいの一つとする。など

○「つくってあそぼう」

[内容(5) 季節の変化と生活、内容(6) 自然やものを使った遊び]

[留意点] 1年生は採集した自然物を使っておもちゃを作り、2年生は動くおもちゃを作るなど、活動の程度に変化をもたせる。

○「大きくなあれ」[内容(7) 動植物の飼育・栽培]

[留意点] 1年生は、アサガオなど花の栽培をし、2年生は、野菜の栽培をするなど、対象を変える。または、どちらも同じように花も野菜も栽培しながら、前年度の経験を生かして、違う種類、異なる栽培方法などに挑戦するといった活動を展開する。単元を構成する際には、内容構成の11の具体的な視点と15の学習対象がどのように組み合わせられているか、十分配慮する。

Q19 外国語科の年間指導計画はどのように立てたらよいですか？

A19 「外国語科の年間指導計画の例」は47ページを参照してください。

Q20 互いの学年が同時に発言し合うと声が重なり合って響き、発言内容が聞き取りにくく、戸惑ったことがありました。何かよい方法はありますか？

A20 音量についての指導に加え、発言するタイミングをずらすなど学習過程を工夫したり、音読をする時は、廊下やワークスペース(教師の見える範囲)を使い、距離を離してやらせる方法もあります。

Q21 複式学級の授業に慣れるまで、両学年の学習内容や進行を混乱してしまうことがありました。何かよい方法はありますか？

A21 教卓を2つ準備し、教科書や教材を分けて備えておくことで混乱を軽減したり、指導案の展開部分も分けて机上に準備しておいたりするなどの工夫があります。

Q22 “ずらし”にズレが生じ、時間を有効に使えないことがあるのですが、何かよい方法はありませんか？

A22 直接指導が早く終わった時は個別指導を行ったり、間接指導で課題が早く終わった時は発表の準備や復習プリントを活用したりする等の対応をすればよいと思います。

Q23 複式学級指導に慣れていない児童の場合、教師が他方の学年の指導をしているときも質問してきたり、話しかけてきて戸惑っています。何かよい方法はありますか？

A23 自学自習ができる体制を整えることを心がけておけばよいと思います。そのために、例えば、年度当初の指導として、間接指導時は本当に困った時以外は自分たちで学習を進めていくことを指導します。また、教師がいない間の約束事をあらかじめ決めておいたり、自分たちで学習を進める時のパターンを指導したりするのもよいと思います。

Q24 複式学級での理科の実験の指導は危険を感じる場合があります。安全に行うためにはどのような方法がありますか？

A24 実験をしない学年に動画等の視聴を取り入れたり、同時間異教科の時間割を編成して安全に学習できる内容を取扱うなどして、事故防止に努める方法もあります。また、実験が必要な場合は単元をずらして指導計画を構成し、対応することも考えられます。

Q25 学習指導をはじめ、複式学級ではどうしても下の学年の指導に時間がかかってしまい、指導のバランスが取れないのが悩みです。どうすればよいのでしょうか？

A25 まず、下の学年には学習訓練として、教師がいない時に何をするか、課題が早く終わった時はどうするのか、ということを事前に指導しておくといよいでしょう。時には、上の学年の児童が下の学年の児童に教えてあげたり、一緒に学んだりする時間を意識的に設けることも考えられます。

Q26 ガイドの育て方が分からず、間接指導時に充実した学習をさせることができません。何かよい方法はありますか？

A26 ガイドの育成には相当な時間と労力を必要とします。初めのうちは進行表とワークシートを準備してリーダー学習で授業展開するという方法もあります。この方法であれば、リーダーとの打ち合わせを短時間で済ませることも可能になります。

Q27 できた課題を発表する際に、答えが間違っていることに全員の児童が気付かないまま授業が進んでいたことがありました。私の方も反対側の学年の指導について、そのことに気がませんでした。このようなことを起こさない方法はありますか？

A27 「わたって」いても、両方の学年の様子は常に把握しておくという姿勢が大切です。また、終末段階や確かめるの段階において、揺さぶりの発問をするなどして、身に付けさせたい知識や考え方となるよう教師が必ず関わるのが重要です。

Q28 下学年を前時の復習から始め、上学年を本時の導入から始めるように計画した時、下学年が復習に時間がかかり、わたりがタイミングよく進められずに困りました。どうすればよいのでしょうか？

A28 復習から入る学年には問題量や難度に配慮し、短時間で解決できるようにしておきます。そのためには、前時の児童の様子をしっかりと把握しておくことが重要となります。

Q29 新年度から担任になった学級の児童から、「もう去年の授業で勉強しました。」と言われました。このようなことが起こらないようにするにはどうすればよいのでしょうか？

A29 A・B年度方式で計画していた内容が明確に分けられていなかった可能性があります。前任者との引継ぎを含め、しっかりと確認が大切だと思います。

Q30 前年度に複式を組んでいた上学年の学習内容を覚えていて、予習ができているような状態だった時、どのように対応すればよいのでしょうか？

A30 下学年の児童は上学年の活動に憧れを抱いて授業の様子をよく見ているため、このようなことは少なからずあります。このような事象は、複式指導の利点とも言えますので、大いにほめてあげると、更に学習意欲が高まると思います。

Q31 上学年よりも下学年の方が学習態度等が落ち着いている場合について、どのように対応していけばよいのでしょうか？

A31 上学年よりも下学年の児童の方がよく指示を聞けたり、活動的であったりする場合があります。特に1・2年の学級の1学期は、入門期の1年生にじっくり目をかけることができずに困ることもあるかもしれません。しかし、上学年の児童に声をかけることにより、それを見ていた下学年の自主性が育つ場面もあります。どんな小さなことでも上学年がリーダーになれる機会を見逃さずに育てることで、下学年に憧れられる存在にしていきたいものです。

Q32 児童生徒が間接指導の際に、ICT等の教育機器を操作する活動を取り入れたいと考えています。何か気を付けなければならないことはありますか？

A32 新しい取組は事前にきちんと指導しておく必要があります。そのために、普段から機器の操作方法に十分に慣れることが大切です。子どもたちは習得が早く、いずれ的確に操作ができるようになり、リーダーとしての意欲にもつながっていきます。

Q33 人数が少ないと、欠席した児童がいた時に学習を進めてよいのか迷います。このような場合、どうすればよいのでしょうか？

A33 可能な範囲内で計画を修正しながら、なるべく全員がそろった状態で進めるのがよいと思います。そのために、普段から学習の進度に余裕をもっておくことが大切です。

異教科指導

同一時間内に、上・下学年それぞれに異なった教科の指導を行うものである。

異単元指導

異単元指導とは、教科は同じであるが、上学年は作文を書き、下学年は物語文を読むというように、異教材を取り上げて指導する方法である。

一本案

同単元指導計画の1つの類型であり、同単元異教材（異内容）指導による指導計画である。同単元であるが、上・下学年それぞれの目標を達成できるよう、内容や程度をかえて編成した指導計画で、学年差を強く考慮し、系統性をもった内容を学年別に2年繰り返す計画であるため、「繰り返し案」とも呼んでいる。

（例）国語科において、5・6年の指導目標や指導内容を考慮しながら、教科書教材を組み直す。

2年間で学習指導要領に示された国語の力がつくようにカリキュラム編成する。

異程度指導

1単位時間の指導過程において、上・下学年に対し、同じ単元（題材・教材）を指導していくとき、学年差を明らかにした指導のことをいう。教材は学年段階に応じて、系統性、適時性を踏まえて配列されているものである。したがって、取り扱う教材が学年ごとに異なる場合は、それだけで異程度といえる。しかし、上・下学年が同一の教材を用いる場合でも、それぞれの学年に示されている指導事項を明確にして授業を構成するときは、学年別の指導場面や個別指導の場面が必要となり異程度指導の過程が考えられる。

異内容指導

1単位時間の指導過程において、上・下学年に対し、同じ単元（題材・教材）を指導していくとき、取り扱う内容が、それぞれの学年で異なっている場合の指導。しかし、同単元指導のもとでの異内容指導の過程には、上・下学年に共通な指導事項を設定できる教材や、指導の系統性・発展性からみて、繰り返しの指導を必要とするところは上・下学年が同一の時間帯で同じように学習する場面も比較的多く考えられる。

ガイド学習

間接指導の効率化を高めるために考えられた小集団学習の一形態で、子ども集団から選ばれたガイドが、教師の指導のもとに立てた学習進行計画によってリードしながら、共同で学習する学習方法のこと。主として間接指導時の学習をグループで学習する学習形態である。ガイド学習の内容は、カード学習、基礎学習、強化学習（既習事項の強化・補足・習熟）、討議学習（課題解決）の類型に分けられ、ガイドと教師の関係によって一斉指導と個別指導に分けられる。

【ガイド学習の類型】

指導の段階	初期（1・2年）	中期（3・4年）	後期（5・6年）
主な指導型	一斉指導	一斉指導と個別	個別指導と一斉
学習類型	カード学習 基礎学習	基礎学習 強化学習	強化学習 討議学習

【参考：ガイド育成系統表】

(1・2年)

学習の流れ	課題 設定	自主 学習	討議学習	強化学習		
				カード学習	基礎学習	強化学習
<ul style="list-style-type: none"> ・教師のまねで進行の手順を習得する。 ・学習進行に必要な言葉が使える。 ・経験発表を自由に豊富にする。 			<ol style="list-style-type: none"> 1 「〇〇の話し合いをします。」 2 「つけたしはありますか。」 3 「質問はありませんか。」 4 「〇〇の話し合いを終わります。」 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「〇〇カードの練習をします。」 2 (カードを提示できる。) 3 「次に進んでいいですか。」 4 「カード学習を終わります。」 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「ガイドについて読んで下さい。」 2 「分かった人は手を挙げて下さい。」 3 「ガイドに指された人は答えて下さい。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題を出します。」 ・問題を作ることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・指示カードの内容を理解して読む。 ・指示したことを全員が理解したかどうか確かめることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「わけを言って下さい。」 ・公平に指名する。 ・教科書のページを指示することができる。 ・繰り返し指示することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・分かったかどうかを確かめる。 ・「〇〇さんもう一度言って下さい。」 	

(3・4年)

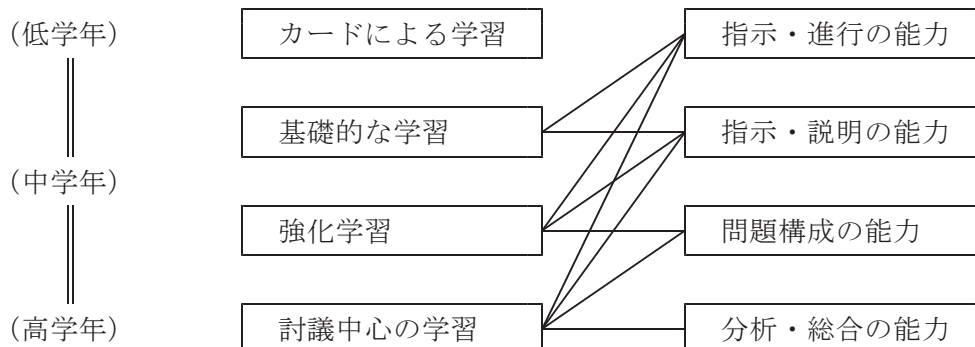
学習の流れ	課題設定	自主学習	討議学習
<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程や学習類型を理解している。 ・学習課題を理解し、進め方を計画できる。 ・簡単なまとめができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学習課題を言います。」 2 「ノートに書いてください。」 3 「質問はありませんか。」 4 「調べ方は・・・です。」 5 「自主学習は〇分です。始めてください。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題から外れないで調べることができる。 ・教科書を読んで課題に関係あることを選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の少ない者から指名することができる。 ・理由の発言を求められることができる。 ・勝手な発言を制止して、司会できる。 ・問い返しができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・予習の方法を工夫 ・発表や後で利用しやすいノートの工夫 ・家庭学習などの計画を立てる能力の拡大 ・指揮能力を高める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・辞典が使える。 ・参考書から課題に関係あることを選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かめの発言ができる。 ・図示して説明することができる。 ・行き詰まったとき、自主学習に移すことができる。 ・自分の考えを述べて問い返しができる。

(5・6年)

学習の流れ	課題設定	自主学习	討議学習
<ul style="list-style-type: none"> 形式は3・4年生で確立。5・6年で質を要求する。 全員ガイドができる。 多様な行動計画を立てることができる。 指揮能力を拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を分析することができる。 先行経験とつないで解決の見通しを立てることができる。 解決の方法を多角的に考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの使用に習熟している。 新たに加わった資料を書き加えることができる。 資料の出所を記録できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの内容をまとめて問題点の提示ができる。 例を挙げて説明できる。 成員の意見とつないで発言できる。

ガイドの役割

ガイドの役割は、学習の準備をし、学習規則を守らせて学習を進行させ、学習のねらいを達成することである。ガイドに要求される能力は、発達段階によっても違うが図示すると次のようになる。あくまでも教師は「教師が直接指導すべきことと、ガイドに任せることの選択」を誤らぬようにすることが大切である。ガイドへの諸指示は、口頭指示やカード、板書、計画表によることなどがあるが、初期（低学年）の段階では、教師の指示によって学習計画がカードに書き込まれ、ガイドは、その指示と進行の仕事が重視され、中期（中学年）では、基礎的な練習に力点をおき、指示や説明から強化的段階の問題構成へと発展し、さらに、後期（高学年）では、討議の中心の学習により、分析・総合へと導くことをねらって指導される。



学習リーダーの役割

学習におけるリーダーは、特定の児童生徒に固定せず、どの児童でもできるようにすることが大切である。授業を通してリーダーの役割や学習の進め方を理解させるとともに、他の児童にも学習リーダーに協力する態度を育てる必要がある。そのために、基本的な学習の進め方（学習指導過程）を児童にプリントで知らせるなどして、一人学習やグループ学習の仕方についても具体的に指導することが重要である。

学習リーダーの育成

リーダーというと、一般的な考え方で統率力や指導力のある人を育成することをイメージしがちであるが、ここでの「学習リーダー」とは、小学校1年生でもできる程度のものと押さえている。つまり、だれもが学習リーダーができるようにすることが大切である。そのために、年度当初に、児童に基本的な学習指導過程を示すとともに、学習の進め方を繰り返し指導して理解させる必要がある。

- ①児童全員に基本的な学習指導過程を示し、単元の学習の流れを理解させる。
- ②1単位時間の学習過程を示し、学習の進め方と学習リーダーの役割を理解させる。
- ③学習リーダーの進行により授業を行い、他の児童にも学習の進め方を理解させる。
- ④授業を通して、学習リーダーの質問や指示に対する答え方などを全員に指導する。
- ⑤全員に一人学習やグループ学習の仕方、ノートの取り方、発表の仕方など、学習の仕方を指導する。
- ⑥授業の始めから学習リーダーの手で進めるようにして、どこで教師が出るかをよく計画しておくことが大切である。

一般には次のような場面が教師の出番である。

【教師の出番】

- ・課題提示の段階での課題把握の場面
- ・解決の手立ての見通しを持たせる場面
- ・学習を深めたり内容の定着・発展を図ったりする場面

学年別指導

一般に我々が「複式指導」(※128ページの複式指導関連図参照)と呼んでいる指導方法である。学級を構成している上・下学年の児童に対して、学年ごとの教科書、あるいは指導事項に沿った教材を指導する指導方式で、次の場合に用いる。①同教材指導が困難な系統性の強い教科(算数科、国語科の言語教材、説明文教材など)②児童の発達段階を重視した教材③児童の転出入が予想されており、教材の重なりや落ちが心配される場合など。

類型として、次の2つがある。①異教科の組合せ②同教科、異単元の組合せ。教師はそれぞれの学年の児童に異なる内容を指導するので、一つの学年の指導(直接指導)をしている間は、他の学年は自主的に学習(間接指導)を進めていく必要がある。

(実践例) ・3年国語物語文指導⇔4年国語作文指導

学年差と能力差

複式学級において、同一の学級集団を構成する上位学年と下位学年との間に見られる、心理的・身体的発達段階と学習経験の多少、学習期間の長短に起因する差異をいう。学年差を「学習経験差」ともいう。

複式学級では学年差と共に能力差(個人差)ということが問題になるが、能力差は学年の枠と関係なく学級集団構成員の個々の児童間に見られる学習結果の定着度、技能の習熟度などの差をいう。

学習の手引き

児童が自ら進んで学習に取り組めるようにするためには、児童が学習の手順を理解し、学習に見通しをもてるようにすることが大切である。間接指導の充実を図るために、「学習の手引き」を活用する方法がある。「学習の手引き」には、次のようなものがある。

- 単元の学習の進め方を示したもの。
 - 単元の学習場面における学習内容を具体的に示したもの。
 - 実際の学習場面での学習方法を例示したもの。
- 具体的には、ワークシート、学習プリント、ドリル、辞書など。

間接指導

学年別指導において、それぞれの学年の児童に異なる内容を指導するので、一方の学年に指導している（直接指導）間は、もう一方の学年は、自主的に自分たちの学習を進めていくこと。

完全一本案

2個学年の指導計画内容を1年間で指導できるように教材を精選して単元を構成し、これを2年間繰り返し指導する計画である。ただし、これは指導上の問題点が多いともいわれている。

（例）国語科において、2学年分の単元を1年間に圧縮して単元を構成し、2年間繰り返す。

3年国語「詩を読もう」4年国語「詩を読もう」

※国語・生活・音楽・図工・体育での指導例が多い。

完全複式学級

単式学級を含まず3つの複式学級で編制されたもの。（1・2年、3・4年、5・6年の3つの学級で編制された複式学級。）

協業化

それぞれの地域には、共通あるいは類似の教育課題がある。それを、「地域課題」と呼び、その解決にふさわしい組織を確立し、共同または協働で諸実践に当たってきている。これを、「教育協業化」と呼んでいる。

—協業化の類型化—

〔指導計画・様式〕

①指導計画

- 教育課程（基底）編成
- 教科計画の作成
- 地域教材化計画等

②指導様式

- 指導資料作成
- 学習資料作成

〔教育実践〕

①同一校内

- 協力的な指導組織（T・T）
- 縦割り指導
- 合同授業
- 全校活動（ノン・グレード）

②複数校で

- 集合指導
- 交流学习
- 全村教育

交換授業

2名の学級担任が、ある教科の単元の一部または全部を交換して授業を行うものである。教師の特性を生かした指導を行うことができる。

交流学习

学校規模や生活環境の異なる学校（へき地の小規模校と都市の大規模校など）が姉妹校的な関係を結び、それぞれの学校で経験できない学習を行うこと。交歓学習や合同学習などを通して生活体験を広め、学習意欲の向上及び社会性の伸長を図るとともに、積極的な活力ある人間性を育成することをねらいとするものである。近年では、インターネットやマルチメディアを導入した交流を積極的に展開している学校が多くなってきている。

（例）・海の近くの学校と山に囲まれた学校 ・へき地の小規模校と都市部の大規模校

合同学習（合同授業）

極小規模校において、2個学年の子どもが1つの教室で教育活動することはへき地性の解消にはならない。このため、1つの学校内において学級の枠を超えて、3個学年・4個学年・あるいは全校で一緒に授業を行い、集団の中で考えを練り合わせ、思考力・表現力を伸ばす努力がなされる。1つの学校内で3個学年以上の子どもと一緒に学習する形態をいう。

（実践例） 4・5・6年の合同体育、全校体育、全校音楽

極小規模校

全校児童生徒が10名程度以下、教員数が3名程度の学校を極小規模校と呼んでいる。学級経営において留意すべき点としては、

- ①学級内で指導できるものと学級の枠をはずして指導すべきことを見極める。
- ②「待つ」ことに徹する。
- ③教師も学習者になる。

山村留学

1～2年間長期にわたってその地域で生活し、地元の学校に正式に編入学する制度である。方法としては、地域の「里親」と子どもの保護者が契約して預かってもらい、地元の学校へ通学させる方式が採られている。

シート学習

ペーパー・ワークシートによる学習で、間接指導時の補助的な学習資料と考えられていたシートを授業の中核的な学習資料として、直接・間接指導を問わず活用するようになり、広く、シンクロシート、OHPシートによる学習も意味するようになっている。

自己学習力

複式学級では、隣接学年の指導をしている間、自分で学ぶ力を身に付けなければならない。人に頼らず自分でやるなどの生活の基本ルールや、自分で課題を見つけ、自分の方法で解決していく自己学習の態度や方法を見つけることは、必要かつ重要な事である。

【学び方】

- ①基礎的な学び方（学習のしつけ）
- ②基本的な学び方（学習展開のしつけ）
- ③創造的な学び方（思考の仕方）

これらは、いずれも学ぶ活動の中で体得させていくことが大切である。

集合学習（集合指導）

近隣の複式学級の児童を一か所に集めて各領域の指導計画の一部について学習をする。普段より多い人数で学習できるので、集団の中での練り合いなどが行いやすい。体育科のボールゲームなどでよく取り入れられ、児童の社会性を育てるという面でも役立つ。集団で学習する関係学校の教師の協力教授組織（T・T）を充実させる必要がある。事前の綿密な打ち合わせが不可欠である。

【集合学習の例】

行事名	対象校	対象学年	場所
修学旅行（2校合同）	〇〇小学校	5・6年生	洞爺・函館方面
宿泊体験学習（3校合同）	△△小学校・〇〇小学校	5・6年生	青少年スポーツセンター
交流会（2校合同）	△△小学校	5・6年生学年ごと	△△小学校
芸術教室・講談（3校合同）	〇〇小中学校	全学年	□□小学校
芸術教室・音楽（3校合同）	△△小学校・〇〇小学校	全学年△△小学校	△△小学校
健康プロジェクト	△△小中学校	5・6年（中学生）	□□小学校

指導過程の四段階

「指導過程」は1時間の授業の流れである。かつては、「導入・展開・整理」といわれていた。しかし、これは授業を外側から形式的に見ている。そこで、複式形態の授業を進める際の流し方から四段階が考えられていった。四段階は2個学年が複式で学習する場合、教師が両学年に平等に指導を加えていくために好都合であったからである。四段階とは、①課題設定②解決努力③定着④習熟・応用・評価・発展である。

指導過程の問題となれば、①各指導段階と指導内容の密着②発問内容の重み付け③指導上の留意点の明確化④学習活動への連続的自己診断への配慮等が望まれる。

小規模校

「小学校・中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、…」(学校教育法施行規則第17条第55条)としている。このことから、11学級以下の小中学校を「小規模校」として扱っている。しかし、普通6学級以下の小中学校をいう場合が多い。

小規模性(少人数性)

学校教育法施行規則では、学級数が12～18学級を標準とし、それ以下を小規模校としている。

しかし、近年、児童生徒数は年々減少しており、複式学級を有する学校や分校のみを小規模校として押さえるのではなく、1学級の児童生徒数が10数名の学校を含めて、少人数学級の特性を生かした教育活動の充実を図る必要がある。

例えば、ある学校では、学年や学級の枠組みだけでなく、全校児童生徒による教育活動を計画、特別活動での主体的・自主的活動として異年齢集団による特色ある教育活動を展開し、児童生徒一人ひとりが主役となり成功させている。また、ある学校では、地域の環境(自然・社会・人間)等を生かした体験的な学習を積み上げ、自然とのふれあい、地域社会とのふれあいを通して豊かな感性が培われており、どの子にも「いきいき、はきはき、きびきび」が身に付いている。

こうした実践は、児童生徒数の少ないことを優位な条件として捉え、地域の特性を踏まえ児童生徒一人ひとりのよさや持ち味を生かして教育効果を上げているものであり、まさしく小規模校のよさがここにあるといえる。

ずらし

2個学年を交互に渡り歩いて直接指導と間接指導の内容を充実させ、学習活動を無理なく効率的に行うようにするには、どうしても指導段階を学年別に「ずらした組合せ」が必要になる。この組合せを「ずらし」という。この時、教師は直接指導と間接指導のバランスをとりながら、学習の成立を図らなければならない。

折衷案

この案は、完全一本案、二本案、あるいはその他の要素を組み合わせで立てられる計画であって、これを「折衷案」または「混合案」と呼んでいる。例えば、教材の中で系統性や学年の差がそれほど大きくないものは、A、Bの2年度にわたって、「同内容・同程度指導(A B年度方式)」を行い、系統性や学年の差の明確な教材は「学年別の指導」を行うという計画案の立て方である。この折衷案は、教科の特性、内容の系統性・重要性、あるいは、児童の実態などから検討して、それぞれの指導計画のもつ特性を生かした組合せを考えて計画を立案し、学習効果を高めることをねらったものである。

全習

集合学習において、2校以上の児童生徒が共同で行う学習活動のこと。

縦割り

二本案の場合、2個学年の学習内容を2年間にわたって別々に配列して指導計画を立てる（※127ページ参照）方法である。例えば、5・6年複式において、第1年次は両学年とも第5学年の学習内容を、第2年次は第6学年の学習内容を指導するような指導計画を作成する方法である。

単式学級

複式学級に対する用語であり、同一学年が1学級で編制された学級のことをいう。

直接指導

複式学級の学習指導の展開過程で、児童が直接教師と対面して学習活動を進める場合をいう。

同時導入・同時終末

導入での課題設定、終末での学習の振り返りを2個学年共通で行っていたが、限られた単元でしか実践できない。

同単元指導

複式学級の教科指導で展開されてきた学年別指導の問題点を補うために実践化されてきたもの。この指導方法の特徴は、同一時間内に複数学年の児童が同じ単元（題材・主題など）を用いて同じような学習活動を行うこと。児童にとっては、より単式に近い学習ができ、互いに協力したり話し合ったりなどの活動ができる。また、教師にとっては、指導の容易性、効率化、深化をめざすことができる。しかし、今までの発達段階も学習経験（レディネス）も違う児童を同時に指導することから、それぞれの学年の目標や評価について、配慮した指導方法を工夫する必要がある。

[留意事項]

- ・同単元指導を、複式指導の単式化という短絡的な考え方をしない。発達段階が大きく違うということを前提としておかねばならない。（指導内容や評価での配慮）
- ・教科・教材・指導内容等の特質を十分考えておく。何でも同単元指導ができるわけではない。算数のように系統的に積み上げないと学習できない教科もある。
- ・同単元指導は、基本的に2年間というサイクルでのカリキュラム編成である。単式になったり複式になったりなどの変則的な場合や転出・転入などの突発的な事態には対応しにくい。
- ・指導すべき内容が指導されてなかったり（新出漢字の学習等）、不十分だったりしないよう配慮すべきである。2個学年分の教科書や教材の準備等に配慮が必要である。
- ・保護者の十分な理解が必要である。

同単元指導一本案学級を構成している上学年と下学年が、それぞれの学年の指導目標を達成できるように、教科の同じ領域や分野の教材をできるだけ学年ごとに同じ指導時間に対応させて配列する。2年間を単位とした関連ある教材によって上学年と下学年が同じような学習を展開する指導計画のこと。

同単元指導二本案

学級を構成している上学年と下学年の教材を併せて、A年度（第1年次）、B年度（第2年次）に平均して分けて、指導内容の順序性や系統性などを考慮し、2つの1年間単位の指導計画にする。年度ごとに教材が入れ替わることになり、いずれの年度においても上学年と下学年が同時に目標あるいは共通目標のもとで同じ教材で学習活動を展開する指導であり、2年間を単位にして学習が完結するように年間指導計画を作成する。（同内容・同程度で教材を構成、年度（A B年度）ごとに教材が変わる。）

同時間接指導

複式学級においては、間接指導を充実するために、例えば、児童一人一人に的確な対応をするため両学年を「小わたり」して両学年の学習状況を見取るようにする。また、両学年が解決努力の段階で、両方の学年の児童一人一人の学習状況を見取るようにすること。

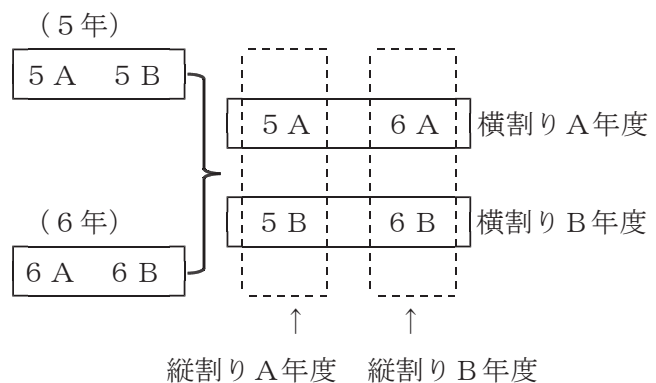
同程度指導

1単位時間の指導過程において、上下学年に対して同単元（題材・教材）を指導していくとき、取り扱う教材が同じで、しかも学年差をあまり考慮しない同一の学習活動を展開する指導をいう。上学年と下学年の能力差がほとんどない状態の場合や系統性・順次性のあまり厳しくない単元によく行われる。

同内容指導

1単位時間の指導過程において、上下学年に対し同単元（題材・教材）を指導していくとき、取り扱う教材が上下学年ともに同一である場合の指導をいう。同じ教材を用い、次時指導の観点を設定して授業を組み立てたとしても上下学年それぞれの指導事項を生かす場面を設定するなどの試みも提唱強調されてきている。従って教材の展開過程のどこかに学年別の学習活動を位置付けたり、特に個別指導に対する配慮も明らかにすることが大切である。

〈同内容の組み合わせ方法概略〉



二本案

上下学年の学習指導内容を第1年次、第2年次（A・B年次）に配分し、第1・第2年次ともに両学年を同時に、同教材（同内容）で指導する指導計画。指導内容を両学年に配分する場合、「縦割り」と「横割り」がある。

一人学習

児童一人一人が、課題を解決するのに読んだり、調べたり、観察したり、計算したり、操作したりしながら、自らの能力を出しきって結果を生み出す学習や、習得した知識・技能を活用して、新たな課題を解決していく学習を「一人学習」という。小規模校にあっては、1学年1名しかいなかったり、2名いても能力差があまりにも大きく、一人で学習するしかない実態も出てきている。個別学習は、グループ学習や一斉学習の形態との関連で考えられているのに対し、一人で学習するしかない場合を「個人学習」と呼ぶ場合がある。この個人学習の場合でも、思考の練り合わせなど集団的な学習方法を生み出す必要がある。

複式学級

複式学級とは「児童数が少ないため1学年の児童だけで学級を編制できない場合に、同一学級に2個学年を収容して編制する学級」をいう。（学校教育法施行規則第19条）・（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第3条）次の特質が挙げられる。①学級編制基準により2つの学年で構成される学級であることから、個人（能力）差と学年差が生じる。（学習経験だけでなく生活経験においても1年間の差がある。）②教育課程の編成の特例により、学年別によらない指導計画を工夫することができる。③一人の指導者が2学年同時に指導することから、指導計画によっては、学習指導過程を工夫しなければならない。④上学年と下学年を交互に体験することになるので、よきリーダーとよきフォロワーの立場が経験できる。反面、ともすると学級内に学年意識が入り込みやすく、上下関係が強調されるなど、学習指導や生徒指導の上での配慮が必要である。こうした異学年集団による体験は、人間形成の上でも大切な要素であり、地域の特性を取り入れ児童一人ひとりを生かす教育の実現に向け、学級経営と複式における学習指導の実践研究が強く求められているところである。

複式学級の学習指導過程

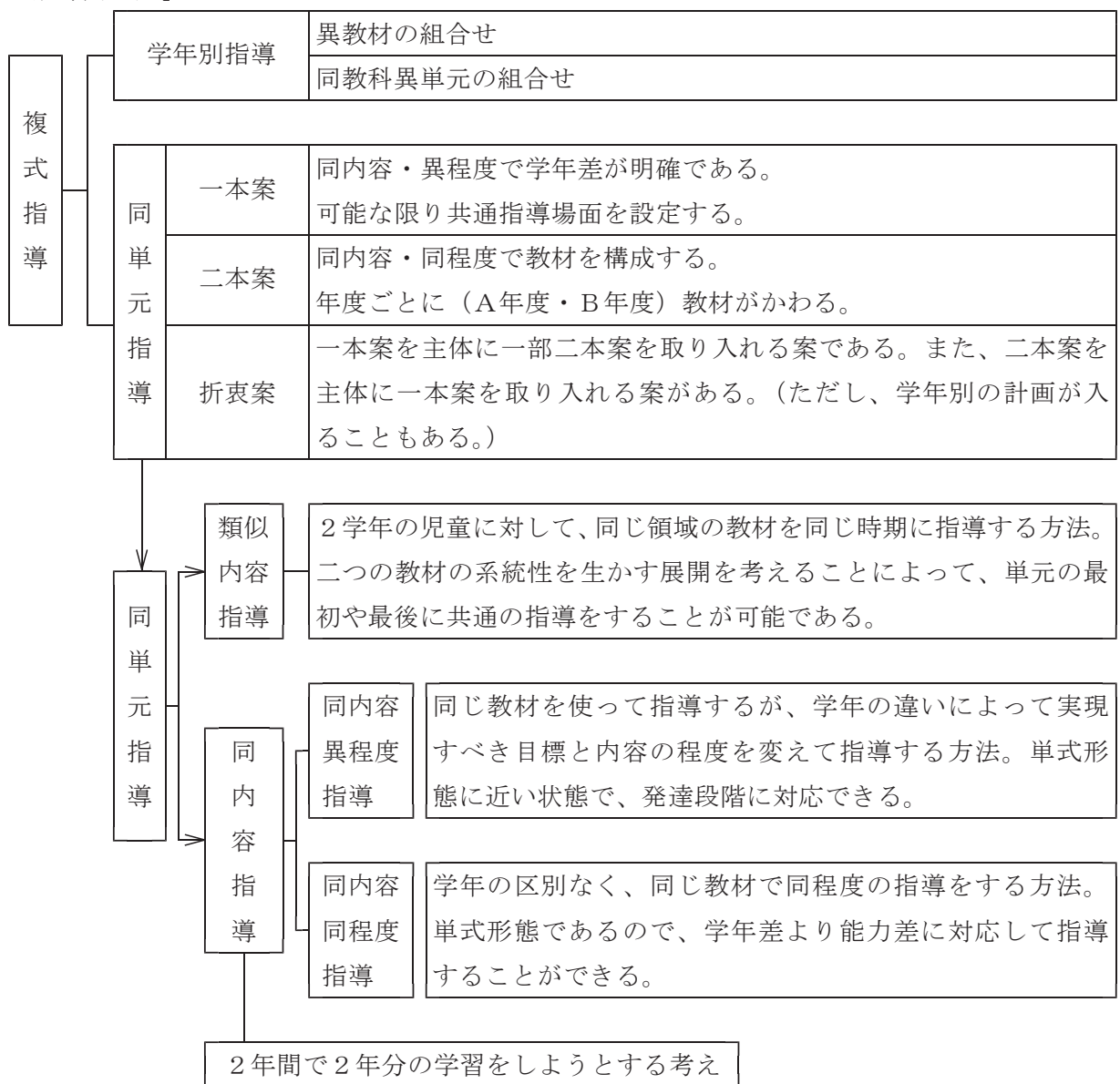
複式・少人数学級における学習指導過程は、学習する教科や内容、指導方法によりさまざまであるが、児童が毎時間具体的に課題を解決するための基盤となるものである。複式指導を効果的に進める学習段階として、一般的に次のような学習プロセスが考えられる。①問題把握（課題設定）…本時のねらいを明確につかみ、意欲を持たせる②課題追求（解決努力）…仮説を持ち方法を考え解決に向かって努力する。③解決・定着（定着）…解決した結果を確かめ、類似の問題を解きまとめる。④適用・発展（習熟・応用・評価・発展）…発展的な課題の解決に努めたり、適用場面を考える。

複式学級の授業

複式学級の学習指導過程は、単式学級の学習指導過程と本質は同一である。単式学級と異なるのは、複式学年の児童生徒を同時に指導しなければならないということである。また、人数が少ないために起こる学習の制約もあるので、それぞれ特別な配慮が必要である。通常、複式学級の

学習指導過程は、教科と教材の特質、児童生徒の実態や授業のねらいに沿って基本的パターン化が図られているが、その際次のような基本的なとらえ方が必要である。①教師が教え込むという立場でなく、児童生徒自らが学んでいく立場から学習指導過程を組むようにする。②2個学年の学習内容を分析し、類似内容指導、同内容指導を明確にする。③一斉指導に終始することがないように、学習形態や資料、教材、教具の工夫をし、一人ひとりが意欲的に学習に取り組むようにする。④学習の進行に必要な約束を明確にし、複式指導の中で、児童生徒だけでも学習が進められるように学び方を定着させる。

【複式指導関連図】



複式学級編制基準

青森県の場合、編制基準は（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第3条）に準拠しており、「小学校は、引き続き2の学年の児童数の合計が16人以下の場合1学級編制とする。ただし、第1学年の児童を含む学級にあつては8人以下を1学級編制とする」。「中学校では、8人以下は1学級編制とする。」ことになっている。

複式教育

複式学級の指導に関する教育のことである。また、その授業に関する指導を「複式指導」と呼んでいる。へき地指定を受けていない学校においても複式学級があるので、「へき地教育」と同義語として使用してはならない。

複線型指導過程

単式の授業は、同一学年を対象として、同一の指導目標の到達を目指して展開されるのが普通である。その場合の指導過程は、直接指導によって単線的になされていく。それに比べて、複式の授業は、2個学年以上を対象とし、特に異題材、異程度指導をする場合になると、指導目標が複数の設定になり、学年を交互にわたり歩いて、直接指導を行っていかざるを得ない。この特殊な複式授業の展開は、児童生徒の学習の筋道が、複数になっていることに特徴があり、その過程が複線的に進行することからこの用語が生まれた。視点としては、次の5点が挙げられる。①各学年の指導目標が行動目標としてかみくだかれ、到達度の評価が具体的・客観的にできるような設定の仕方を考える。②直接指導と間接指導のねらいを、目標到達のためのステップとして、目標の実現ができるような位置付けの工夫をする。③児童・生徒が主体的に学べるだけの意欲や学習技能の向上を図るよう工夫する。④教育機器や学習資料、教材教具等による学習方法を機能的に位置付ける。どんな場面でどのように利用すれば、どんな反応を引き起こせるかを実践的に明らかにしていく。⑤話し合い学習を、深まりのあるものにしていく指導の在り方を考える。

ふるさと学習（郷土学習）

ふるさと（郷土）の自然・歴史・伝統・文化・産業などの教育環境を学校の教育計画に生かし、ふるさと（郷土）に対する理解を深めさせるとともに、ふるさと（郷土）への愛着心を育成することを目指した、学校・家庭・地域社会が一体となって推進する教育活動のこと。

分習

集合学習において、効果をあげるために各学校で行われる事前事後の学習活動のこと。

へき地学校

へき地学校については、「へき地教育振興法」（昭和29年制定）で、「交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地、離島その他の地域に所在する公立の小学校及び中学校並びに学校給食法第5条の2に規定する施設（共同調理場）」と定義されている。

へき地学校等の指定

へき地学校の指定は、1級から5級までの級別がある。（へき地教育振興法施行規則第3条）これらの級地の指定は、算定された「基準点数」と「付加点数」の合計点数に応じて定められており、5級地が最もへき地度が高くなっている。また、点数が1級に満たないが、これに近い学校に対して「準へき地」（へき地教育振興法施行規則第3条2項）「特別地」などの指定がなされている。

へき地教育

へき地教育振興法の第二条にいう「交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地、離島その他の地域に所在する公立の小学校及び中学校並びに中等教育学校の前期課程」の教育をさす。

へき地教育の三特性

「へき地教育」は、「へき地の指定を受けた学校における教育」として捉えられており、「へき地性」「小規模性」「複式形態」の三特性があるとされている。

へき地性

一口に「へき地」といっても、共通点をもちながらも、そこは農村へき地、山村へき地、漁村へき地、都市近郊へき地などが混在している。

変則複式学級

低・中・高のいずれかの学年をまたいだり、欠学年や単式学級があるために低と高などの編制による複式学級。（低学年と中学年、低学年と高学年、中学年と高学年の編制がある。）

見守り型支援

複式の授業では、これまで多くの場合、教師が学年の間を移動する「わたり」が行われるものとされ、間接指導の中で子どもたちがいかに主体的に学習できるようになるかという方向で研究がなされてきた。この考え方を更に進め、教師が、両学年の児童が自分たちの力で主体的に学習を進めるのを同時に見守りながら支援していく授業形態のこと。

無学年指導（全校〇〇）

極小規模校において、各個人の能力を重視し、子ども一人一人の可能性を最大限に伸ばすことができるように、学年の枠を外して学習段階ごとに個人に応じた指導を実施する学習形態。体育・音楽などの指導時に多く活用される。

横割り

二本案の場合、領域・分野の中で系統性を考慮して、2個学年の学習内容を混合、配列して指導計画を立てる方法（※128ページ「二本案」参照）である。

リーダー学習

ガイド学習を成立させるためには、ガイドの育成が何より重要である。しかし、「ガイド育成系統表（※118ページ参照）」に見られるようなガイドの育成には時間がかかり、十分なガイド学習の定着が難しいという現実があった。そこでガイド学習へ移行する前段階としての「リーダー学習」が多くの学校で取り入れられている。ガイド学習におけるガイドは、教師との打ち合わせにより学習全体を通した学習手順も把握し、単なる学習の進行役だけでなく学習を創り上げていくという側面が強かった。しかし、リーダー学習におけるリーダーは、主として間接指導時での進行役という側面が強い。

リーダー学習の意義

①児童の自主的・主体的な学習態度の育成②児童への学習の流れ（学習過程）の理解③児童の学び方（自己学習力）の定着④教師の学習指導へのゆとりと充実⑤教師の指導観・授業観の改善⑥複式の間接指導の充実⑦リーダー、フォロワーの役割や立場の理解

学習リーダーによる授業を効果的に行うには、児童に学習の主体者であるという自覚を持たせることが大切である。そのために、学習をするのは自分たちであり、自分たちの手で授業を進め、自分たちの手で課題を解決するという意欲を高めることが重要となる。

リーダー学習の展開例

一般にリーダー学習は次のように展開される。

①課題把握の段階（主に直接指導）

- | | |
|---|--|
| ア | 前時の学習の想起
前時の学習課題と学習事項等が、各自のノートや掲示物等から発表できるようにする。 |
| イ | 課題把握
教師が課題等を提示し、説明や分析等により本時の学習課題を把握させる。（全員が取り組める課題、半分ぐらいの子が取り組める課題など、複数の課題を一度に与える。） |
| ウ | 課題解決を見通し、次の一人学習で全員が取り組めるように解決方法の見通しを立てさせる。（すぐに終わってしまったり、活動が停滞したりしないように） |

②解決努力の段階（主に間接指導）

- | | |
|---|--|
| ア | 学習リーダーが「一人学習」の時間を設定する。
「一人学習」の時間は、概ね5～8分程度とする。 |
| イ | 全員が課題に取り組み、教科書やノートに記入する。
書く活動などの作業が伴うことが望ましい。 |
| ウ | 学習リーダーが「一人学習」の終了と「グループ学習」開始を指示し、時間設定をする。決められた時間が来たら途中であっても「一人学習」を止める。 |
| エ | リーダーを中心に課題について全員が発表する。
この場面では、全員発表をめざし、答えや考え方を1つにまとめさせないようにする。
この後の直接指導を想定し、黒板・ボード・タブレットなどを活用する。 |

③深化・定着段階（主に直接指導）

一番望ましいのは、リーダーを中心に児童だけで、発表した内容についての吟味ができることである。少なくとも整理したり、種類分けしたり、感想や意見を述べ合ったりするまでは、可能な限り自主的にやらせることが望ましい。

最終的には、教師の「ゆさぶり発問」などによって、さらに違った面からの意見を出させたり、重要な点をまとめたりなどの「押さえ」が必要である。

④習熟・応用・発展の段階（主に間接指導）

プリントやワークシート、教科書の問題等で5～6分程度でできる課題（問題）を提示する。「一人学習」あるいは「グループ学習」として答え合わせが終わるまでを想定する。

本時の学習課題や学習事項をノートにまとめ、次時の学習につなげるようにする。

両学年同時間接指導

複式学級においては、間接指導を充実するために、例えば、児童一人一人に的確な対応をするため両学年を「小わたり」して両学年の学習状況を見取るようにする。また、両学年が解決努力の段階で、両方の学年の児童一人一人の学習状況を見取るようにすること。

両学年同時直接指導

導入での課題設定、終末での学習の振り返りを2個学年共通で行うことだが、限られた単元、限られた時間でしか実践できない。

類似内容指導

同じ教科の学習において、上下学年に類似した内容を扱い指導するもの。この指導類型においては、共通の指導場面を設定することにより、複式学級に一体感が生まれ学習意欲が高まるなどの効果がある。

わたり

学習指導では、直接指導と間接指導のバランスを取りながら、学習の成立を図らなければならない。教師は、その場合、直接指導と間接指導の組合せの計画にしたがって、ある学年から他の学年へ、交互に移動して直接的な指導をしていくことになる。この両学年交互に移動して指導していく教師の働きを「わたり」という。また、間接指導の方にも、時々目を配りながら指導を進める場合もあり、これを「小わたり」といっている。

〔Q&A・用語集 引用・参考資料〕

- ・北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター 編集・発行
『へき地・複式・小規模教育の手引ー学習指導の新たな展開ー』（令和3年3月発行）
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/20210319164516.pdf>
- ・北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター
複式学級における学習指導の手引編集委員会
『複式学級における学習指導の手引(改訂版)』平成28年3月
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/p1-34.pdf>
- ・『複式学級学習指導資料』愛媛県教育委愛媛県教育委員会義務教育課
<https://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/src/02shidou/fukushiki/index.html>
- ・『学習指導の進め方ガイド』平成26年度版 岩手県立総合教育センター
http://www1.iwate-ed.jp/tantou/kyouka/h26_1405_2.pdf
- ・『複式学級のための資料集～5つの実践例と10のQ&A』岩手県教育委員会
https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/371/h29hukusiki0326.pdf
- ・『平成29・30年度指導資料集第39集 へき地・複式ハンドブック（一般編）』
青森県教育委員会 平成31年3月
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/H30_hekifukuhandbook39.pdf

令和2・3年度指導資料第40集
へき地・複式教育ハンドブック（事例編）

作成委員

青森市立大栄小学校	教諭	小笠原 隆
深浦町立いわさき小学校	教諭	棟方 いづみ
平川市立大坊小学校	教諭	山本 裕規
十和田市立洞内小学校	教頭	本堂 薫
	教諭	向中野 恵美
むつ市立正津川小学校	教諭	筒井 直子
南部町立名川南小学校	教諭	澤藤 和哉
東青教育事務所	指導主事	安保 泰仁
西北教育事務所	指導主事	原 倫子
	指導主事	菊地 和恵
中南教育事務所	指導主事	森谷 卓生
	社会教育主事兼指導主事	栗林 基由
上北教育事務所	指導主事	小林 忠輝
	指導主事	豊川 るみ子
下北教育事務所	指導主事	新松 美代子
三八教育事務所	指導主事	滝田 敏広

なお、青森県教育庁学校教育課が編集に当たりました。

令和2・3年度指導資料第40集

へき地・複式教育ハンドブック（事例編）

令和4年3月

編集・発行

青森県教育委員会

